水戸市埋蔵文化財調査報告書　第117集

台渡里22

二〇一一

水戸市教育委員会

水戸市埋蔵文化財調査報告第117集

# 台渡里22

## ― 宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（台渡里第79次）―

２０１１

水戸市教育委員会

# 台 渡 里 22

— 宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（台渡里第 79 次） —

２０１１

水戸市教育委員会

# ごあいさつ

台渡里官衙遺跡群は，那須茶臼岳を水源とする那珂川下流域右岸の台地上に位置する古代常陸国那賀郡の官衙跡・寺院跡です。県内でも最古級の寺院跡を含む広大な古代遺跡として県外からも多くの注目を集め，現在，その一部は国の史跡として指定され，恒久的な保存と継続的な活用に向けて検討を進めているところでございます。

周辺には国史跡「愛宕山古墳」をはじめ，堀遺跡，西原古墳群，渡里町遺跡など数多くの古代遺跡が立地しており，古くから政治・宗教・文化の中心地であったと考えられます。

歴史的文化遺産である文化財は，一度は破壊されると二度と原状に復すことができないため、現代を生きる私たちが大切に保存しながら，後世へと伝えていかなければならない貴重な財産ですが，都市化の様相が強まる中で，特に埋蔵文化財の現状保存は非常に困難になりつつあります。

本市においては，市民の生活安全・衛生とのバランスを考慮しつつ，文化財の意義や重要性を踏まえ，文化財保護法及び関係法令に基づいた保護保存に努めているところです。

このたび，当該遺跡内に宅地造成工事が計画されました個所の周辺におきましては，那賀郡の役所に税として集められた穀物等を収納しておく倉庫とみられる礎石建物跡や掘立柱建物跡をはじめ，7世紀後半に創建が開始された台渡里廃寺跡の造営集落を構成するとみられる竪穴建物跡群のほか,「郡厨」と記銘された古代の墨書土器等，貴重な遺構・遺物が確認されております。

今回の調査は，道路部分を対象とした限定された範囲ではあったものの，周辺の調査で確認されていた柵列の延長部分のほか，巨大な版築遺構や竪穴建物跡などが検出され，官衙や寺院に関連する遺構・遺物の広がりを捉えることができました。

ここに刊行する本書が，かけがえのない貴重な文化財に対する意識の高揚と学術研究等の資料として，広く御活用いただければ幸いです。

終わりに，本調査に当たり多大な御理解と御協力をいただきました事業者様，並びに関係機関の皆様方に心から感謝を申し上げます。

平成23年12月

水戸市教育委員会
教育長　鯨岡　武

# 例　言

1．本書は，宅地造成工事に伴う台渡里官衙遺跡（第79次調査）の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は，水戸市教育委員会指導のもと，株式会社東京航業研究所が実施した。

3．調査概要及び調査組織は下記の通りである。

**所　在　地**　水戸市渡里町字前原2867番地

**調 査 面 積**　288.9㎡

**調 査 期 間**　平成23年1月20日～平成23年2月5日

**調 査 指 導**　水戸市教育委員会（教育長　鯨岡　武）

**調 査 担 当**　折原　覚（株式会社東京航業研究所）

**調査参加者**　石川　勉，加藤利男，小山司農夫，河原井俊一郎，鈴木俊一，高柳悦子，飛田邦夫

**整理参加者**　今井千恵，大橋正子，村山彩子

4．本書は，川口・折原が分担して執筆し，川口の助言・指導に基づいて折原が編集を行った。

5．出土遺物及び図面・写真などの記録類は，報告書刊行後一括して水戸市埋蔵文化財センターにて保管する。

6．発掘調査から本書の刊行に至るまで，下記の方々・諸機関より御教示・御協力を賜った。記して深く謝意を表したい（敬称略・順不同）。

江藤隆博，斉藤弘道，田中　裕，土生朗治，長井光彦，東新建設株式会社，茨城県教育庁文化課

# 凡　例

1．文中に掲載した実測図の縮尺は、原則として次の通りである。

全体図1/200　遺構図1/30～1/60　土器1/3　土器拓影1/3　瓦1/3

石製品1/3　鉄製品1/3

2．遺構実測図中のレベルは海抜高、方位は座標北を示す。

3．写真図版は原則として土器類1/3，瓦1/3，石製品1/3，鉄製品1/3とした。

4．遺物番号は本文，挿図，写真図版と一致する。

# 目　次

第１章　調査に至る経緯と経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　1－1　調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　1－2　発掘作業の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　1－3　整理等作業の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
第２章　遺跡の位置と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　2－1　地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　2－2　歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
　2－3　台渡里官衙遺跡群における既往の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
第３章　調査の方法と成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
　3－1　調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
　3－2　基本土層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
　3－3　遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
　3－4　遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
第４章　総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52
引用・参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
写真図版
報告書抄録

# 挿図・表目次

第 1 図　台渡里官衙遺跡の位置 ・・・・・3
第 2 図　台渡里官衙遺跡と周辺遺跡の位置 4
第 3 図　基本土層図 ・・・・・・・・・・・14
第 4 図　調査区の位置 15 第 5 図　調査区方眼図 ・・・・・・・・・・・・・・16
第 6 図　1号・2号竪穴住居跡，1号掘立柱建物跡 ・・・・・・・・18
第 7 図　3号竪穴住居跡，2号掘立柱建物跡 ・・・・・・・・19
第 8 図　3号竪穴住居跡カマド ・・・・・20
第 9 図　4号竪穴住居跡 ・・・・・・・・21
第10図　1号版築遺構 ・・・・・・・・・22
第11図　1号溝 ・・・・・・・・・・・・23
第12図　1号柵列 ・・・・・・・・・・・24
第13図　1号ピット列 ・・・・・・・・・・24
第14図　出土遺物（1）・・・・・・・・・・27
第15図　出土遺物（2）・・・・・・・・・・28
第16図　出土遺物（3）・・・・・・・・・・29
第17図　出土遺物（4）・・・・・・・・・・30
第18図　出土遺物（5）・・・・・・・・・・31
第19図　出土遺物（6）・・・・・・・・・・32
第20図　出土遺物（7）・・・・・・・・・・33
第21図　出土遺物（8）・・・・・・・・・・34
第22図　出土遺物（9）・・・・・・・・・・35
第23図　出土遺物（10）・・・・・・・・・・36
第24図　出土遺物（11）・・・・・・・・・・37
第25図　出土遺物（12）・・・・・・・・・・38
第26図　出土遺物（13）・・・・・・・・・・39

第27図　出土遺物（14）・・・・・・・・・40
第１表　台渡里官衙遺跡と周辺遺跡一覧　・５
第２表　台渡里官衙遺跡群における
　　既往の調査　・・・・・・・・・・11
第３表　出土遺物属性一覧　・・・・・・・41
第４表　出土瓦属性一覧　・・・・・・・・50
第５表　出土遺物計量表　・・・・・・・・51

# 図版目次

図版１　調査区全景
図版２　テストピット・竪穴住居跡の遺構調
　　査状況
図版３　竪穴住居跡の遺構調査状況
図版４　掘立柱建物跡・版築遺構の遺構調査
　　状況
図版５　版築遺構・溝・柵列・ピット列・
　　拡張区の遺構調査状況
図版６　出土遺物（１）
図版７　出土遺物（２）
図版８　出土遺物（３）
図版９　出土遺物（４）
図版10　出土遺物（５）
図版11　出土遺物（６）
図版12　出土遺物（７）
図版13　出土遺物（８）
図版14　出土遺物（９）

# 第１章　調査に至る経緯と経過

## １－１　調査に至る経緯

平成22年11月10日付けで篠原　賢（以下，事業者という）より，埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会が提出された。照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地「台渡里遺跡（後に台渡里官衙遺跡に名称を変更）」の範囲内に該当していたことから，周知の埋蔵文化財包蔵地において土木工事を実施するにあたり，工事着工の60日前までに，文化財保護法第93条第１項に基づく埋蔵文化財発掘の届出を茨城県教育委員会教育長（以下，県教委教育長という）あて，提出する必要があること，遺跡の発掘調査や現状保存を必要とする場合には，原因者の協力をお願いする旨，回答した（平成22年11月13日付・教埋第524号）。

その後，試掘調査の依頼を受けて，平成22年11月30日に試掘調査を実施した。開発対象地内のうち，位置指定道路部分にトレンチを４か所設定し，遺構確認面である関東ローム層上面まで掘削した。調査の結果，３か所のトレンチで竪穴住居跡・柱穴・溝跡と考えられる遺構が検出されるとともに，土師器や須恵器，鉄滓等が多数出土した。

位置指定道路部分で遺構・遺物が確認され，茨城県埋蔵文化財発掘調査取扱い基準原則Ⅲの「恒久的な工作物の設置により相当期間にわたり埋蔵文化財と人との関係が絶たれ，当該埋蔵文化財が損壊したのに等しい状態となる場合」に該当してしまうため，事業者と計画変更及びその保存について協議を重ねた。しかしながら，計画変更は困難であるとの結論に達したことから，今般の土木工事については，位置指定道路部分を対象とした記録保存を目的とした本発掘調査の実施が相当である旨の意見書を付して，県教委教育長へ届出を進達した（平成22年12月２日付・教埋第527号）。

この届出に対し，県教委教育長から事業者あて，位置指定道路部分については工事着手前に発掘調査を実施すること。調査の結果，重要な遺構が発見された場合には，その保存について別途協議を要すること。宅地部分については，慎重に施工するよう指示・勧告があった（平成22年12月10日付・文第1678号）。これを受けて，事業者は株式会社東京航業研究所と委託契約を締結し，平成23年１月20日から発掘調査を実施することとした。

（川口）

## １－２　発掘作業の経過

発掘調査は平成23年１月20日から平成23年２月５日までの約２週間にわたって実施した。

１月20日より表土除去および遺構確認作業を開始した。翌21日に竪穴住居跡４軒，柵列遺構１条，ピット列１基，版築遺構１個所の分布を確認し，同日より順次，遺構の調査に入った。このうち，調査区南側に位置する版築遺構については，性格や分布状況が不明瞭であったことから東西15ｍ，南北10.5ｍのサブトレンチを設け，精査に努めた。１月31日と１月１日には掘立柱建物跡２棟の調査および，調査区中央部東側１号テストピットの基本土層確認作業を行った。

２月２日に遺構の写真測量と全体写真撮影を終了し，３日より埋め戻し作業を開始した。さらに５日には調査区南側と西側に１・２号拡張区を設け，版築遺構の分布範囲を確認したのち，すべての作業を完了した。

（折原）

## １－３　整理等作業の経過

整理作業は平成23年２月７日より同年11月30日までの約10ヶ月間にわたって実施した。

２～３月期には遺物の洗浄･注記･接合作業と並行して，写真測量した遺構の図化作業をＳＴＰ（デジタル図化解析機）を用いて行った。

４～10月期には遺構図面修正・トレース，遺物実測・トレース，遺物写真撮影，図版作成，原稿執筆などの作業を行い，10月27日より11月30日にかけて報告書編集作業を実施した。　（折原）

# 第２章　遺跡の位置と環境

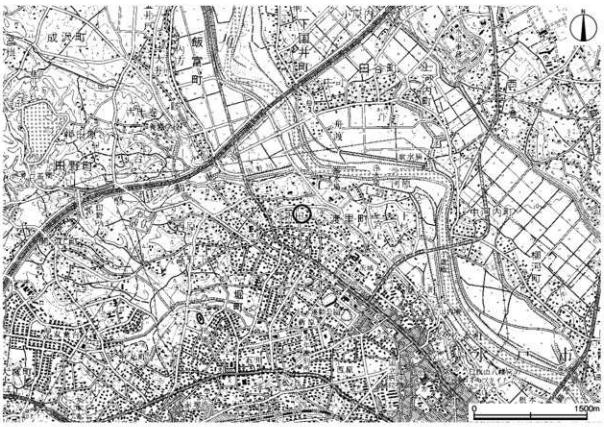
## ２－１　地理的環境

台渡里官衙遺跡は，茨城県水戸市渡里町字前原2867番地に所在し，北緯36度24分17秒，東経140度26分15秒（世界測地系）である。

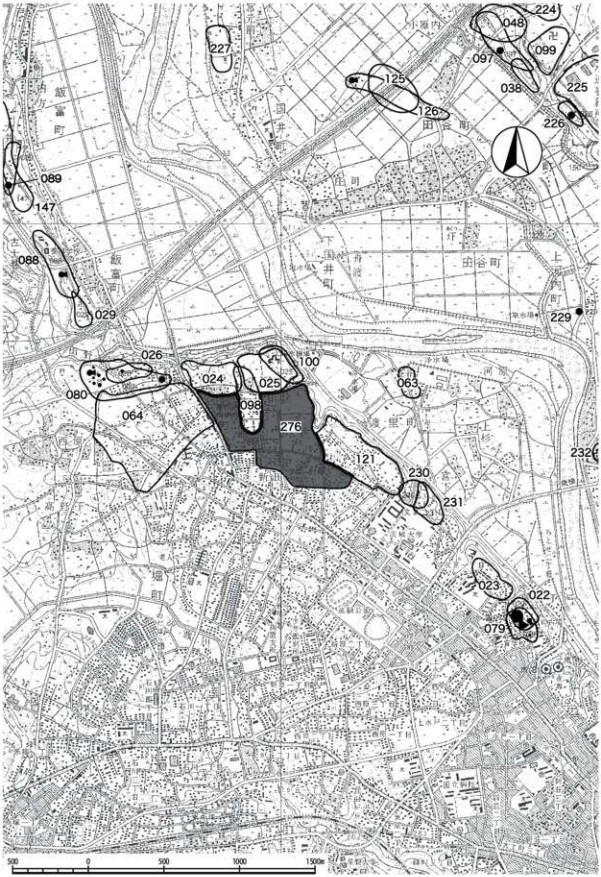
**市域の概観**　水戸市は，日本最大を誇る関東平野の北東部に位置する。市域の北部には，八溝山地を横切り，鷲子山塊と鶏足山塊とを南北に分かち，西から東へ流れる那珂川とその支流により沖積低地が広がり，これに沿うように東茨城台地が太平洋に向かって突き出している。東茨城台地はその西端で八溝山地の外縁にあたる丘陵へとつづき，市域西部を構成している。

その下流域右岸の大半を水戸市域とする那珂川は，栃木県の那須連山を源流として，八溝山地の西縁を南へ流れた後，烏山の南から方向を東へ変えて八溝山地を横断し，今度は御前山を背にして南東へ方向を変えて那珂台地と東茨城台地の間を太平洋へ向かって流れ出る。この那珂川の存在により，栃木県域に広がる那須野原や喜連川丘陵などの内陸部と太平洋沿岸部とが，水上交通により結ばれることから，歴史的に水戸市域が交通の要衝地となることが多かったことが知られる。

**市域の地形区分**　市域の西部では，標高300m以下の低く起伏の小さい丘陵地帯が続く。これらは幅広で丸みを帯びた尾根と谷津田が谷奥まで認められる谷が樹枝状に入り込むのが特徴的で，良好な里山の景観を残している。縄文時代前期から中期にかけてのいわゆるキャンプ・サイトと古代～近世




第１図　台渡里官衙遺跡の位置　（国土地理院発行１：50,000「水戸」に加筆）




第２図　台渡里官衙遺跡と周辺遺跡の位置　（茨城県遺跡地図１：25,000「水戸」に加筆）

第１表　台渡里官衙遺跡と周辺遺跡一覧

| No. | 遺跡名 | 種別 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 22 | 愛宕町遺跡 | 集落跡 | 縄文土器（早～後）・石斧・石鏃・土偶，弥生土器（後），土師器・須恵器（古） | |
| 23 | 文京１丁目遺跡 | 集落跡 | 縄文土器（早～後）・石斧・石剣・土偶，弥生土器（後），土師器（古前），須恵器（奈・平） | |
| 24 | アラヤ遺跡 | 集落跡 | 尖頭器（先），縄文土器（早～晩）・石斧・石剣・土偶，土師器（古・奈・平），須恵器（奈・平） | |
| 25 | 長者山遺跡 | 集落跡 | 縄文土器（早～後），弥生土器（後），土師器（古・奈・平） | |
| 26 | 西原遺跡 | 集落跡 | 縄文土器（早～後），土師器（奈・平），須恵器（奈・平） | |
| 27 | 河川遺跡 | 集落跡 | 縄文土器（中～後），土師器（古），土師器（奈・平） | |
| 38 | 梵天遺跡 | 集落跡 | 縄文土器（早～後），弥生土器（後），土師器（古前・後） | |
| 39 | 権現山遺跡 | 集落跡 | 縄文土器（前），弥生土器（後），土師器（古前・後） | |
| 40 | 平塚遺跡 | 集落跡 | 縄文土器（中～晩）・石鏃・土偶，弥生土器（後），土師器（古），須恵器 | |
| 46 | 軍民坂遺跡 | 集落跡 | 槍型（先），縄文土器（前～後）・土器片錘・石製品，弥生土器（後），土師器・須恵器（奈・平） | |
| 47 | 富士山遺跡 | 集落跡 | 弥生土器（後），土師器（古），須恵器 | |
| 48 | 小原内遺跡 | 集落跡 | 縄文土器（中～後），弥生土器（後），土師器（古・奈・平） | |
| 63 | 圷渡里遺跡 | 集落跡 | 土師器・須恵器（古・奈・平） | |
| 64 | 黒遺跡 | 集落跡 | 弥生土器（後），土師器（古前・奈・平），須恵器・灰釉陶器・砥錘車・砥石・鉄鏃・鉄鎌・刀子・釘・瓦（奈・平），内耳土器・土師質土器・常滑焼・鍋鉢・石臼（中），瓦質土器・植器（近） | |
| 65 | 中河内遺跡 | 集落跡 | 古墳（前），土師器（奈・平） | |
| 79 | 愛宕山古墳群 | 古墳群 | 円筒埴輪・形象埴輪・鉄刀（古） | 方円１（2），円墳１（2） |
| 80 | 西原古墳群 | 古墳群 | 土師器・円筒埴輪・須恵器・勾玉・管玉・丸玉・銅玉・鉄鏃・鉄族（古） | 方円１，円墳８（11） |
| 94 | 権現山古墳群 | 古墳群 | | 円１（2） |
| 95 | 権現山横穴群 | 横穴群 | 土師器・須恵器・水晶製切子玉・ガラス製小玉（古） | 横穴（4） |
| 96 | 富士山古墳群 | 古墳群 | 土師器・円筒埴輪・人物埴輪（古） | 方円１（7），円８ |
| 97 | 小原内古墳群 | 古墳群 | 円筒埴輪・形象埴輪・直刀（古） | 方円１，円２（4） |
| 98 | 台渡里廃寺跡 | 寺院跡<br>官衙跡 | ナイフ形石器・男女倚型有銘尖頭器・剥片（先），縄文土器（前・後～晩）・石器，弥生土器（後），土師器・須恵器・墨書土器・瓦・文字瓦・瓦塔・陶製相輪・金箔製品・鉄釘・銅・青銅製品・鉄滓・羽口（奈・平），土師質土器（中）・内耳土器（中） | |
| 99 | 田谷廃寺跡 | 官衙跡 | 土師器・須恵器・瓦・文字瓦（奈・平） | |
| 100 | 長者山城跡 | 城館跡 | | |
| 121 | 渡里町遺跡 | 城館跡 | 縄文土器（早・中・後），土師器（古・奈・平），須恵器・灰釉陶器（奈・平） | |
| 125 | 塚宮遺跡 | 集落跡 | 縄文土器（中・後），弥生土器（後），土師器（古前・後） | |
| 126 | 塚宮古墳群 | 古墳群 | | 方円（1），円（2） |
| 224 | 静川遺跡 | 集落跡 | 縄文土器（中・後），土師器・須恵器・石製品・土製品・鉄製品・本製品・軒平瓦（奈・平） | |
| 225 | 白石遺跡 | 城館跡<br>集落跡 | 角錐状石器（先），剥器（先），尖頭器（草創），有舌尖頭器（草創），石鏃（草創），縄文土器（中），弥生土器（後），土師器・須恵器（古・奈・平），内耳土器（中）・陶器（中）・磁器（中） | |
| 226 | 白石古墳群 | 古墳群 | | 円５ |
| 227 | 宮元遺跡 | 集落跡 | 土師器（古前） | |
| 228 | 上河内大塚古墳 | 古墳 | 土師器・須恵器（奈・平） | |
| 229 | 一本松古墳 | 古墳 | 直刀 | 円（1） |
| 230 | 笠原神社古墳 | 古墳 | 縄文土器（後），土師器（古），陶器 | 円１（3） |
| 231 | 文京２丁目遺跡 | 集落跡 | 弥生土器（後），土師器（古・奈・平），須恵器（奈・平） | |
| 232 | 中河内館跡 | 城館跡 | | |
| **276** | **台渡里遺跡** | **集落跡** | **縄文土器（晩），土師器・須恵器（古・奈・平），鉄製刀子（古）・鉄製鎌（古）・砥石（古），墨書土器・炭化米・瓦（奈・平），内耳土器（中），陶器・磁器・銅鏡・銅製・砥石（近）** | |

『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書（平成10年度版）』に加筆

の生産遺跡が分布するのが特徴的である。他方，市城の沖積低地の右岸は左岸に比べて面積が狭小である一方，左岸は那珂川氾濫原の幅が広く，標高10m以下の低地帯が広がっており，古くから集落が営まれて現在に至る。これら低地帯に面した台地は，那珂川とその支流によって開析された樹枝状の支谷が深く入り込み，複雑な様相を呈しており，起伏の豊かな地形をなす。東茨城台地のうち水戸市域にあたる部分をとくに水戸台地と呼ぶことがあるが，この支谷によっておもに四つに細分され，北西からそれぞれ上市台地，見和台地，千波台地，吉田台地と呼称される。

**台地の地質**　水戸台地の地質は，しばしば水戸層と呼ばれる第三紀層（凝灰質泥岩層）を基盤岩とし，その上部に，砂，礫，シルトで構成される見和層，上市礫層が続く。上市礫層は，約125万年前の最終間氷期最盛期（ステージ5e）におけるいわゆる下末吉海進からの離水過程で堆積したものである。

これらを最下部に赤城水沼テフラ群を伴う火山灰で構成されたいわゆる関東ローム層が被覆し，現在の台地が形成された。

**遺跡の周辺**　台渡里遺跡は，いわゆる上市台地のうち最も北西に位置する標高約30m程度の台地平坦面に立地する。台地に北面して田野川が西から東に流れ，台地の北東縁辺に沿うように流れる那珂川に合流する。この合流地点は，台地の尽きるところにあり，那珂川が大きく蛇行し，南西方向の鹿島灘に向かって流れていくのである。合流地点より東にやや流れが緩やかになる地点があり，近世には渡し場があったと伝えられ，「舟渡」の地名を遺す。古代においては，この延長線上に東海道常陸路が推定されており，同様に渡河点があったと推測される。「渡里」の地名の由来と考えられる。

台地縁辺部から斜面にかけては，風致地区として指定されており，豊かな緑を遺す。斜面を下りきったところには，各所で湧水点が確認されている。『常陸国風土記』那賀郡条では，郡家近傍に「泉に繰りて居める村落の婦女　夏の月に会集ひて布を浣ひ　曝し乾せり」とする場所が存在するとあるが，これまでの調査成果を勘案すれば，那賀郡家は台渡里遺跡周辺と推定されることから，これら湧水点のいずれかであろう。『萬葉集』に詠われた「三栗の　なかに向へる　曝井の　絶えず通はむ　そこに妻もが」（巻九－1745）の曝井が，常陸国那賀郡家の近傍だとされるのもこのためである。現在は愛宕町滝坂に推定されており，渡里町に連綿と続く古代遺跡群と那珂川流域最大規模の前方後円墳である国指定史跡「愛宕山古墳」との間に位置する。（渥美）

## 2－2　歴史的環境

台渡里官衙遺跡は，国指定史跡「台渡里廃寺跡」の周辺に広がる官衙・集落等の複合遺跡であり，主として台地平坦面にかけて広がっている。その範囲は東西800m，南北500mに及ぶ。昭和20年代頃までは，この一帯は山林と畑地が多く，土地利用が緩慢としていたが，昭和40年代後半から徐々に宅地化が進み，往時の景観が失われつつある。

**先土器時代～縄文時代草創期**　軍民坂遺跡からは，長者久保・神子柴文化期の石刃製掻器が採集されている（江幡・吹野1998）。白石遺跡では橋本編年Ⅱｂ期（橋本1995，2002）に帰属する頁岩製の角錐状石器や時期不明の削器と剥片（いずれもメノウ製），長者久保・神子柴文化期の尖頭器（頁岩製），縄文時代草創期の有舌尖頭器（黒曜石製・頁岩製）・石鏃（ガラス質黒色安山岩製・頁岩製）が出土した（樫村1993）。

台渡里廃寺跡下層からは，３点の石器が出土している。ひとつは南方地区塔跡の掘り込み地形の基底部直下のローム層から出土したメノウの剥片である。出土層位は第二黒色帯とみられる。もうひとつは，平成16年度南方地区第２トレンチ（DWT04N－Ｔ２）から出土した硬質頁岩製の男女倉型有樋尖頭器である。さらに平成18年度長者山地区１区トレンチにおいて，確認された正倉院区画溝からもチャート製の二側縁加工のナイフ形石器が１点出土した。技術的・形態的特徴および利用石材から橋本編年Ⅱｃ期Ａグループ（いわゆる「砂川期」）のものと考えられる。また，長者山地区に隣接するアラヤ遺跡では硬質頁岩およびガラス質黒色安山岩製の槍先形尖頭器が各１点出土した。（川口）

**縄文時代**　アラヤ遺跡においては，昭和26年の調査で，後期堀之内式，加曽利Ｂ式，後期安行式，晩期安行式，千網式とともに東北地方に分布する大洞式の土器等が出土した（大森1952c）。

第１地点の調査では，遺構が台地縁に密集しており，縄文時代早期の竪穴状遺構８基が確認された（井上編 1992）。遺物は早期後葉の茅山下層式，茅山上層式，子母口式，前期前葉の黒浜式，前期後葉の浮島式，中期初頭の五領ヶ台式，中期中葉の阿玉台式，中期末葉の加曽利Ｅ４式，後期初頭の称名寺式，前葉の堀之内１式，後期中葉の加曽利Ｂ２式土器とともに定角式磨製石斧や磨石，石錘等が出土している。第２地点の調査では，磨石や石皿・蜂の巣石，礫器などが出土している（佐々木・川口ほか 2007）。

砂川遺跡からは，加曽利Ｅ３－４式期の竪穴住居跡４軒，加曽利Ｅ４式期の竪穴住居跡 15 軒，加曽利Ｅ４式期の土坑 141 基，加曽利Ｅ４式期の埋設土器 14 基が検出された（渡辺 1981）。竪穴住居跡は円形，隅丸方形，楕円形で炉の形態には地床炉，石囲い炉，埋設炉があり多様である。

軍民坂遺跡では，第３地点において，縄文時代中期後半加曽利Ｅ３式期の竪穴住居跡が調査され，うち１軒は石組複式炉をもつことが明らかとなった。中期後半における東北地方の大木式土器文化圏と非常に密接な交流が推量されよう。

白石遺跡からは，加曽利Ｅ３式期，加曽利Ｅ４式期の竪穴住居跡計３軒が検出された（樫村 1993）。いずれも円形あるいは不整円形のもので，加曽利Ｅ３式期のものが地床炉であるのに対し，加曽利Ｅ４式期のそれの炉は石囲い炉であった。また，遺構外から大木式土器の出土をみた。

**弥生時代**　弥生時代の遺跡は表採により弥生時代後期土器の存在が確認されたのみである。堀遺跡からは，竪穴住居跡から弥生土器の壺２個体が出土したが，土師器の壺と坩が共伴しており，むしろ古墳時代前期初頭とするのがふさわしい（井上・千葉・樫村 1995）。

**古墳時代**　古墳時代の集落遺跡とされるもののうち時期が判明しているのは，いわゆる五領式段階の土師器が確認された文京１丁目遺跡，堀遺跡，中河内遺跡の４遺跡，いわゆる鬼高式段階の土師器が出土した塚宮遺跡や白石遺跡に限られる。白石遺跡では，３軒の竪穴住居跡が確認されたが，いずれも鬼高式の最終段階の土師器を伴っており，７世紀前半代と考えられる（樫村 1993）。

当該地域での造墓活動は活発であった。愛宕山古墳は，全長 136.5m を測り，楯形の周隍を巡らす大型前方後円墳である。その墳形から中期古墳とみられ，表面採集された埴輪に黒斑が見られることから（井・小宮山 1999），５世紀前半の築造と考えて大過ない。近傍には，かつて姫塚古墳と呼ばれる全長 58m 程の前方後円墳があったが，1971 年に宅地造成のため破壊されてしまった。有孔円板と鉄刀の一部が出土したと伝えられ，盗掘孔の状況から粘土槨であったと推定される（藤村・塩谷 1982）。愛宕山古墳に近い時期が推定されている（井・小宮山 1999）。

後期には，富士山古墳群，小原内古墳群が該当する。円筒埴輪や形象埴輪，直刀，鉄鏃などが出土したとされる。いずれも６世紀代であろう。終末期では，西原古墳群がある。これは，凝灰岩の横穴式石室をもつ古墳，須恵器・勾玉・管玉・丸玉・棗玉・銅環・鉄鏃などが出土したという古墳（大森 1952a，1952b），埴輪を持たない古墳があるとの報告から，終末期の群集墳であるとの見方があった。しかし平成 17 年度の試掘・確認調査で墳丘が削平された円墳の周隍が検出され，埴輪片が多数出土した。終末期に限らず長期にわたって断続的に造墓活動が展開された古墳群とみられる。

那珂川を挟んで対岸には白石古墳群がある。５基の円墳から構成され，２号墳の墳頂には凝灰岩片が散乱しており，横穴式石室の存在が想定される。また３号墳の南側からは石棺が検出されており，

いずれも埴輪を伴っていないことから，終末期の群集墳と考えられる。

白石古墳群の北西には権現山横穴群が所在する。1号墓及び2号墓の玄室には線刻壁画が認められる。1号墓玄室の左右側壁に放射状線文が，1号墓玄室の左右側壁に稲妻形文・縦線・横線・建物・冑が，それぞれ描かれている。3号墓からはガラス製小玉と水晶製切子玉が，4号墓からはガラス製丸玉と金環2点が，それぞれ出土している。造墓年代は7世紀前葉とする見解（大森 1974，生田目・稲田 2002）と8世紀前後とする見解（川崎 1982）とがあり，一致をみない。

**奈良・平安時代**　台渡里遺跡及び台渡里廃寺跡については，既往の調査として後述することとし，ここではその周辺に展開する古代遺跡を概観しておく。

アラヤ遺跡第1地点では，7世紀末～8世紀初頭の工房跡や古代の竪穴住居跡から刀子や砥石などが一定量出土しており，寺院や官衙の造営に関わっていた可能性が高い。また9世紀代とみられる掘立柱建物跡があることから，土地利用の変化にも注意したい（井上編 1992）。第2地点では，1区において東西方向の区画溝が確認され，覆土から炭化米が出土したことから那賀郡衙正倉院の区画溝とみられる。また4区では柱間7尺の掘立柱建物跡も確認された（佐々木・川口ほか 2007）。

堀遺跡第1地点では，9世紀代の竪穴住居跡とともに，規模の異なる3棟の側柱掘立柱建物跡が検出された（伊藤 1995）。第2地点では，竪穴住居跡・掘立柱建物跡から構成される大規模な古代集落跡が確認された。最も隆盛するのは，8世紀後半から9世紀にかけてである。特筆されるのは，刀子・鎌・鏃・釣針・釘・錠などの鉄製品や須恵器壺Gなど特殊な器種の土器の出土である。土坑から出土した人面墨書の土師器小甕とあわせて，この集落の特異性をよく表している（井上・千葉・樫村 1995）。なお，5号掘立柱建物跡は長舎風の建物跡で9世紀代の公的建物の可能性があることからも（樫村 2005），当該集落は，那賀郡衙の造営や修造などに関わった計画村落である可能性が指摘できよう。

また台渡里遺跡を中心に堀遺跡と対になる位置には，渡里町遺跡が所在する。第5地点では，7世紀末から9世紀中葉までの竪穴住居跡が検出されているが，灰釉陶器と瓦が出土している点については，官衙隣接集落としての特徴をよく表している（佐々木・林ほか 2008b）。

砂川遺跡においても，竪穴住居跡から構成される古代集落が確認された。鉄製品のほか土製紡錘車などの生産用具が出土した。また井戸跡からは曲物，櫛，高台付盤などの木製品が出土している。（渡辺 1981）。

白石遺跡からは，古代の竪穴住居跡，掘立柱建物跡，建物基壇が検出され，官衙関連遺跡として注目された。とくに，8世紀前半に帰属するとみられる桁行36間×梁間2間の規模をもつⅡ区2号掘立柱建物跡は，並行する1号溝とともに公的施設の一部を構成していたと考えられる。（樫村 1993a）。

白石遺跡に隣接する田谷廃寺跡では，台渡里廃寺跡長者山地区と同様の文字瓦をはじめとした瓦の出土が多数みられた。「百壇」という地名を遺す周辺には，3棟の礎石建物跡の存在が報告されている（伊東 1975）。黒澤彰哉の指摘する通り，本遺跡を新置の河内駅家跡とするならば（黒澤 1998），白石遺跡Ⅱ区2号掘立柱建物跡は，樫村のいうような駅馬を繋いでおくための馬房や厩舎などの施設として理解することができる（樫村 1993b）。なお，この建物跡を馬房とする見解については木本雅康も支持するところであるが，『延喜式』には駅馬数が2疋とあり，養老2年（718）の石城国設置に伴って駅馬数10疋が置かれたと仮定しても，建物の規模とには隔たりがあることから，木本が騎兵のた

めの馬房としてみることで駅家の軍事的側面を強調した点は興味深いものである（木本　2008）。

**中世～近世**　長者山城跡は，春秋氏の居城と伝えられるが憶測の域を出ず，これまで縄張り図などの作成はあったが，十分な調査成果が蓄積されてきたとはいい難い。ただし近年の調査では，現在遺る土塁・堀の外側で，15 世紀後半～ 16 世紀初頭の土器群の出土する地下式坑や井戸跡，土坑・ピット多数が検出され，少しずつ中世城館の構造を明らかにし得る資料が蓄積されつつある。また同時期の遺構として，近接する昭和 48 年の台渡里第 7 次調査やアラヤ遺跡第 2 地点において瓦礫道が検出され，城館との関係が注目される。

渡里町遺跡第 5 地点でも，中世後期の土坑(地下式坑含む)が検出され，古瀬戸の灰釉卸皿が出土した。隣接する勝憧寺が長者山城主の菩提寺と伝わるが，こうした遺構はそれに関連するとみられ，今後の調査に期待がかかる（佐々木・林 b2008 ほか）。

古代寺院跡である台渡里廃寺跡内においても，第 8 次調査における 1 号井戸跡から 15 世紀～ 16 世紀初頭のかわらけや内耳土器，擂鉢などが出土（井上・千葉 1995），第 18 次調査では，土塁に沿う形で観音堂山地区寺院建物の礎石を落とし込んだ溝跡が確認され，かわらけや内耳土器などが出土した。これらのことから，古代寺院の伽藍地が城館の一角として機能していたと推定される。

他方，第 19 次調査では，南方地区塔跡基壇を塚として再利用している様子がうかがえ，五輪塔部材や板碑片，北宋銭を伴う中世火葬墓が集中して営まれていたことが明らかとなった（川口・小松崎・新垣ほか 2005）。

第 8 次調査のうちでも台渡里遺跡の範囲に含まれる第 2 調査区では，近世墓として 4 基の白色粘土敷きの遺構が確認されている。同じく台渡里遺跡の範囲である第 17・26 次調査では，井戸跡から 15 世紀後半から 16 世紀前半のかわらけと内耳土鍋の出土がみられ，長者山城跡に関連する遺構群は，かなり広範囲に展開していることが明らかとなった。

第 25 次調査では，2 区から拳大の円礫による集石遺構が検出され，17 世紀前半の瀬戸・美濃や波佐見碗，17 世紀後半の瀬戸・美濃大鉢，18 世紀前半の肥前系磁器碗が出土した。また 4 区では，攪乱土中から，かわらけとともに益子土瓶や土人形が出土しており（佐々木・川口・大橋ほか 2006），17 世紀前半頃には近世村落の形成があったものとみられる。　（渥美）

## 2－3　台渡里遺跡群における既往の調査

ここでは，台渡里遺跡を理解する上で欠かせない台渡里廃寺跡とともに，その調査成果を一体的に概略することで，古代の官衙・寺院遺跡の様相を中心についてふりかえっておきたい。

### 1　寺院と郡衙正倉院の調査（台渡里廃寺跡）

台渡里廃寺跡の調査研究は，高井悌三郎による戦前の学術調査を嚆矢とする（高井 1964）。これを受けて，昭和 20 年にその一部が茨城県指定史跡とされた。

長者山地区については，従来から炭化米の出土が報告され，礎石建物跡が確認されていることから（高井 1964，瓦吹 1991），那賀郡衙正倉院と推定された（瓦吹 1991，黒澤 1998）。近年行っている市教委の範囲確認調査により，新たに 9 棟の礎石建物跡と四方を台形状に囲む区画溝が確認され，正倉院で

あることが確定的になった（川口・渥美・本本 2009）。

観音堂山地区については，これまで郡衙政庁院や河内駅家とする見解もあったが（瓦吹 1991，外山 1993），市教委が行った範囲確認調査により，寺院建築とみられる礎石建物跡に伴って，陶製相輪の一部や塑像片，須恵器高坏形香炉等の仏教関連遺物の出土をみたことから，いわゆる郡衙周辺寺院であると推定されるに至った。そして創建年代は７世紀後半に遡ることが明らかとなった（川口・小松崎ほか 2005）。出土瓦には，「吉（土）田」，「川邊」，「井野」，「阿波」，「中」，「志□」，「年足」等寺院造営に関与した那賀郡の郷名や人名が記されたもの，相輪の一部が描かれたものや「佛」銘をもつもの等が確認された。

南方地区については，早くから寺院と考えられてきたが（高井 1964，瓦吹 1991，黒澤 1998），市教育委員会が行った範囲確認調査により，塔跡基壇の内部よりいわゆる内黒土器の坏破片が出土したことから，９世紀後半に造営された寺院跡であることが判明した。観音堂山地区の寺院が９世紀には火災で廃絶していることに加え，南方地区の伽藍区画と思しき溝の掘削が中途で廃絶されていることから，観音堂山伽藍焼亡後に南方地区において再建が開始されたが，造営は何らかの事情により中断した可能性が高い（川口・小松崎ほか 2005）。なお平成 17 年には観音堂山地区と南方地区が国指定史跡に指定されている。

## ２　官衙関連遺跡の調査（台渡里官衙遺跡）

渡里町の台地を東西に貫く都市計画道路敷設に伴い実施された発掘調査（第８次調査）では，第２調査区において，竪穴住居跡，溝跡，掘立柱建物跡が検出された（井上・千葉 1995）。とくに竪穴住居跡や２号溝から集中的に出土した７世紀後半～８世紀前半の土器群が注目され，それらのうちには，湖西産や上野系等搬入品とみられる須恵器や東北地方の栗囲式の影響を受けているとみられる土師器坏などがみられる。また３号溝は，0.9 ～ 1.3m ほどの掘方を持つ柱穴が２m 等間で列状となったものが，溝で連結しており，柵列もしくは掘立柱塀などの区画施設としての性格が推定される。遺構には，主軸が真北を示す傾向にあるものとやや北西に振れる傾向のものと２種あり，８世紀前半代のいずれかを画期とした時期差と考えられる。第９次調査は，第８次調査の第２調査区に隣接しており，３号溝の延長部分と７世紀後半の竪穴住居跡が１軒検出された。

第８・９次調査区の南側に位置する市道路内での発掘調査では（第 39 次），８次２区で検出された３間×３間の布掘り総柱掘立柱建物跡とほぼ同じものが検出されると同時に，これと軸を同じくする官衙ブロックを区画するとみられる溝の発見があった。溝からは「郡厨」銘墨書土師器有台坏が出土し，官衙ブロックの一部である可能性を一層におわせている（佐々木・林 2008a ほか）。

平成 15・17 年に実施された商業施設建設に伴う調査（第 17 次・第 26 次）では，台渡里廃寺跡南方地区伽藍の東側寺院地区画溝とともに，寺院に先行する竪穴住居跡や掘立柱建物群と鍛冶工房等が確認された。これらは観音堂山地区の造営時期に相当することから，寺院造営に関わったものとみられる（川口・関口ほか 2007）。

これらの調査地点よりやや南方で行われた第 24 次調査では，古代の竪穴住居跡とともに総地業の礎石建物跡１棟とそれを区画する溝１条が検出され，区画溝の覆土上層からは炭化米がまとまって出

土した（小川・大淵 2006）。SI01 からは「備所」銘墨書をもつ須恵器有台坏が出土した。狭小な調査区ゆえに拙速な判断は控えたいが，炭化米や礎石建物跡の存在から類推するならば，租税等を備蓄しておくための施設名を示すと解することも可能であろう。

こうした近年の調査により，古代那賀郡衙及びそれに関連する遺構群は，台渡里廃寺跡の範囲のみならず，台渡里官衙遺跡の範囲にも及ぶことが確認されており，現在改めて遺跡範囲の括り方に対する見直しの必要性に迫られている。（渥美）

**第２表　台渡里官衙遺跡群における既往の調査**

| 調査年次 | 期間 | 地区名 | 地番 | 原因 | 担当者 | 調査機関 | 面積(㎡) | 文献 | 概要 | 遺物（特記事項） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第30次 | 2006.10.3～2007.2.7 | 台渡里廃寺跡／長者山地区 | 渡里町字長者山3119 番地ほか | 重要遺跡範囲確認 | 川口武彦 新垣清貴 | 水戸市教委（確認調査） | 386.77 | 水戸市教委 2009『第21集』 | 郡家正倉。 | |
| 第31次 | 2006.11.29 | 台渡里遺跡／南方地区 | 渡里町字南原 2618 | 個人住宅造成に伴う | 川口武彦 新垣清貴 | 水戸市教委（試掘調査） | 12.60 | 水戸市教委 2009『第22集』 | 時期不明の道構。 | |
| 第32次 | 2007.1.31 | 台渡里遺跡／南方官衙地区 | 渡里町字狸久保 2771-1 番地外 | 宅地造成に伴う | 川口武彦 新垣清貴 | 水戸市教委（試掘調査） | 30.4 | 水戸市教委 2009『第22集』 | 中世以降とみられる堀跡を確認。 | |
| 第33次 | 2007.01.22～2007.02.20 | アラヤ遺跡（第２地点） | 渡里町字アラヤ 3061-4 地先 | 市道常磐10号線改良工事に伴う | 大橋　生 林　邦雄 | 東京航業研究所（本調査） | 244.0 | 水戸市教委 2007『第12集』 | 長者山地区の南側区画溝と思われる溝跡，第７次調査で確認された中世の瓦礫道の延長部分を調査。 | |
| | 2006.1.27～2006.1.28 | | | 市道常磐10号線改良工事に伴う | 新垣清貴 関口慶久 | 水戸市教委（立会調査） | — | 水戸市教委 2007『第12集』 | 溝跡２条を確認。 | |
| 第34次 | 2007.04.04～2007.06.18 | 台渡里遺跡／東方官衙地区 | 渡里町字宿屋敷 3028-8 | 個人住宅造成に伴う | 川口武彦 深美賢吾 木本挙周 | 水戸市教委（発掘調査） | 98.24 | 水戸市教委 2010『第35集』 | 東方官衙域の「溝ち」掘立柱建物跡１，整穴建物跡１を確認。 | |
| 第35次 | 2007.05 | 台渡里遺跡／東方官衙地区 | 渡里町 2812-1～3011 | 下水道新設に伴う | 新垣清貴 | 水戸市教委（試掘調査） | 18.0 | 水戸市教委 2010『第35集』 | ＊第３９次に向けた試掘調査 | |
| 第36次 | 2007.08.19 | 台渡里廃寺跡／観音堂山地区 台渡里遺跡／東方官衙地区 | 渡里町字アラヤ前 2967-1 渡里町字宿屋敷 3017-1 | ソイルマーク確認に伴う | 西村　康 西口和彦 金田明夫 木本挙周 深美賢吾 | 水戸市教委 奈文研（レーダー探査） | — | | | |
| 第37次 | 2007.10.29 | 台渡里遺跡／東方官衙地区 | 渡里町字宿屋敷 3028-6 | 土地改良に伴う | 木本挙周 | 水戸市教委（確認調査） | 10.0 | | 掘立柱建物跡の柱穴を断面で確認。 | |
| 第38次 | 2007.11～2008.2.12 | 台渡里廃寺跡／長者山地区 | 渡里町 3088-2 | 重要遺跡範囲確認 | 深美賢吾 木本挙周 | 水戸市教委（確認調査） | 420.0 | 水戸市教委 2011『第37集』 | 長者山地区の南側区画溝を確認。その他では，７世紀後半の整穴住居跡，８世紀前半の区画溝，掘立柱建物跡等を確認。 | |
| 第39次 | 2007.11.19～2008.1.19 | 台渡里遺跡／東方官衙地区 | 渡里町 2812-1～3011 | 下水道新設に伴う | 大橋　生 市瀬俊一 | 東京航業研究所（本調査） | 226.0 | 水戸市教委 2008『第15集』 | ７世紀後半の整穴住居跡，８世紀前葉の掘立柱建物跡，８世紀後葉～９世紀前葉の溝跡３条を確認。 | 「都厨」と釈読できる墨書土器。 |
| 第40次 | 2008.03.19 | 台渡里遺跡／南方官衙地区 | 渡里町字狸久保 2771-12 番地 | 個人住宅造成に伴う | 川口武彦 | 水戸市教委（試掘調査） | 24.7 | 水戸市教委 2010『第35集』 | 上面幅 6.0m，深さ 2.5m 以上の堀跡を確認。 | |
| 第41次 | 2008.04.30～2008.06.04 | 官衙遺跡／南前原地区 | 渡里町字狸久保 2771-12 | 個人住宅建築 | 川口武彦 色川敏子 | 市教委（本調査） | 90.22 | | 40次の本調査・初期官衙区画溝。掘立柱痕を検出。 | |
| 第42次 | 2008.05.19～2008.05.23 | 官衙遺跡／長者山地区 | 渡里町 3078-2，3082-1，3090-1，4，7，3095-3，3145-1，2，3146 | 重要遺跡範囲確認調査 | 川口武彦 西村　康 西口和彦 金田　明 大木本挙周 三井　猛 | 市教委 奈文研（レーダー探査） | 7,700 | 市教委 2011『第37集』 | 調査区６では正倉院の東限を区画溝とみられる溝跡を確認。また，その南東では 40 m 四方の官衙ブロックとみられる区画溝を確認。調査区７では，法倉とみられる SB001 が８×３間の総柱建物から７×３間の布地業に建て替えられていることを確認。 | |

| 調査年次 | 期間 | 地区名 | 地番 | 原因 | 担当者 | 調査機関 | 面積(㎡) | 文献 | 概要 | 遺物（特記事項） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第43次 | 2008.07.10 | 宮衙遺跡／宿屋敷地区 | 渡里町 3009-1 | 個人住宅建築 | 湯美賢吾 | 市教委（試掘調査） | 58.3 | | 南北方向に主軸をとる幅2ｍ以上の区画溝 SD01、北西方向から南東方向に走る溝状遺構 SD02（横列ヵ）、SD02と切り合う溝状遺構 SD03、SD04 を確認。 | SD02の覆土上面からは 3121 型式軒丸瓦の完形品が出土。 |
| 第44次・① | 2008.08.24 ～ 2008.09.13 | 宮衙遺跡／南前原地区 | 渡里町字前原 2839-1 | 学術調査 | 田中　裕<br>佐藤祐吾 | 茨城大学考古学研究室 | 109 | | テニスコート。41 次検出の大溝の確認。41 次調査で確認されていた溝の北無部分を確認。また、正倉とみられる礎石建物跡も１棟確認。 | |
| 第44次・② | 2009.08.01 ～ 2009.09.17 | 宮衙遺跡／南前原地区 | 渡里町字前原 2839-1 | 学術調査 | 田中　裕<br>佐藤祐吾 | 茨城大学考古学研究室 | | | | |
| 第45次・① | 2009.07.22 | 宮衙遺跡／南前原地区 | 渡里町 2491－21 地先～ 2537－3 地先 | 常磐 33 号線道路改良工事 | 湯美賢吾<br>関口優久 | 市教委（立会調査） | — | | 掘立柱建物跡の柱穴２基を断面で確認。 | |
| 第45次・② | 2009.06.03 | 宮衙遺跡／南前原地区 | 渡里町 2491-21 地先～ 2537-3 地先 | 常磐 33 号線道路改良工事 | 湯美賢吾<br>米川梅敬 | 市教委（立会調査） | — | | ピット２基、イモ穴２基 | |
| 第46次 | 2008.08.21 ～ 2008.08.26 | 宮衙遺跡／宿屋敷北地区（長者山道路第３地点） | 渡里町字長者山 3151-4、6 | 個人住宅解体 | 川口武彦 | 市教委（確認調査） | 90.75 | | 解体工事に伴う確認調査。 | |
| 第47次 | 2008.10.09 | 宮衙遺跡／宿屋敷地区 | 里町字宿屋敷 2987－4、-14 | 共同住宅建築 | 湯美賢吾 | 市教委（試掘調査） | 26 | | 掘立柱建物、竪穴住居跡。 | |
| 第48次 | 2008.10.21 ～ 2009.03.27 | 宮衙遺跡／長者山地区 | 渡里町字長者山 3147 ほか | 重要道路範囲確認調査 | 川口武彦 | 市教委（確認調査） | 530 | 市教委 2011「第 37 集」 | 小２つの区画溝東辺の確認。 | |
| 第49次 | 2008.10.31 | 宮衙遺跡／長者山地区 | 渡里町字長者山 3658-3 | 個人住宅建築 | 湯美賢吾 | 市教委（試掘調査） | 8.24 | | 遺構は確認されず。 | |
| 第50次 | 2008.12.03 | 宮衙遺跡／宿屋敷地区 | 渡里町 3001-3 | 個人住宅解体 | 川口武彦 | 市教委（試掘調査） | 11.54 | | 遺構は確認されず。 | |
| 第51次 | 2009.04.06 ～ 2009.05.16 | 宮衙遺跡／南前原地区 | 渡里町字前原 2699 地先～ 2775-2 地先 | 常磐 283 号線公共下水道新設工事 | 湯美賢吾 | 東京航業研究所（本調査） | 98.5 | 市教委 2009「第 30 集」 | 初期官衙の区画溝。 | |
| 第52次 | 2009.04.22 | 宮衙遺跡／南前原地区 | 渡里町字念仏久保 2538-1 | 個人住宅建築 | 湯美賢吾 | 市教委（試掘調査） | 6 | | 個人住宅解体時試掘。 | |
| 第53次 | 2009.07.13 ～ 2009.07.15 | 宮衙遺跡／宿屋敷地区・渡里町道路第 11 地点（１次） | 渡里町 2819-1 ほか | 集合住宅建築 | 湯美賢吾 | 市教委（試掘調査） | 90 | | | |
| 第54次 | 2009.07.08 ～ 2009.08.12 | 宮衙遺跡／長者山地区 | 渡里町字長者山 3119 ほか | 重要道路範囲確認調査 | 川口武彦 | 市教委（確認調査） | 150 | 市教委 2011「第 37 集」 | | |
| 第55次 | 2009.07.16 | アラヤ遺跡（第４地点） | 渡里町 2953-1 | 個人住宅建築 | 米川梅敬 | 市教委（試掘調査） | 23 | | | 第 59 次の試掘調査 |
| 第56次 | 2009.09.15 ～ 2009.11.17 | 宮衙遺跡／南前原地区 | 渡里町 2771-13 | 個人住宅建築 | 米川梅敬 | 市教委（本調査） | 73 | | | |
| 第57次 | 2009.11.17 ～ 2009.11.18 | 宮衙遺跡／宿屋敷地区 | 渡里町字宿屋敷 3001-3、2998-4 | 個人住宅建築 | 湯美賢吾<br>川口武彦 | 市教委（試掘調査） | 11.5 | | | |
| 第58次 | 2009.12.01 ～ 2009.12.24 | 宮衙遺跡／南前原地区 | 渡里町 2771-14 | 個人住宅建築 | 米川梅敬 | 市教委（本調査） | 90 | | | |
| 第59次 | 2009.12.15 ～ 2010.01.13 | アラヤ遺跡（第４地点） | 渡里町 2953-1 | 個人住宅建築 | 湯美賢吾 | 市教委（本調査） | 119.5 | | | 第 55 次の本調査 |
| 第60次 | 2010.04.06 ～ 2010.04.23 | 宮衙遺跡／南前原地区 | 渡里町 2616-1 地先～ 2786-4 地先 | 市道常磐 123 号線道路改良工事 | 高野浩之 | 茨城文化財研究所（本調査） | 88 | 市教委 2011「第 40 集」 | | |
| 第61次 | 2010.01.25 | 宮衙遺跡／南前原地区 | 渡里町字前原 2844-2 | 集合住宅建築 | 湯美賢吾 | 市教委（試掘調査） | 21.75 | | | |
| 第62次 | 2010.06.01 | 宮衙遺跡／長者山地区 | 渡里町字アラヤ 3057-2 | 個人住宅建築 | 川口武彦<br>金子千秋 | 市教委（試掘調査） | 19 | | | |
| 第63次 | 2010.06.09 | 宮衙遺跡／宿屋敷地区 | 渡里町 2865 | 宅地造成 | 川口武彦 | 市教委（試掘調査） | 59.1 | | | |
| 第64次 | 2010.07.21 ～ 2010.07.23 | 宮衙遺跡／宿屋敷地区 | 渡里町 2865 | 宅地造成 | 川口武彦 | 市教委（本調査） | 37.6 | 市教委 2011「第 38 集」 | | |

| 調査年次 | 期間 | 地区名 | 地番 | 原因 | 担当者 | 調査機関 | 面積(㎡) | 文献 | 概要 | 遺物（特記事項） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第65次 | 2010.08.10 | 官衙遺跡／南前原地区 | 渡里町 2835-2, 11, -12 | 駐車場造成 | 川口武彦 | 市教委（試掘調査） | 14 | | | |
| 第66次 | 2010.08.20 | 官衙遺跡／宿屋敷地区 | 渡里町 2865-6 | 集合住宅建築 | 川口武彦 色川順子 | 市教委（試掘調査） | 18 | | | |
| 第67次 | 2010.08.20 | 官衙遺跡／宿屋敷地区 | 渡里町 2865 | 集合住宅建築 | 川口武彦 色川順子 | 市教委（試掘調査） | 13.6 | | | |
| 第68次 | 2010.09.01 | アラヤ遺跡（第3地点） | 渡里町字アラヤ 3111, 3090-3 | 集合住宅建築 | 米川報敬 田中恭子 金子千秋 | 市教委（試掘調査） | 8 | | | |
| 第69次 | 2010.10.02 ～ 2010.10.07 | 官衙遺跡／宿屋敷地区 | 渡里町字前原 2865-6 | 集合住宅建築 | 川口武彦 | 市教委（本調査） | 67.26 | | | |
| 第70次 | 2010.10.02 ～ 2010.10.15 | 官衙遺跡／宿屋敷地区 | 渡里町字前原 2865 | 集合住宅建築 | 色川順子 | 市教委（本調査） | 68 | | | |
| 第71次 | 2010.09.21 | 廃寺跡／南方地区 | 渡里町字前原 2880-1, 2877-3, 2879-2, 2881-2 の一部 | 個人住宅内ウーポート・物置建築 | 川口武彦 | 市教委（試掘調査） | 3.75 | | | |
| 第72次 | 2010.09.17 | 官衙遺跡／長者山地区 | 渡里町字アラヤ 3057-2 | 個人住宅内浄化槽埋設 | 川口武彦 | 市教委（立会調査） | 8 | | | |
| 第73次 | 2010.07.21 ～ 2010.07.23 | アラヤ遺跡（第3地点） | 渡里町字アラヤ 3111, 3090-3 | 個人住宅建築 | 川口武彦 色川順子 | 市教委（本調査） | 90.3 | | | |
| 第74次 | 2010.11.30 | 官衙遺跡／宿屋敷地区 | 渡里町字前原 2867 | 宅地造成 | 川口武彦 | 市教委（試掘調査） | 27 | | 第79次の試掘 | |
| 第75次 | 2010.12.01 | 官衙遺跡／南前原地区 | 渡里町字前原 2894-8, -2, -37 | 個人住宅建築 | 川口武彦 三浦健太 | 市教委（試掘調査） | 10.2 | | | |
| 第76次 | 2010.12.02 | 官衙遺跡／南前原地区 | 渡里町字前原 2832-1 | 個人住宅建築 | 川口武彦 三浦健太 | 市教委（試掘調査） | 15 | | | |
| 第77次 | 2010.12.02 | 官衙遺跡／南前原地区 | 渡里町 2898-1 | 個人住宅建築 | 川口武彦 三浦健太 | 市教委（試掘調査） | 7.05 | | | |
| 第78次 | 2010.12.17 | 廃寺跡／南方地区 | 渡里町 2898-1 | 賃貸借住宅建替 | 川口武彦 三浦健太 | 市教委（試掘調査） | 45 | | | |
| 第79次 | 2011.1.20 ～ 2011.1.31 | 官衙遺跡／宿屋敷地区 | 渡里町字前原 2867 | 宅地造成 | 折原　覚 | 東京航業研究所（本調査） | 263.17 | 本報告 | 第74次の本調査 | |

# 第３章　調査の方法と成果

## ３－１　調査の方法

調査区の座標は公共座標を基準に設定した。

調査対象地は宅地造成に伴う道路予定地である。東西約 6.5 m，南北約 42.0 m と細長い形状を呈するが，版築遺構の分布範囲を確認する必要が出たため，さらに調査区の南側に幅 2.0 m，長さ 10.0 m の１号拡張区，西側に幅 2.1 m，長さ 2.8 m の２号拡張区を設けた。調査総面積は 288.9 ㎡である。

発掘調査にあたっては，重機を用いて砕石・盛土層と耕作土層を除去後，主として人力で遺構確認面までの掘り下げを行った。包含層および遺構内出土遺物については，原則として光波測量機を用いて３次元記録を実施した。また，遺構についてはデジタルカメラによる写真測量と手実測作業を併用した。写真撮影にあたっては 35 ㎜モノクロフィルム，35 ㎜カラーリバーサルフィルム，デジタルカメラ（1300 万画素）を併用し，適宜，記録撮影を行った。（折原）

## ３－２　基本土層

調査区の中央部東壁に基本層序確認のためのテストピットを深く設け，土層観察作業を行った。基本層序の概要は以下の通りである。

Ⅰ層　砕石・盛土層

Ⅱ層　耕作土層

Ⅲ層　10YR3/2 黒褐色土層　ローム粒を少量含む。粘性をもつが，しまりに欠ける。

Ⅳ層　今市・七本桜軽石層　ローム粒を含む。やや粘性に欠けるが，しまる。

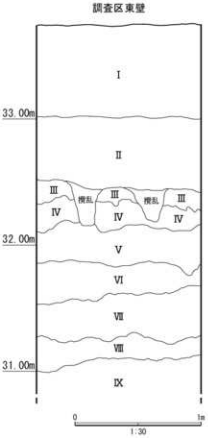
Ⅴ層　10YR4/6 褐色土層。ローム粒を少量含む。粘性をもち，しまる。

Ⅵ層　10YR5/8 黄褐色ローム層。黒色粒子を微量含む。粘性をもち，堅くしまる。

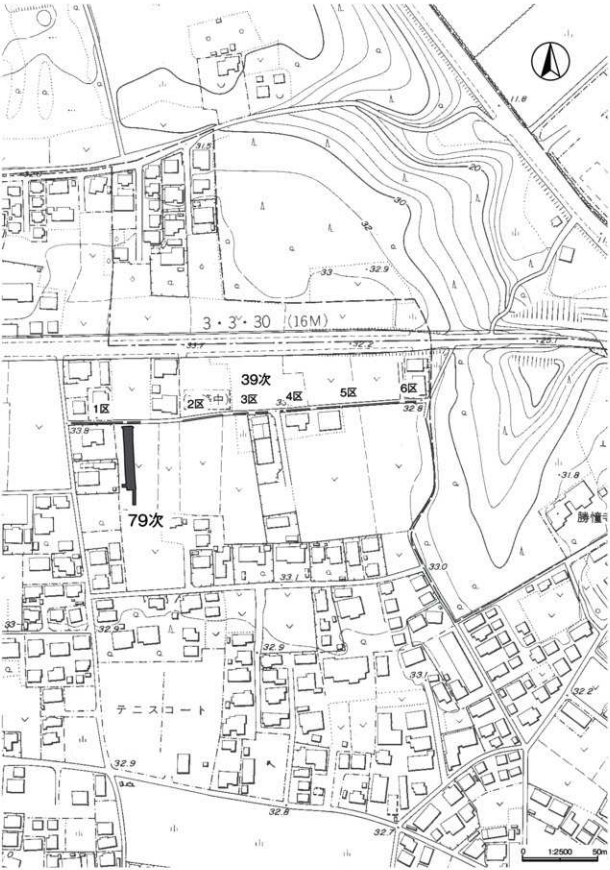
Ⅶ層　10YR5/4 黄褐色ローム層。黒色粒子を微量含む。粘性をもち，堅くしまる。

Ⅷ層　鹿沼軽石層

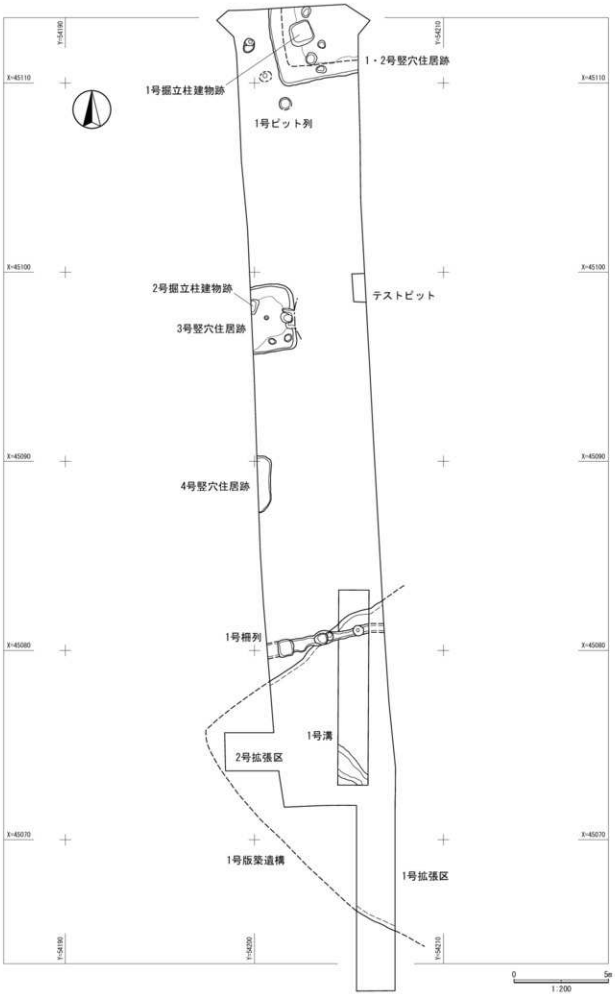
Ⅸ層　10Y7/1 灰白色粘土層　粘性をもち，しまる。（折原）




第３図　基本土層図




第４図　調査区の位置


1・2号竪穴住居跡
1号掘立柱建物跡
1号ピット列
2号掘立柱建物跡
テストピット
3号竪穴住居跡
4号竪穴住居跡
1号柵列
1号溝
2号拡張区
1号版築遺構
1号拡張区
X=45110
X=45100
X=45090
X=45080
X=45070
Y=54190
Y=54200
Y=54210
Y=54230
0
5m
1:200

第５図　調査区方眼図

## 3－3　遺構

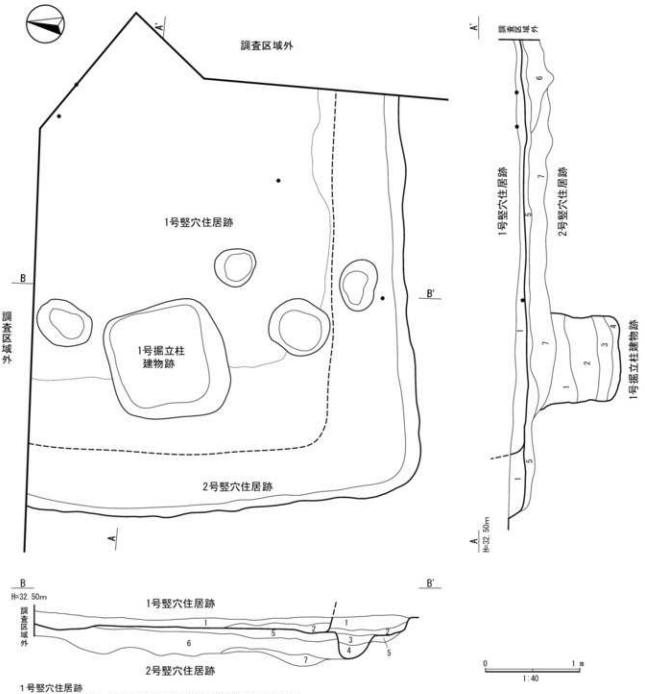
今回の調査区は台渡里廃寺跡観音堂山地区の東部，伽藍中枢より東へ400mほど離れた那賀川を臨む台地上に位置する。近隣では平成6年の都市計画道路3・6・30号線整備に伴う発掘調査（台渡里第8次），平成8年の共同住宅建設に伴う確認調査（台渡里第9次），ソイルマーク確認に伴うレーダー探査（台渡里第36次），平成19～20年の公共下水道工事に伴う発掘調査（台渡里第39次）などが実施され，路線内を横切る南北方向の柵列や竪穴住居跡，掘立柱建物跡，溝，井戸，土坑，近世の墓壙などが多数検出されている。

今回の調査は，宅地造成に伴う記録保存を目的として実施されたものである。調査区はほぼ全域にわたって耕作などに伴う各種攪乱や削平を被っており，実際の作業には大きな制約が伴うことになったが，調査区北側から中央部にかけて竪穴住居跡4軒，掘立柱建物跡2棟，ピット列1個所，調査区南側を中心に版築遺構1個所，溝1条，柵列遺構1条を確認することができた。

### （1）竪穴住居跡

**1号竪穴住居跡**　調査区の北東際に位置する。2号竪穴住居跡と1号掘立柱建物跡の上面を切る。西側に近接して1号ピット列が南北に走る。上面を削平されているため，遺存状態は良くない。北側と東側が調査区域外に続くため，全体の規模，主軸方向などは不明である。平面形は隅丸方形ないし長方形を呈し，確認部分の東西の長さは4.65 m，南北の長さは3.12 mを測る。壁は比較的急傾斜で掘り込まれており，最大壁高は13 cmを測る。床面は2号竪穴住居跡の貼り床面上に形成されていた。全体的に平坦かつ比較的堅緻であり，広い範囲にわたって硬化面が認められた。周溝や貯蔵穴は検出されなかった。住居内よりピット3基が検出されたが，西側の大形の2基は配列状態からみて2号竪穴住居跡に伴うものである可能性が高い。本住居の柱穴と推測される1基は口径41 cm，深さ28 cmを測る。カマドは検出されなかったが，北東側床面を中心に焼土粒や粘土粒が散在しており注目される。遺物は須恵器片22点，土師器片58点，釘1点，鉄滓5点が出土している。出土遺物や遺構の形状，覆土のあり方などから判断して8世紀後葉～9世紀前葉，奈良時代末葉～平安時代の所産であった可能性が高い。切り合い関係をみると2号竪穴住居跡および1号掘立柱建物跡に後続する。

**2号竪穴住居跡**　調査区の北東際に位置する。下部で1号掘立柱建物跡を切り，上面を1号竪穴住居跡に切られる。西側に近接して1号ピット列が南北に走る。上面を削平されているため，遺存状態は不良である。北側と東側が調査区域外にかかっているため，全体の規模，主軸方向などは不明である。平面形は隅丸方形ないし長方形を呈し，確認部分の東西の長さは5.21 m，南北の長さは4.12 mを測る。壁は比較的急傾斜で掘り込まれており，最大壁高は15 cmを測る。黒褐色土や暗褐色土，ロームブロックを用いて貼り床面が形成されていた。全体的に平坦かつ比較的堅緻である。周溝やカマド，貯蔵穴は検出されなかった。住居内よりピット3基が検出された。西側の大形の2基は南北に直線的に配列されており，本住居に伴う柱穴であった可能性が高い。口径60～66 cm，深さ47～52 cmを測る。掘り方は床下全面に及んでいるものと思われる。全体的に起伏をもち，床面からの深さは最大35 cmを測る。遺物は鉄鏃1点が出土している。切り合い関係や，遺構の形状や覆土のあり方などから判断すると8世紀後葉，奈良時代後葉以前の所産であった可能性が高い。切り合い関係をみると1号竪穴




**1号竪穴住居跡**

1　10YR3/3暗褐色土層　ローム粒・焼土粒少量含む。やや粘性・しまりをもつ。
2　10YR3/2黒褐色土層　ロームブロック少量含む。やや粘性・しまりをもつ。

**2号竪穴住居跡**

1　10YR3/4暗褐色土層　ロームブロック少量含む。やや粘性・しまりをもつ。
2　10YR3/3暗褐色土層　ローム粒含む。粘性をもち、ややしまる。
3　10YR3/2黒褐色土層　ローム粒微量含む。粘性をもち、ややしまる。
4　10YR3/3暗褐色土層　ローム粒・ロームブロック少量含む。粘性をもち、ややしまる。
5　10YR3/2黒褐色土層　（貼床面）ローム粒・ロームブロック含む。粘性をもち、しまる。
6　10YR3/3暗褐色土層　（貼床面）ローム粒・ロームブロック含む。粘性をもち、しまる。
7　10YR3/3暗褐色土層　（貼床面）ロームブロック含む。やや粘性をもち、しまる。

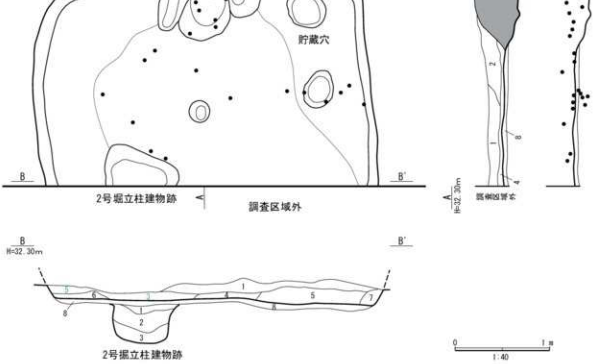
**1号掘立柱建物跡**

1　10YR4/3にぶい黄褐色土層　ロームブロック多量含む。粘性をもち、ややしまる。
2　10YR4/4褐色土層　ロームブロック多量含む。粘性をもち、ややしまる。
3　10YR4/4褐色土層　ローム粒、ロームブロック多量含む。粘性をもち、ややしまる。
4　10YR2/1黒褐色土層　ロームブロック微量含む。粘性やや強い。粘性をもち、しまる。

第６図　１号・２号竪穴住居跡，１号掘立柱建物跡

住居跡に先行し，１号掘立柱建物跡に後続する。

**３号竪穴住居跡**　調査区の中央部北寄りに位置する。２号掘立柱建物跡の上面を切る。５ｍ南側には４号竪穴住居跡が位置する。上面を削平されているため，遺存状態は不良である。西側が調査区域外にかかっているため，全体の規模は不明である。平面形は隅丸方形ないし長方形を呈し，確認部分の東西の長さは2.25 m，南北の長さは3.60 mを測る。主軸方向はＮ－86°－Ｅである。壁は緩傾斜で掘り込まれており，最大壁高は22 ㎝を測る。灰褐色土を用いて貼り床面が形成されていた。全体的に起伏をもつが，比較的堅緻であり，広い範囲にわたって硬化面が認められた。周溝は検出されな



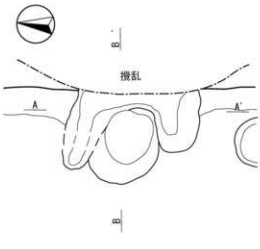

**３号竪穴住居跡**

1　10YR3/3暗褐色土層　ローム粒少量含む。粘性をもち，ややしまる。
2　10YR3/3暗褐色土層　ローム粒・ロームブロック・焼土粒・炭化物微量含む。粘性をもち，ややしまる。
3　10YR3/3暗褐色土層　ローム粒微量含む。ややねばをもち，しまる。
4　10YR2/3黒褐色土層　ローム粒・ロームブロック微量含む。粘性をもち，ややしまる。
5　10YR3/2黒褐色土層　ローム粒少量含む。粘性をもち，ややしまる。
6　10YR3/4暗褐色土層　ロームブロック微量含む。粘性をもち，ややしまる。
7　10YR2/3黒褐色土層　ロームブロック含む。やや粘性をもち，しまる。
8　10YR4/2灰褐色土層　（貼床面）ローム粒少量・ロームブロック微量含む。粘性をもち，しまる。

**２号掘立柱建物跡**

1　10YR3/3暗褐色土層　ロームブロック少量含む。粘性をもち，ややしまる。
2　10YR3/3暗褐色土層　ローム粒・ロームブロック少量含む。粘性をもち，しまる。
3　10YR3/3暗褐色土層　ロームブロック含む。ややねばり強い。やや粘性・しまりをもつ。

**第７図　３号竪穴住居跡，２号掘立柱建物跡**



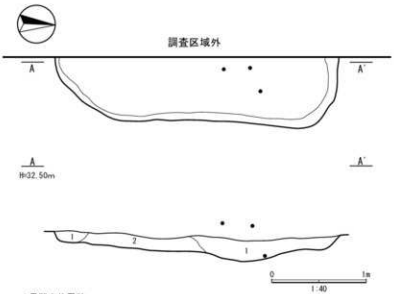

**3号竪穴住居跡カマド**

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 10YR6/4にぶい黄褐色土層 | 暗褐色土微量含む。やや粘性・しまりをもつ。 |
| 2 | 10YR3/3暗褐色土層 | ローム粒・焼土粒少量，炭化物微量含む。やや粘性・しまりをもつ。 |
| 3 | 10YR6/4にぶい黄褐色土層 | やや粘性・しまりに欠ける。 |
| 4 | 10YR3/3暗褐色土層 | ローム粒・焼土粒微量含む。粘性をもち，ややしまる。 |
| 5 | 10YR3/3暗褐色土層 | ローム粒少量，焼土粒含む。やや粘性をもち，しまる。 |
| 6 | 10YR3/3暗褐色土層 | ローム粒・焼土粒微量含む。やや粘性・しまりに欠ける。 |
| 7 | 10YR3/3暗褐色土層 | ロームブロック少量・焼土粒微量含む。粘性をもち，しまる。 |
| 8 | 10YR3/4暗色土層 | 焼土粒微量含む。粘性をもち，しまる。 |
| 9 | 10YR3/2黒褐色土層 | ローム粒微量含む。粘性をもち，ややしまる。 |
| 10 | 10YR8/2灰白色土層 | 白色粘土主体。粘性ふもち，しまる。 |

**第８図　３号竪穴住居跡カマド**

かった。住居内よりピット２基が検出された。口径21～42㎝，深さ16～28㎝を測り，南壁寄りのピットは，本住居に伴う柱穴であった可能性が高い。掘り方は床下全面に及んでいる。全体的に起伏をもち，床面からの深さは最大10㎝を測る。カマドは東壁中央に位置する。煙道部は撹乱を受けているが，袖部は灰白色粘土を用いて造られており，右袖部には瓦片や礫，左袖部には須恵器甕が芯材として使われている。両袖部の内径は47㎝を測り，燃焼部には広い範囲にわたって焼土が堆積している。火床面は強く赤化しており，基底部は深さ５㎝ほどの楕円形に掘り込まれている。カマドの支脚として拳大の赤化した安山岩の礫が中央部に据え置かれていたが，取り上げの際に粉砕した。カマドの右側，住居南東隅には貯蔵穴が設けられている。長径44㎝，深さ29㎝の楕円形を呈し，断面は鍋底状に近い。遺物はカマドを中心に須恵器片55点，土師器片41点，軒丸瓦２点，平瓦12点が出土している。出土遺物や遺構の形状，覆土のあり方などから判断して９世紀前葉，平安時代の所産であった可能性が高い。切り合い関係をみると２号掘立柱建物跡に後続する。

**４号竪穴住居跡**　調査区の中央部南寄りに位置する。上面を削平されているため，遺存状態は不良である。東側の一部が確認されただけであり，全体の規模，主軸方向などは不明である。平面形は不整な隅丸方形ないし長方形を呈し，確認部分の東西の長さは75㎝，南北の長さは302㎝を測る。壁は緩傾斜で掘り込まれており，最大壁高は12㎝を測る。床面はⅥ～Ⅶ層中に形成されており，全体的に起伏をもつ。周溝やピット，カマド，貯蔵穴は検出されなかった。遺物は須恵器片１点，鉄滓１点が出土している。出土遺物や遺構の形状，覆土のあり方などから判断して８世紀後葉，奈良時代の所産であった可能性が高い。




第９図　４号竪穴住居跡

### （２）掘立柱建物跡

**１号掘立柱建物跡**　調査区の北東際，１・２号竪穴住居跡の下部より大形のピット１基が検出された。全体の規模，形状，主軸方向などは不明であるが，本地点の周辺では正倉の可能性などが考えられる大型の掘立柱建物跡が少なからず検出されていることから，本ピットも同様の掘立柱建物跡の柱掘方であった可能性が高い。確認されたピットの平面形は隅丸方形を呈し，口径 1.20 m，深さ 75 ㎝を測る。断面は筒状を呈する。遺物の出土はなかった。遺構の形状や覆土のあり方などから判断して７世紀後葉から奈良時代後葉以前の所産であった可能性が高い。切り合い関係をみると１・２号竪穴住居跡に先行する。

**２号掘立柱建物跡**　調査区の中央部北寄り，３号竪穴住居跡の下部より大形のピット１基が検出された。全体の規模，形状，主軸方向などは不明であるが，掘り込みの形状や規模などからみて本ピットも１号と同様の掘立柱建物跡の柱掘方であった可能性が高い。西側が調査区域外にかかっているが，確認されたピットの平面形は隅丸方形ないし長方形を呈し，口径 80 ㎝以上，深さ 40 ㎝を測る。断面は筒状を呈する。遺物の出土はなかった。遺構の形状や覆土のあり方などから判断して９世紀前葉，平安時代以前の所産であった可能性が高い。切り合い関係をみると３号竪穴住居跡に先行する。

### （３）版築遺構

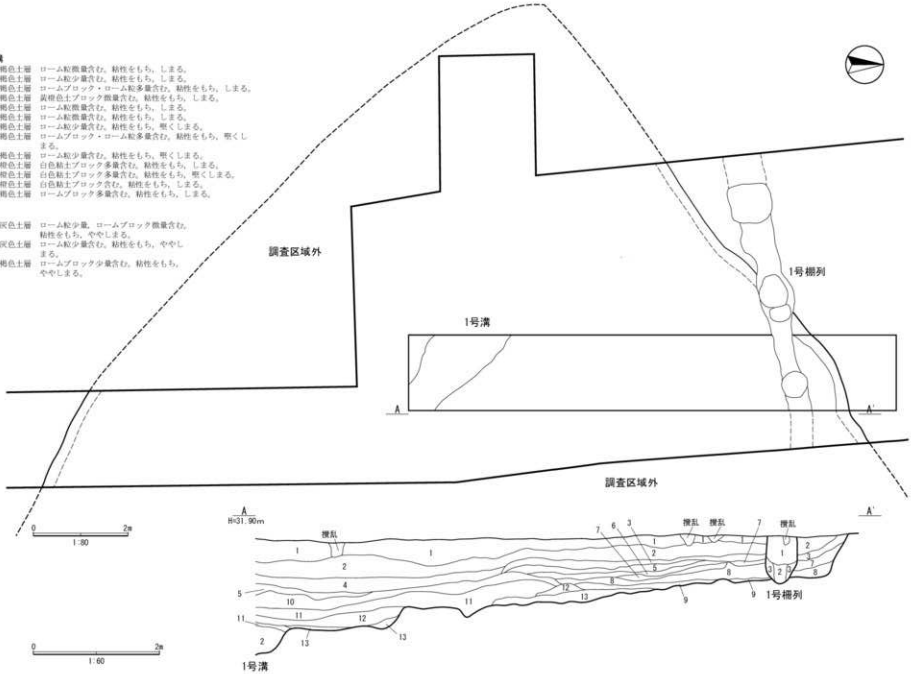
**１号版築遺構**　調査区の南側に位置する。北側を１号柵列に切られ，１号溝を切る。一部分の確認であり全容は不明であるが，一辺 15 m以上，深さ 0.6 ～ 1.2 mの方形ないし長方形の掘り込み内より版築状を呈する埋土が検出されている。掘り込みの推定主軸方向はN―40°―Wである。掘り込みの断面は急傾斜であるが，底面は起伏に富み，南側に向かって傾斜している。土地改変のための掘り込み地業跡と考えられる。遺物は縄文土器６点，弥生土器８点，須恵器 161 点，土師器 1,685 点，灰釉

**1号版築遺構**

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 10YR2/3黒褐色土層 | ローム粒微量含む，粘性をもち，しまる。 |
| 2 | 10YR3/1黒褐色土層 | ローム粒少量含む，粘性をもち，しまる。 |
| 3 | 10YR3/3暗褐色土層 | ロームブロック・ローム粒多量含む，粘性をもち，しまる。 |
| 4 | 10YR3/1黒褐色土層 | 黄橙色土ブロック微量含む，粘性をもち，しまる。 |
| 5 | 10YR2/3黒褐色土層 | ローム粒微量含む，粘性をもち，しまる。 |
| 6 | 10YR3/3暗褐色土層 | ローム粒微量含む，粘性をもち，しまる。 |
| 7 | 10YR3/1黒褐色土層 | ローム粒少量含む，粘性をもち，弱くしまる。 |
| 8 | 10YR3/3暗褐色土層 | ロームブロック・ローム粒多量含む，粘性をもち，弱くしまる。 |
| 9 | 10YR3/3暗褐色土層 | ローム粒少量含む，粘性をもち，弱くしまる。 |
| 10 | 10YR8/6黄橙色土層 | 白色粘土ブロック多量含む，粘性をもち，しまる。 |
| 11 | 10YR8/6黄橙色土層 | 白色粘土ブロック多量含む，粘性をもち，弱くしまる。 |
| 12 | 10YR8/6黄橙色土層 | 白色粘土ブロック含む，粘性をもち，しまる。 |
| 13 | 10YR3/3暗褐色土層 | ロームブロック多量含む，粘性をもち，しまる。 |

**1号棚列**

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 10YR4/1暗灰色土層 | ローム粒少量，ロームブロック微量含む，粘性をもち，ややしまる。 |
| 2 | 10YR4/1暗灰色土層 | ローム粒少量含む，粘性をもち，ややしまる。 |
| 3 | 10YR3/2黒褐色土層 | ロームブロック少量含む，粘性をもち，ややしまる。 |

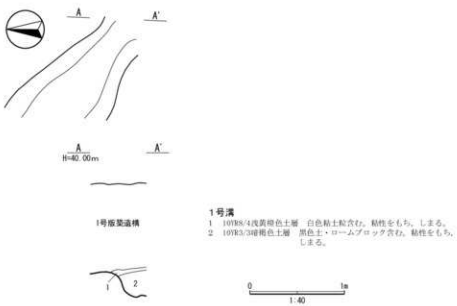



第10図　1号版築遺構

陶器6点，平瓦1点，丸瓦1点，釘3点，鉄滓17点，礫80点が埋土の上・中・下層より出土している。出土遺物や遺構の形状などから判断して9世紀前葉，平安時代の所産である可能性が高い。切り合い関係をみると1号溝に後続し，1号柵列に先行する。

### （4）溝

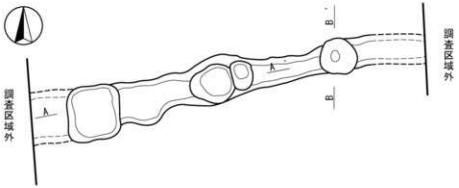
**1号溝**　調査区の南側に位置する。1号版築遺構に切られる。一部が確認されたのみであり，全容は不明であるが，1号版築遺構の中央部を北西から南東方向に走る。全長2.3 m以上，上幅3.0 m以上，底幅0.7～1.2 m，深さ1.8 mを測る。推定主軸方向はN－60°－Wである。断面は逆台形状に近い。確認範囲は限られるが，底面の標高は29.74 mを測る。遺物は弥生土器片1点，土師器片126点が出土している。遺構の形状や覆土のあり方などから判断して9世紀前葉以前，平安時代前葉以前の所産であった可能性が高い。切り合い関係をみると1号版築遺構に先行する。

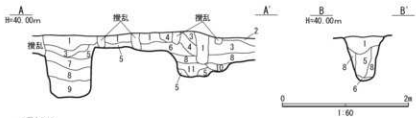



第11図　1号溝

### （5）柵列

**1号柵列**　調査区の南側に位置する。1号版築遺構の北側を切る。一部が確認されただけであり，全容は不明であるが，1号版築遺構の北側をほぼ東西に走る。直径0.6～0.8 m，深さ0.7～1.0 mの土坑状の掘り込みが布掘り状掘り込みに結ばれるように1.1 mほどの間隔をあけて全長5.0 m以上にわたって連続している。土坑状掘り込みの平面形は楕円形ないし隅丸方形，断面は筒状に近い。推定主軸方向はN－10°－Eである。遺物の出土なかった。遺構の形状や覆土のあり方などから判断して古代以降の所産であった可能性が高い。切り合い関係をみると1号版築遺構に後続する。



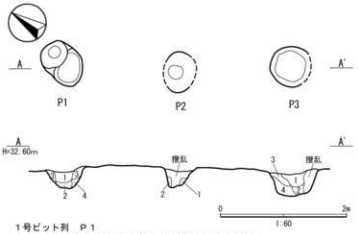

**1号柵列**

1　10YR4/1褐灰色土層　ローム粒・黒褐色土ブロック微量含む。やや粘性・しまりをもつ。
2　10YR4/2灰黄褐色土層　ローム粒少量含む。粘性をもち、ややしまる。
3　10YR4/2灰黄褐色土層　ローム粒・ロームブロック・黒褐色土ブロック含む。粘性をもち、ややしまる。
4　10YR3/3暗褐色土層　ロームブロック粒微量含む。粘性をもち、ややしまる。
5　10YR4/1褐灰色土層　ローム粒・黒褐色土粒微量含む。粘性をもち、ややしまる。
6　10YR3/3黒褐色土層　ローム粒少量含む。粘性をもち、ややしまる。
7　10YR3/3暗褐色土層　ローム粒・黒色土ブロック微量含む。粘性をもち、ややしまる。
8　10YR2/3黒褐色土層　ロームブロック微量含む。粘性をもち、ややしまる。
9　10YR3/1黒褐色土層　ローム粒・ロームブロック少量含む。粘性をもち、ややしまる。
10　10YR4/2灰黄褐色土層　ローム粒・灰白色粘土粒少量含む。粘性をもち、ややしまる。
11　10YR3/3暗褐色土層　ロームブロック少量含む。粘性をもち、ややしまる。

第12図　1号柵列

### （6）ピット列

調査区の北端に位置する。東側に近接して1・2号竪穴住居跡が位置する。一部が確認されたのみであり，全容は不明であるが，直径60～71㎝，深さ31～42㎝の3基のピットが1.1～1.2ｍほどの間隔をおいて北西から南東方向に直線的に配列されている。ピットの平面形は円形ないし楕円形，断面は逆台形ないし逆円錐形を呈する。推定主軸方向はN－32°－Wである。遺物の出土はみられなかった。遺構の形状や覆土のあり方などから判断して古代以降の所産であった可能性が高い。　（折原）




**1号ピット列　P 1**

1　10YR3/3暗褐色土層　ローム粒含む。やや粘性・しまりに欠ける。
2　10YR3/1黒褐色土層　ローム粒微量含む。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。
3　10YR3/3暗褐色土層　ローム粒微量含む。粘性をもち、ややしまる。
4　10YR3/2黒褐色土層　ローム粒少量含む。粘性をもち、ややしまる。

**1号ピット列　P 2**

1　10YR3/2黒褐色土層　ローム粒微量含む。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。
2　10YR3/3暗褐色土層　ロームブロック少量含む。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。

**1号ピット列　P 3**

1　10YR2/2黒褐色土層　ロームブロック少量含む。粘性をもち、ややしまる。
2　10YR3/1黒褐色土層　ロームブロック少量含む。粘性をもち、しまる。
3　10YR3/3暗褐色土層　ロームブロック少量含む。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。
4　10YR3/3暗褐色土層　ロームブロック少量含む。粘性をもち、ややしまる。

第13図　1号ピット列

## 3－4　遺物

今回の調査地点からは縄文土器，弥生土器，須恵器，土師器，灰釉陶器，古代瓦，鉄鏃，鉄釘，鉄滓，陶器，礫などが遺物収納箱にして約7箱分，2,501点，92,854.4g出土した。遺物の主体は須恵器と土師器であり，須恵器の273点，10,628.3g，土師器の2,072点，56,074.4gを合計すると，点数比で出土遺物全体の約93%，重量比では約70%に達する。遺構別では1号版築遺構からの出土遺物が点数比で全体の約78%，重量比では約74%を占める。時間的には古墳時代末葉～奈良時代のものが中心である。

**土器**　縄文土器8点，弥生土器9点，須恵器279点，土師器2,072点，陶器1点が出土している。

縄文土器と弥生土器は1号版築遺構を中心に出土しており，当該土器に伴う遺構は今回の調査では未検出である。縄文土器は早期・中期・後期土器などが含まれるが，細片が多く，型式を特定できるものはない。弥生土器も同じく細片が多く，型式の明らかなものはみられない。

出土土器の主体を占める古墳時代～平安時代の遺物の8割近くは1号版築遺構から出土しているのに対し，竪穴住居跡からの出土は1割にもみたない。特に上面を1号竪穴住居跡に切られる2号竪穴住居跡からの遺物の出土は鉄鏃1点のみであり，上面を削平されている4号竪穴住居跡でも当該期の遺物は須恵器1点，鉄滓1点が出土しているにすぎない。

確認された須恵器は蓋・坏・高坏・高台付坏・盤・高台付盤・鉢・壺・甕・甑・羽釜とバラエティーに富んでいる。主体を占めるのは坏類と甕であり，時間的には7世紀後葉～8世紀前葉と8世紀後葉～9世紀前葉のほぼ二つのグループに大別される。1号版築遺構出土の坏20，蓋26・27・29～34・36などは7世紀後葉～8世紀初頭，1号竪穴住居跡出土の坏1，高台付坏2，蓋3，壺4，3号竪穴住居跡出土の蓋7～12，高台付盤13，4号竪穴住居跡出土の高台付坏19，1号版築遺構出土の高台付坏21～23，高坏24・25，高台付盤37などは8世紀後葉～9世紀前葉に比定される。1号版築遺構出土の高台付坏23や高坏24，高台付盤37は特徴的な器形からみて寺院あるいは官衙に関連する遺物である可能性が高い。3号竪穴住居跡を中心とした大小多量の蓋の出土ともあわせて，本地点を舞台にした土地利用のあり方を考える上でも注目される資料といえる。特に蓋9は口径24cmと大型品であり，その用途が注意される。また，高台付坏2は内面が硯に転用されている。1号版築遺構確認面出土の羽釜55・56も近隣では類例の少ない資料である。生産地としては在地の木葉下窯跡群産や新治窯跡群産を主体とするが，1号版築遺構出土の甕51の須恵器は，湖西窯跡群産の搬入品と思われる。

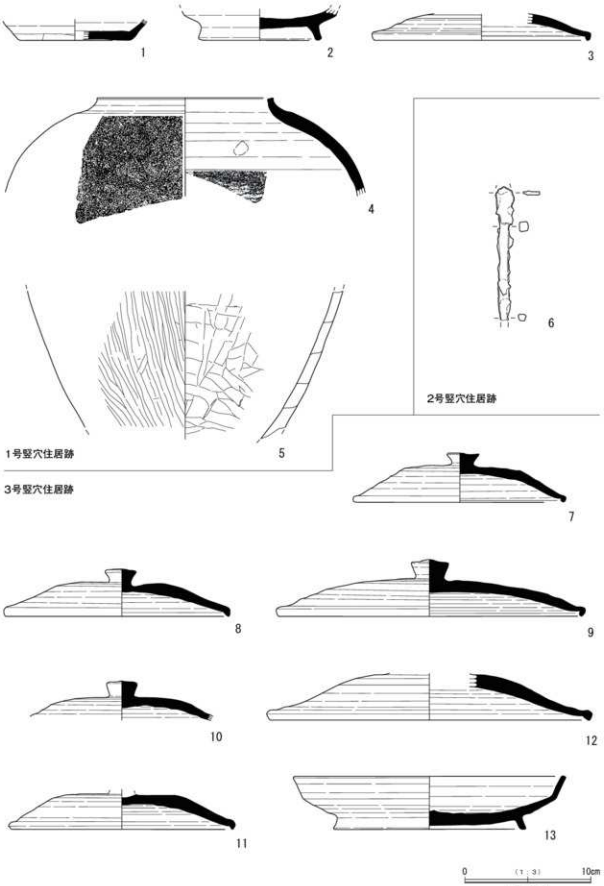
土師器は坏・高坏・埦・鉢・壺・甕・甑などが出土している。坏類と甕が主体を占めるのは須恵器の場合と変わらないが，時間的には7世紀後葉が中心である。坏65・66は赤彩品である。また，坏73は内面に漆状物質を塗布後，2条1単位の放射状暗文を描いている。栃木県下において出土例の多い漆塗り土器との関連が注意される。坏69～71は特徴的な胎土や色調，調整，器形などからみて畿内系土師器の可能性も考えられる。坏59・68・75などには黒色付着物が認められる。甕5・14・84・89・107～110・115・116・128などは常総型甕である。甕98の口縁部外面には赤彩が施されている。

陶器は表面採集された瀬戸・美濃系埦が1点出土しているのみである。細片であり，正確な時期などは不明である。

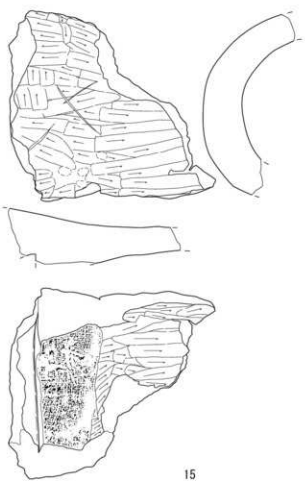
**瓦**　3号竪穴住居跡と1号版築遺構を中心に軒丸瓦1点，平瓦13点，丸瓦1点が出土している。時間的には奈良時代例を主体としていたと考えられるが，近隣に瓦が葺かれていたと考えられる台渡里廃寺や正倉群が存在していたことなどを考慮すると，出土量は限定的である。凸面調整の内訳は，平瓦が正格子目叩き2点（16），長縄圧痕6点（18），ヘラケズリ調整2点（17），泥条版築技法を用いたもの1点（127）である。丸瓦はヘラケズリ調整1点（126），軒丸瓦は瓦当面が欠損しているが，ヘラケズリ調整1点（15）である。泥条版築技法の平瓦とヘラケズリ調整の丸瓦は1号版築遺構からの出土，残りはすべて3号竪穴住居跡からの出土であり，後者の多くはカマドの構築材として利用されていることが注目される。

**金属製品**　鉄鏃1点，釘6点，鉄滓25点が確認されている。1号竪穴住居跡と1号版築遺構からの出土が中心であり，1号竪穴住居跡では釘1点，鉄滓5点，1号版築遺構では釘3点，鉄滓17点の出土が確認されている。長茎の鉄鏃6は2号竪穴住居跡からの出土である。

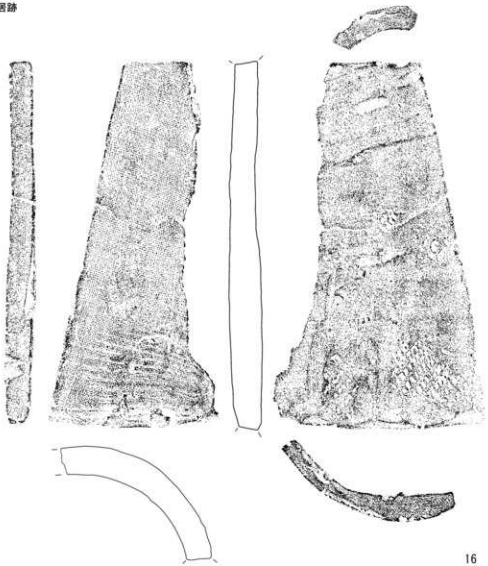
**文字資料**　文字資料としては，3号竪穴住居跡出土軒丸瓦15の丸瓦部凹面に残されたヘラ書き，1号版築遺構出土須恵器高台付坏23の坏部底部に残されたヘラ記号，同じく1号版築遺構出土須恵器甕50の胴部に残されたヘラ記号，1号拡張区出土須恵器甕132の頸部に残されたヘラ記号の4点がある。15は「中寺」とも「仲寺」読めるが，表面の剥離が激しく，詳細は不明である。　（折原）

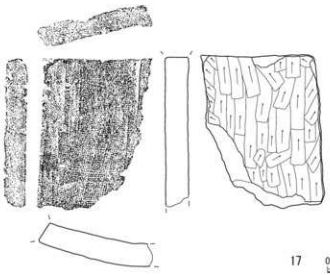



第 14 図　出土遺物（1）



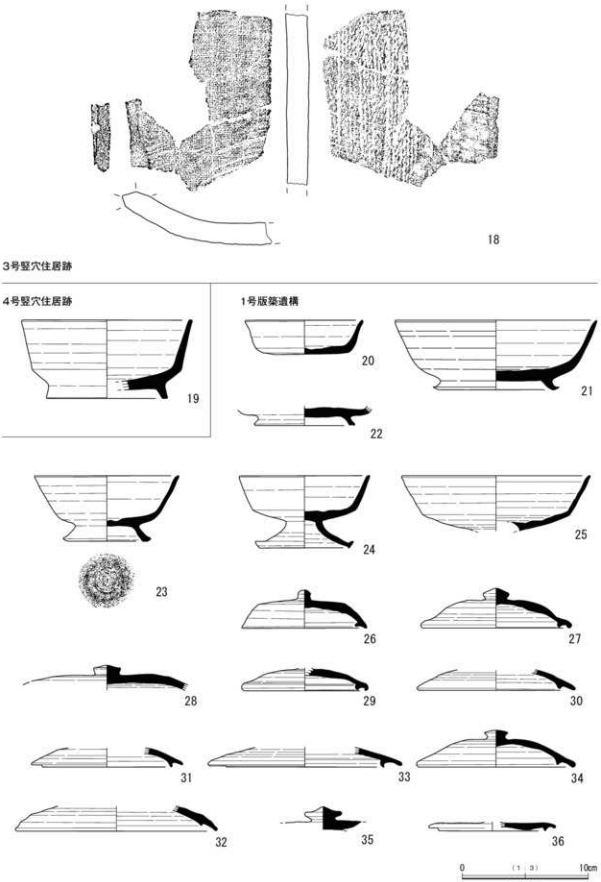
第15図　出土遺物（2）



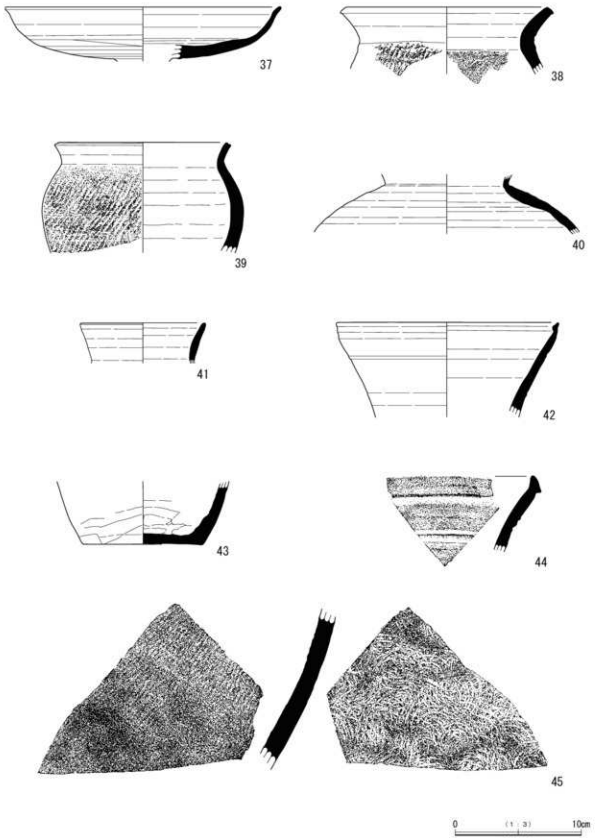




0 (1：3) 10cm
(16～17)

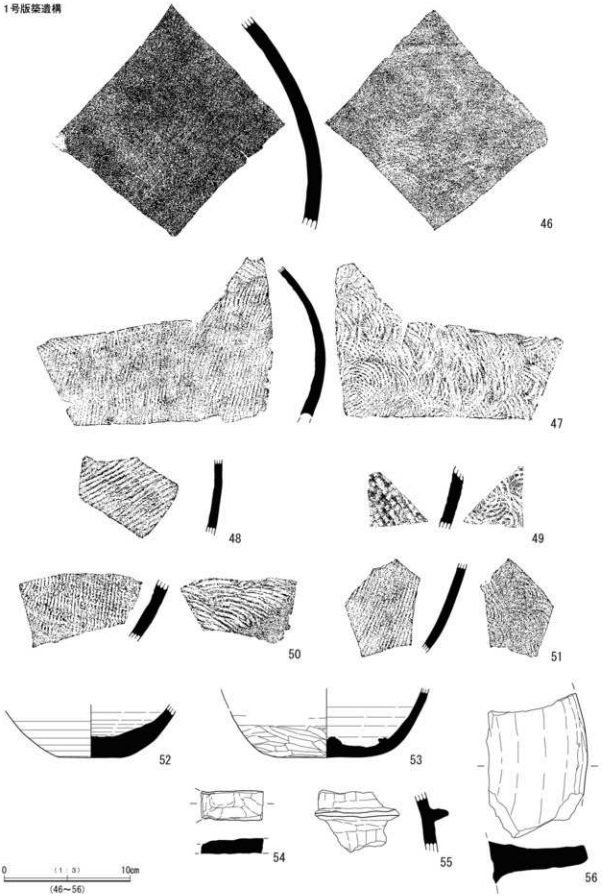
第16図　出土遺物（3）


18
3号竪穴住居跡
4号竪穴住居跡
1号版築遺構
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
33
34
32
35
36
0
(1/3)
10cm
(18～36)

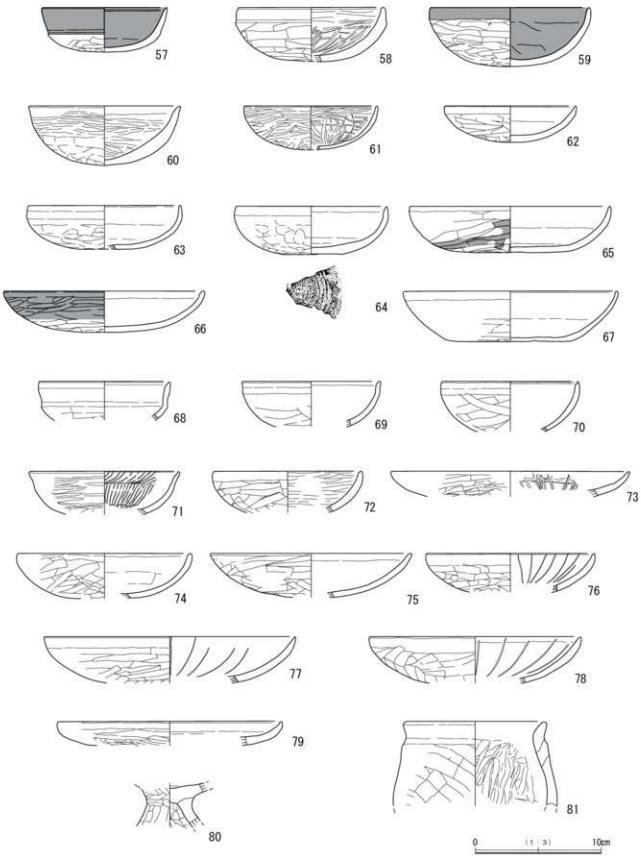
第 17 図　出土遺物（4）



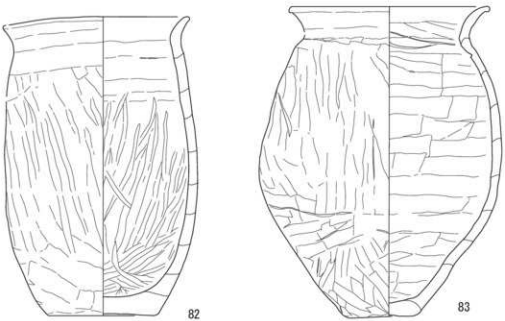

第18図　出土遺物（5）

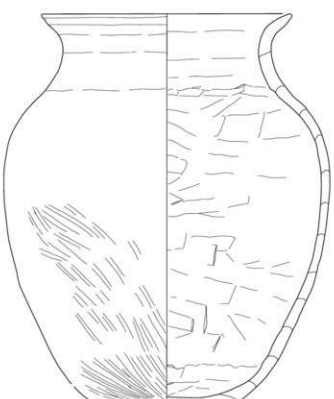



第19図　出土遺物（6）

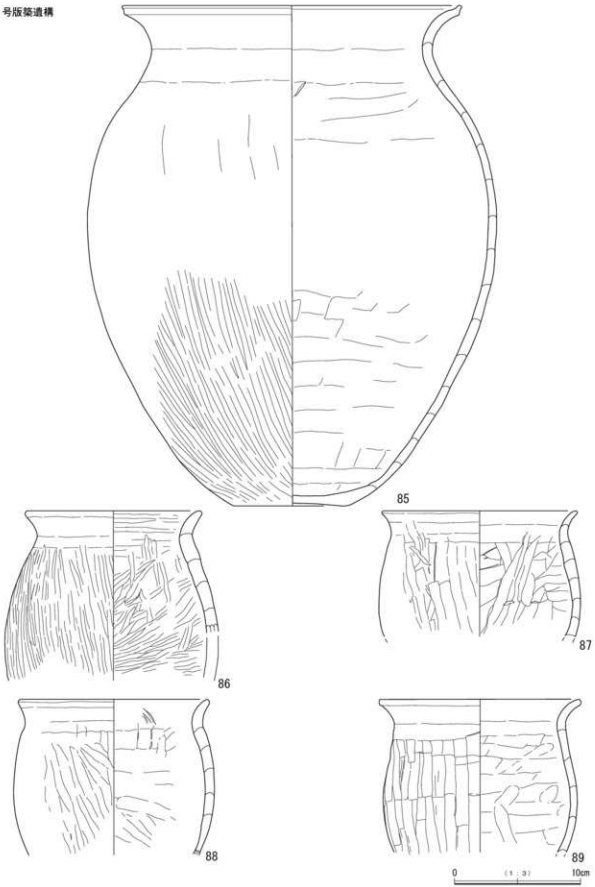

57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
0
(1：3)
10cm
(57～81)

第20図　出土遺物（7）

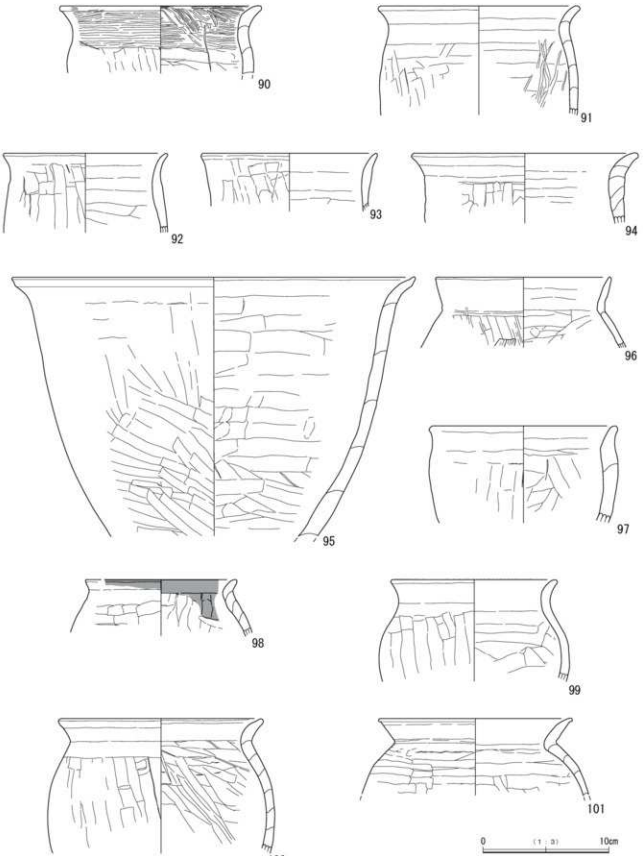


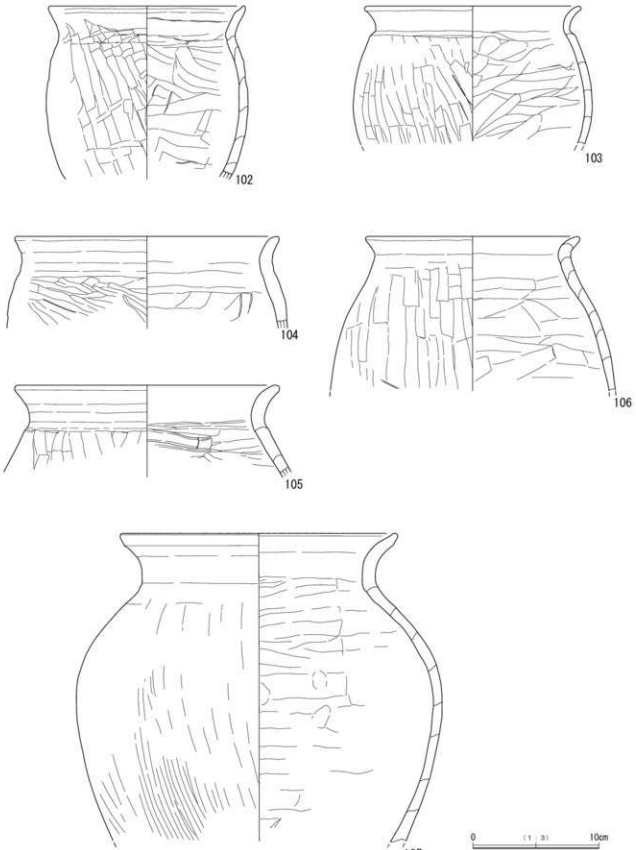
第21図　出土遺物（8）



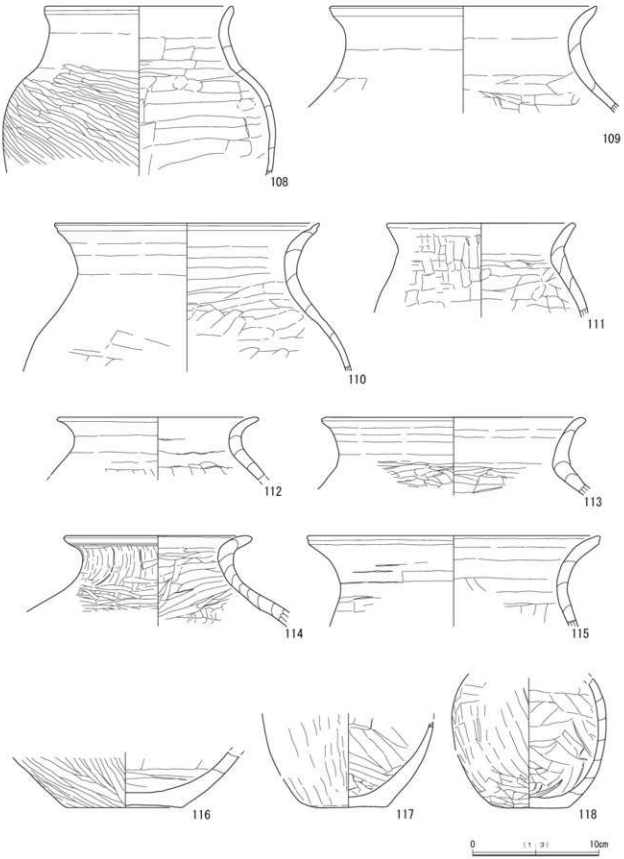

第22図　出土遺物（9）



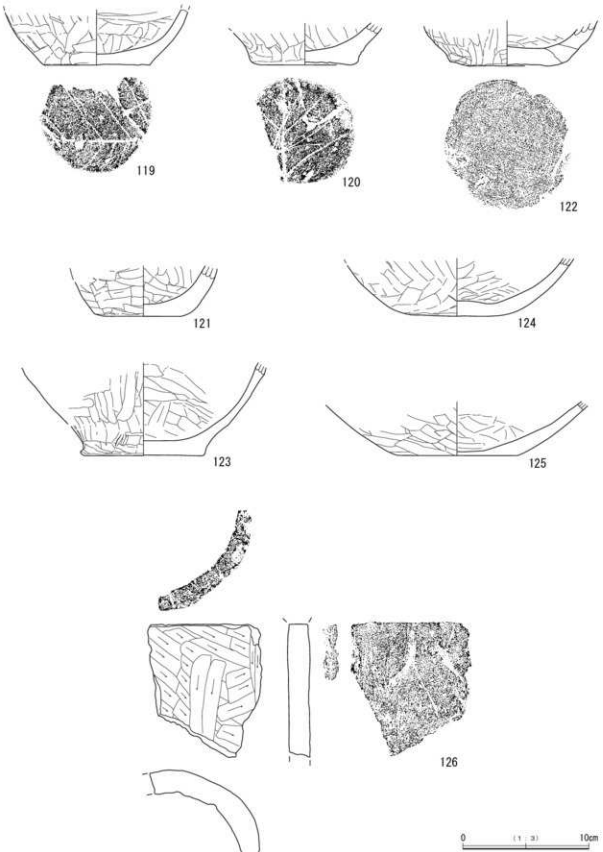

第23図　出土遺物（10）




第24図　出土遺物（11）

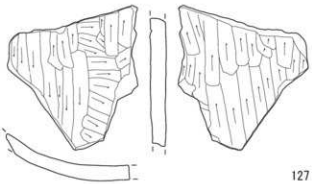



第25図　出土遺物（12）

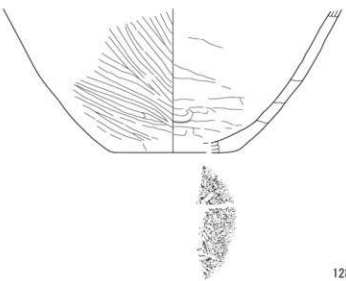



第26図　出土遺物（13）

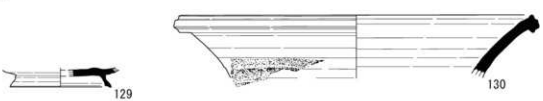
1号版築遺構



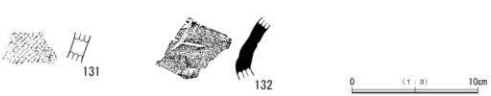

1号溝




表土一括




1号拡張区一括




第27図　出土遺物（14）

## 第３表　出土遺物属性一覧

| 図版番号 | 出土地点遺構 | 種別 | 器種 | 残存部位 | 残存率(%) | 口径(推定口径)(cm) | 底径(推定底径)(cm) | 器高(残存高)(cm) | 特徴・手法 | 胎土 | 海綿骨針 | 焼成 | 焼成窯 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1号竪穴住居跡 | 縄忠器 | 坏 | 体部～底部 | 20 | － | (9.0) | (1.7) | 平底で体部が外反。胴部外面下端横方向手もちヘラケズリ，内面から底部内面回転ナデ，底部外面一方向手もちヘラケズリ。 | 雲母片を多量 白色粒子・砂粒を少量 | × | 良好 | 新治窯跡群産 | 外面：10YR2/6 明黄褐色 内面：7.5YR8/6 淡黄橙色 | 底部内外面煤付着。 |
| 2 | 1号竪穴住居跡 | 縄忠器 | 高台付坏 | 体部下端～底部 | 30 | － | 高台部径 (9.8) | <2.5> | 高台部のやや厚みを帯び，「ハ」字状に開く。体部内面回転ナデ，底部外面方向回転ヘラ切り離し後，未調整。高台部貼り付け。 | 白色粒子・砂粒・チャートを少量 | × | 良好 | 本郷下窯跡群産 | 内外面：2.5YR/1 灰白色 | 内面転用痕。外面の一部に煤付着。 |
| 3 | 1号竪穴住居跡 | 縄忠器 | 蓋 | 天井部～端部 | 30 | (17.0) | － | <2.1> | 天井部形状は不明。かえりなし。端部外面面取りして垂下。天井部外面上位左回転ヘラケズリ，下位左回転ナデ，内面右回転ナデ。端部横面回転ナデ。 | チャートを少量 白・黒色粒子を微量 | ○ | 良好 | 本郷下窯跡群産 | 内外面：7.5YR/1 灰色 | |
| 4 | 1号竪穴住居跡 | 縄忠器 | 短頸壺 | 口縁部～胴部 | 20 | (13.9) | － | <7.8> | 口縁部上端を面取り，口縁部短く垂直に立ち上がる。最大径の位置は胴部中位。口縁部内外面ヨコナデ，胴部外面斜方向平行叩き後左回転ナデおよびナデ，内面上位左回転ナデ，中位青海波文。指痕あり。 | 白色粒子・砂粒を多量 黒色粒子・チャートを少量 | × | 良好 | 本郷下窯跡群産 | 内外面：N5/ 灰色 | |
| 5 | 1号竪穴住居跡 | 土師器 | 甕 | 胴部 | 10 | － | － | <11.7> | 胴部直線的に立ち上がる。最大径の位置は不明。胴部外面横方向ヘラケズリ後ナデ後斜方向ヘラナデ。ヨコナデ，下端横方向ヘラナデ，下端横積みの痕れ。 | 白色粒子・チャート・雲母片を多量 | × | 良好 | － | 外面：10YR6/4 にぶい黄橙色 内面：10YR17/1 黒色 | 常総型甕。 |
| 6 | 2号竪穴住居跡 | 鉄製品 | 鉄鏃 | 鏃身部～茎部 | 60 | 鏃身長 (2.4) | 鏃身幅 (1.5) | 全長 (10.8) | 鏃身部がやや長い柳葉型鉄鏃。鞴部で茎部は長い。 | － | － | － | － | － | 鏃身部厚 (0.4) 茎部長 (8.4) 224g |
| 7 | 3号竪穴住居跡 | 縄忠器 | 蓋 | 天井部～端部 | 70 | (17.0) | － | 3.9 | 天井部形状湾曲，かえりがなく，端部は丸味帯びて内側に向かい折れ込む。縁は鋭部が突出しない擬宝珠状。天井部外面右回転ヘラケズリ，内面右回転ナデ。 | 白色粒子・チャートを少量 黒色粒子を微量 | ○ | 良好 | 本郷下窯跡群産 | 内外面：2.5Y6/1 黄灰色 | つまみ径 25. 稜高 1.0 cm。 |
| 8 | 3号竪穴住居跡 | 縄忠器 | 蓋 | 天井部～端部 | 60 | 17.9 | － | 3.8 | 天井部形状湾曲，かえりはなく，端部横面を面取りして短く垂下させる。縁は鋭部が突出する擬宝珠状。天井部外面右回転ヘラケズリ，内面右回転ナデ。 | 白色粒子・チャートを少量 黒色粒子を微量 | ○ | 良好 | 本郷下窯跡群産 | 内外面：2.5Y5/1 黄灰色 | つまみ径 25. 稜高 1.1 cm。 |
| 9 | 3号竪穴住居跡 | 縄忠器 | 蓋 | 略完形 | 95 | 24.0 | － | 4.5 | 大型品。天井部形状湾状。かえりがなく，端部は丸味帯びてわずかに内側に折れ込む。縁は鋭部が突出する擬宝珠状。天井部外面右回転ヘラケズリ，内面右回転ナデ。外面全面に白然釉。 | 白色粒子・チャートを少量 黒色粒子を微量 | ○ | 良好 | 本郷下窯跡群産 | 外面：5Y4/1 灰色 内面：2.5Y5/1 黄灰色 釉：10Y4/2 オリーブ灰色 | つまみ径 29. 稜高 1.6 cm。 |
| 10 | 3号竪穴住居跡 | 縄忠器 | 蓋 | 天井部 | 60 | 残存径 14.8 | － | <3.1> | 天井部形状湾状，縁は擬宝珠状。かえりは不明。天井部外面右回転ヘラケズリ，内面右回転ナデ。外面ロクロ目調整。 | 白色粒子・砂粒・チャートを少量 | ○ | 良好 | 本郷下窯跡群産 | 内外面：2.5Y5/1 黄灰色 | つまみ径 24. 稜高 1.0 cm。 |
| 11 | 3号竪穴住居跡 | 縄忠器 | 蓋 | 天井部～端部 | 90 | 17.6 | － | <2.8> | 天井部形状は湾状。かえりはなく，端部は外面を面取りして，わずかに外側に折れる。縁不鋭。天井部外面左回転ヘラケズリ，内面左回転ナデ。 | チャートを多量，砂粒を少量。白色粒子を微量 | ○ | 良好 | 本郷下窯跡群産 | 外面：5YR5/3 にぶい赤褐色 内面：5Y5/1 褐灰色 | 赤焼け。 |
| 12 | 3号竪穴住居跡 | 縄忠器 | 蓋 | 天井部～端部 | 40 | (25.6) | － | (3.7) | 天井部形状は湾状。かえりなし。端部は短くわずかに内側へ折れ込む。縁不鋭。天井部外面右回転ヘラケズリ後ナデ，内面右回転ナデ。天井部外面に白然釉。 | チャートを多量 白色粒子・砂粒を少量 | ○ | 良好 | 本郷下窯跡群産 | 外面：2.5YR/2 灰白色 内面：5Y6/1 灰色 | |
| 13 | 3号竪穴住居跡 | 縄忠器 | 高台付壺 | 口縁部～底部 | 60 | (21.3) | (15.4) | 4.2 | 体部中央部で角度を変えて，口縁部外開。体部下位がわずかに丸みを帯びる。高台部は「ハ」字状に開く。口縁部内外面ヨコナデ，体部内面回転ナデ，一部に指痕。内部から見込み部右回転ナデ。底部内面回転ヘラ切り離し後張いナデ。高台部貼り付け。ロクロ目が顕著。 | 白色粒子・砂粒・チャートを少量 | ○ | 良好 | 本郷下窯跡群産 | 内外面：2.5Y5/1 黄灰色 | 見込み部に焼成時の付着物。 |
| 14 | 3号竪穴住居跡 | 土師器 | 甕 | 胴部 | 40 | － | － | 17.0 | 胴部直線的に立ち上がる。最大径の位置は不明。胴部外面中位ナデ，下位ナデ後斜方向ヘラケガキ，内面多方向ヘラナデ後ナデ，指頭痕。 | 白色粒子・砂粒・チャートを少量 | × | 良好 | － | 内外面：10YR4/3 にぶい黄褐色 | 常総型甕。 |
| 19 | 4号竪穴住居跡 | 縄忠器 | 高台付坏 | 口縁部～底部 | 50 | (13.4) | (9.7) | 6.2 | 体部下位で角度を変えて，口縁部がすぐに外反する。高台部は「ハ」字状に開く。口縁部ヨコナデ，体部内外面および見込み部左回転ナデ，底部外面左回転ヘラ切り離し後右回転ナデ。高台部貼り付け。 | 白色粒子・チャートを少量 白色粒子を微量 | ○ | 良好 | 本郷下窯跡群産 | 外面：N4/ 灰色 内面：2.5Y7/1 灰白色 | |

| 図版番号 | 出土地点遺構 | 種別 | 器種 | 残存部位 | 残存率(%) | 口径(推定口径)(cm) | 底径(推定底径)(cm) | 器高(残存高)(cm) | 特徴・手法 | 胎土 | 海綿骨針 | 焼成 | 焼成窯 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 20 | 1号甕墓遺構 | 須恵器 | 坏 | 口縁部～底部 | 60 | (9.2) | (6.7) | 2.7 | 平底で体部中位で角度を変え、口縁部は外反。口縁部内外面ヨコナデ、体部外面手もちナデ、内面回転ヘラ状工具ケズナデ、見込み部左回転ナデ、一部に指紋。底部外面左回転ヘラ切り離し後全面手もちヘラケズリ後ナデ。ロクロ目が顕著。 | 砂粒・チャートを少量白・黒色粒子を微量 | ○ | 良好 | 本葉下窯跡群産 | 内外面：5Y5/1灰色 | |
| 21 | 1号甕墓遺構 | 須恵器 | 高台付坏 | 口縁部～底部 | 40 | (15.9) | (10.0) | 5.5 | 口縁部は外反、体部下位は丸みを帯びる。高台部「ハ」字状に開く。口縁部内外面ヨコナデ、体部外面左回転ヘラ削ナデ、内面左回転ナデ、見込み部右回転ナデ、底部外面右回転ヘラ切り離し後手もちナデ。高台部貼り付けで内側で接触。 | 白色粒子・砂粒・チャートを少量黒色片・長石を微量 | × | 良好 | 新治窯跡群産 | 内外面：2.5Y8/1灰白色 | |
| 22 | 1号甕墓遺構 | 須恵器 | 高台付坏 | 体部～底部 | 30 | － | 高台部径8.0 | (1.5) | 高台部「ハ」字状に開く。体部内外面丁寧ナデおよび見込み部左回転ナデ。底部外面左回転ヘラ切り離し後未調整。高台部貼り付けで外側で接触。端部の中央部がやや窪む。 | 白色粒子・砂粒を多量、チャートを少量 | ○ | 良好 | 新治窯跡群産 | 外面：2.5Y7/4浅黄色内面：2.5Y6/2灰黄色 | 底部外面に焼成時由来の亀裂あり。 |
| 23 | 1号甕墓遺構 | 須恵器 | 高台付坏 | 口縁部～底部 | 60 | (11.3) | 7.0 | 5.2 | 口縁部外反、体部下位丸みを帯びる。高台部「ハ」字状に開く。口縁部内外面ヨコナデ、体部外面左回転ナデ後ナデ、内面左回転ナデ後ナデ。見込み部やや中央部が窪み左回転ナデ後丁寧なナデ。底部外面方向不明の回転ヘラ切り離し後丁寧なナデ。高台部貼り付けで内側で接触。内外面回転ナデ後丁寧なナデ。 | 白・黒色粒子・チャートを少量砂粒を微量 | ○ | 良好 | 本葉下窯跡群産 | 内外面：2.5Y6/1黄灰色 | 坏部底部外面にヘラ記号。見込み部に焼成時の付着物。器形より奈良・宮廷関連の遺物？。 |
| 24 | 1号甕墓遺構 | 須恵器 | 高坏 | 口縁部～底部 | 60 | (10.3) | (7.2) | 5.7 | 口縁部外反、体部直線的。脚部短く、高坏部の接合、脚部端部上端外面を面取りして、上方に抜き上げる。口縁部内外面ヨコナデ、体部外面左回転ナデ後丁寧なナデ。内面および見込み部左回転ナデ後丁寧なナデ。底部外面左回転ヘラ切り離し後ナデ。高台部貼り付けで内側で接触。内外面左回転ナデ後丁寧なナデ。 | 白・黒色粒子・チャートを少量長石を微量 | ○ | 良好 | 本葉下窯跡群産 | 内外面：5Y5/1灰色 | 器形より奈良・宮廷関連の遺物？。 |
| 25 | 1号甕墓遺構 | 須恵器 | 高坏 | 口縁部～底部 | 50 | (14.8) | － | <4.4> | 丸底で体部中位で角度を変え、口縁部が外反。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面左回転ナデ、底部外面左回転ヘラ削り後回転ナデおよび手もちナデ。ロクロ目顕著。 | 白・黒色粒子・チャートを少量 | ○ | 良好 | 新治窯跡群産 | 内外面：10YR6/1褐灰色 | |
| 26 | 1号甕墓遺構 | 須恵器 | 蓋 | 完形 | 100 | 9.9 | － | 3.0 | 天井部形状は豆状。かえりをもち、玉縁状の端部が丸下方に開く。段逆前は端部。稜は丸潰状。天井部外面右回転ヘラケズリ、内面右回転ナデ。 | 白色粒子・砂粒を少量、雲母片を微量 | × | 良好 | 新治窯跡群産 | 内外面：10YR6/6明黄褐色 | かえり径8.2、つまみ径1.0、稜高0.7 cm。環状C土師器？。 |
| 27 | 1号甕墓遺構 | 須恵器 | 蓋 | 天井部～端部 | 30 | (11.8) | － | 3.2 | 天井部形状は豆状。扁角なかえりを垂下。玉縁状の端部が下方に開く。稜は擬宝珠状。かえりで段逆。天井部外面右回転ヘラケズリ、内面左回転ナデ。 | 白色粒子・砂粒を少量、長石を微量 | × | 良好 | 本葉下窯跡群産 | 外面：2.5Y5/1黄灰色内面：2.5Y6/1黄灰色 | かえり径(10.0)、つまみ径2.0、稜高0.8 cm。 |
| 28 | 1号甕墓遺構 | 須恵器 | 蓋 | 稜部～天井部 | 60 | － | － | (2.0) | 天井部形状は豆状。天井部中位以下を欠損。稜は擬宝珠状。天井部外面左回転ヘラケズリ、内面左回転ナデ。天井部外面自然釉および酸化鉄付着。 | 白・黒色粒子を少量チャート・長石を微量 | ○ | 良好 | 本葉下窯跡群産 | 内外面：N5/灰色軸：N7/灰白色 | 稜高0.7 cm。 |
| 29 | 1号甕墓遺構 | 須恵器 | 蓋 | 天井部～端部 | 40 | (10.0) | － | <1.8> | 天井部形状は笠状。断面形は扁角のかえりが垂下。端部は面上位および側面の2面を回転ヘラケズリによる面取り。かえりと端部が接触。天井部外面回転ナデ後ナデ、内面左回転ナデ。天井部外面に自然釉。 | 白・黒色粒子・砂粒を少量 | ○ | 良好 | 本葉下窯跡群産 | 内外面：10YR5/1褐灰色軸：10YR6/1灰白色 | かえり径（7.6）。 |
| 30 | 1号甕墓遺構 | 須恵器 | 蓋 | 天井部～端部 | 10 | (12.6) | － | <1.6> | 天井部形状は不明。扁角なかえりが垂下。端部の折れ込みなし。かえりと端部が接触。天井部回転方向不明の回転ヘラケズリ後回転ナデ。内面回転ナデ後ナデ。 | 白・赤色粒子を少量 | ○ | 良好 | 本葉下窯跡群産 | 内外面：5Y2/1灰白色 | かえり径(10.6)。 |
| 31 | 1号甕墓遺構 | 須恵器 | 蓋 | 天井部～端部 | 10 | (12.0) | － | <1.5> | 天井部形状は笠状。断面形は扁角のかえりが外反。端部の折れ込みなし。かえりと端部が接触。稜は欠損。天井部外面左回転ヘラケズリ、内面回転ナデ後ナデ。端部稜部上位回転ヘラケズリによる面取り。 | 白・黒色粒子・砂粒・チャートを少量長石を微量 | ○ | 良好 | 本葉下窯跡群産 | 内外面：N5/灰色 | かえり径(13.6)。 |

| 図版番号 | 出土地点遺構 | 種別 | 器種 | 残存部位 | 残存率(%) | 口径(推定口径)(cm) | 底径(推定底径)(cm) | 器高(残存高)(cm) | 特徴・手法 | 胎土 | 海綿骨針 | 焼成 | 焼成窯 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 32 | 1号版築遺構 | 須恵器 | 蓋 | 天井部～端部 | 10 | (16.0) | － | <2.0> | 天井部形状頂部。天井部より端部に向かい2回角度を変える。丸みを帯び短いかえりが外反。端部の折れ込みなし。端部で接地。天井部外面右回転ヘラケズり。内面右回転ナデ。 | 白色粒子・砂粒を少量 チャートを微量 | ○ | 良好 | 木葉下窯跡群産 | 内外面：10YR8/4 浅黄橙色 | かえり径(14.4)。 |
| 33 | 1号版築遺構 | 須恵器 | 蓋 | 天井部～端部 | 10 | (15.4) | － | <1.6> | 天井部形状頂部。断面形が鋭角で長いかえりがわずかに外反。端部の折れ込みなし。端部とかえりで接地。天井部内外面右回転ナデ後ナデ。端部側部上位にヘラケズりによる面取り。 | チャートを多量 白色粒子を少量 | ○ | 良好 | 木葉下窯跡群産 | 外面：N4/ 灰色 内面：N5/ 灰色 | かえり径(19.6)。 |
| 34 | 1号版築遺構 | 須恵器 | 蓋 | 天井部～端部 | 40 | (12.4) | － | 2.9 | 天井部形状頂部。やや丸みを帯びるかえりをもつ。端部は肥厚して丸縁状。端部で接地。縁は端平縁変形。天井部外面右回転ヘラケズり。内面手もちナデ。一部に指紋。 | 砂粒を少量。白・黒色粒子を微量 | × | 良好 | 木葉下窯跡群産 | 内外面：2.5YR/2 灰白色 | かえり径(9.8)。つまみ径19。総高0.7 cm。 |
| 35 | 1号版築遺構 | 須恵器 | 蓋 | 縁部～天井部 | 細片 | － | － | 1.7 | 天井部形状は不明。縁は下端部がたまり帯まり。端部が垂直下。縁平縁変形。縁部右回転ナデ。天井部外面右回転ヘラケズり。内面右回転ナデ後ナデ。 | 白色粒子・砂粒・チャートを少量 | × | 良好 | 木葉下窯跡群産 | 内外面：2.5Y7/2 灰黄色 | つまみ径3.0。総高1.2 cm。 |
| 36 | 1号版築遺構 | 須恵器 | 蓋 | 天井部～端部 | 25 | (10.0) | － | (0.7) | 天井部形状は平坦。かえりをもち、鋭角なかえりがわずかに外反する。端部はわずかに丸縁状。かえりで接地。縁は欠損。天井部内外面回転ナデ後下寄全ヘラもちナデ。天井部外面に自然釉。 | 白・黒色粒子を少量 微量 | × | 良好 | 木葉下窯跡群産 | 外面：N6/ 灰色 内面：2.5Y4/1 黄灰色 | かえり径（8.4）器形より歪曲す。 |
| 37 | 1号版築遺構 | 須恵器 | 台付壺 | 坏部口縁部～底部 | 25 | (21.8) | － | (4.3) | 口縁部の外反。体部は丸みを帯びる。脚部欠損。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上位および内面左回転ナデ。下位左回転ヘラケズり。見込み部ナデ。 | 白色粒子を多量。砂粒を少量 | ○ | 良好 | 木葉下窯跡群産 | 内外面：10Y5/1 灰色 | |
| 38 | 1号版築遺構 | 須恵器 | 坏 | 口縁部～胴部 | 10 | (16.0) | － | (5.3) | 口唇部上端を面取り。口縁部大きく外反。最大径の位置は口縁部。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面斜格子目押き後ナデ。内面斜方向ヘラナデ。 | 砂粒を少量 チャートを微量 | ○ | 良好 | 木葉下窯跡群産 | 内外面：5Y6/1 灰色 | |
| 39 | 1号版築遺構 | 須恵器 | 小型壺 | 口縁部～胴部 | 30 | (13.3) | － | (8.8) | 口唇部上面面取り。口縁部わずかに外反。最大径の位置は胴部中央。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上位ナデ。中位斜方向平行押さ。内面右回転ナデ。 | チャートを少量。白色粒子・砂粒を微量 | × | 良好 | 木葉下窯跡群産 | 外面：10YR8/1 黄白色 内面：10YR7/1 灰白色 | 口縁部の内外面に焼成時の付着物。外面剥脱。 |
| 40 | 1号版築遺構 | 須恵器 | 広口壺 | 胴部～胴部 | 10 | － | － | <4.7> | 胴部「こ」字状に折れる。胴部内外面回転ナデ後丁寧なナデ。胴部外面横の波がわずかに立つ。 | 白色粒子を微量 | × | 良好 | 鴨入品 調西窯跡群産 | 内外面：2.5Y7/1 灰白色 | 外面全面に黒色油出物付着。 |
| 41 | 1号版築遺構 | 須恵器 | 短頸壺 | 口縁部 | 10 | (9.8) | － | <3.2> | 口縁部やや外反。口縁部内外面上端ヨコナデ。上位以下外面左回転ナデ。内面右回転ナデ。 | 白色粒子・砂粒を多量 チャートを微量 | ○ | 良好 | 木葉下窯跡群産 | 内外面：5Y6/1 灰色 | |
| 42 | 1号版築遺構 | 須恵器 | 長頸壺 | 口縁部～胴部 | 30 | (17.4) | － | <7.5> | 口縁部わずかに内傾して上端が丸字状。口縁部は外傾して下位はわずかに膨らみをもつ。口縁部内面ヨコナデ。中位に金ノの沈線を横走。内面は調整不明。 | 砂粒を多量。黒色粒子・チャートを少量 | × | 良好 | 木葉下窯跡群産 | 外面：10YR5/1 褐灰色 内面：10YR6/1 褐灰色 | 内面全面に焼成時の付着物および強く自然釉。 |
| 43 | 1号版築遺構 | 須恵器 | 甕 | 胴部～底部 | 30 | － | 9.6 | (5.0) | 胴部がわずかに内傾しながら立ちあがる。最大径の位置は不明。胴部外面横方向ヘラケズり後ナデ。下端部横方向ヘラケズり後ナデ。内面はよび見込み部横撫でナデ。輪積み痕跡著。底部外面切り離し技法不明瞭丁寧なナデ。 | 雲母片を多量。砂粒を少量 | × | 良好 | 新治窯跡群産 | 内外面：10YR6/6 明黄褐色 | |
| 44 | 1号版築遺構 | 須恵器 | 甕 | 口縁部 | 細片 | － | － | － | 口縁部は丁字状で横面を回転ナデによる面取り。口縁部が長く外反。口縁部外面2条の平行沈線で上下に区画。区画内に櫛歯状工具による連続刺突文。口縁部内面ナデ。 | 黒色粒子を多量 | × | 良好 | 東海系鴨入品 | 外面：2.5Y5/1 黄灰色 内面：10YR6/1 褐灰色 | |
| 45 | 1号版築遺構 | 須恵器 | 甕 | 胴部 | 10 | － | － | － | 胴部外面横正格子目押き後ナデ。内面青海波文。胴部外面に輪。 | 白・黒色粒子を少量 チャートを微量 | × | 良好 | 木葉下窯跡群産 | 外面：N4/ 灰色 内面：5Y5/4 灰色 | |
| 46 | 1号版築遺構 | 須恵器 | 甕 | 胴部 | 10 | － | － | － | 胴部外面縦方向平行押き後ナデ。内面青海波文後ナデ。 | 白色粒子・チャートを少量 | ○ | 良好 | 木葉下窯跡群産 | 外面：N7/ 灰白色 内面：N5/ 灰色 | |
| 47 | 1号版築遺構 | 須恵器 | 甕 | 胴部 | 細片 | － | － | (7.8) | 胴部外面多方向平行押き後ナデ。胴部内面青海波文。 | 砂粒・チャートを少量。白色粒子を微量 | ○ | 良好 | 木葉下窯跡群産 | 内外面：N5/ 灰色 | |
| 48 | 1号版築遺構 | 須恵器 | 甕 | 胴部 | 細片 | － | － | (4.5) | 胴部外面斜方向平行押き。内面上位横方向ヘラナデ。下位ナデ。 | 白色粒子・砂粒・チャートを少量 | × | 良好 | 木葉下窯跡群産？ | 外面：N2/ 黒色 内面：N3/ 暗灰色 | 胴部外面黒色化。 |

| 図版番号 | 出土地点遺構 | 種別 | 器種 | 残存部位 | 残存率(%) | 口径(推定口径)(cm) | 底径(推定底径)(cm) | 器高(残存高)(cm) | 特徴・手法 | 胎土 | 海綿骨針 | 焼成 | 焼成室 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 49 | 1号版築遺構 | 縄忠器 | 甕 | 胴部 | 破片 | － | － | － | 胴部外面正格子目押き痕、内面青海波文。 | 白色粒子を少量黒色粒子・チャートを微量 | ○ | 良好 | 本葉下層群産 | 内外面：N6/灰色 | |
| 50 | 1号版築遺構 | 縄忠器 | 甕 | 胴部 | 破片 | － | － | (4.2) | 胴部外面正格子目押き後軽いナデ、内面青海波文一部ナデ。外面に自然釉。 | 白色粒子を多量赤粒・チャートを少量 | × | 良好 | 本葉下層群産 | 外面：N6/灰色<br>内面：N5/灰色<br>釉：N3/暗灰色 | 胴部外面にヘラ記号。 |
| 51 | 1号版築遺構 | 縄忠器 | 甕 | 胴部 | 破片 | － | － | (7.2) | 胴部外面斜方向平行叩き、内面青海波文。胴部外面全面に灰釉。 | 白・黒色粒子を微量 | × | 良好 | 鹿入島調査群産 | 外面：2.5Y7/2<br>内面：2.5Y7/1<br>灰白色<br>釉：7.5Y4/3暗オリーブ色 | |
| 52 | 1号版築遺構 | 縄忠器 | 甕 | 胴部下位～底部 | 10 | － | 5.4 | (4.4) | 胴部内面渦巻状のロクロ目調整。最大径の位置は不明。胴部外面右回転ヘラケズリ、中央部に稜状、内面から底部内面左回転ナデ。底部内面左回転ヘラ切り痕と後ナデ。 | 白色粒子・赤粒を多量 | × | 良好 | 新治笠縫群産 | 外面：2.5Y5/1黄灰色<br>内面：5Y5/1灰色 | 胴部の一部に自然釉。 |
| 53 | 1号版築遺構 | 縄忠器 | 甕 | 胴部～底部 | 10 | － | 8.4 | <5.5> | 胴部外面斜方向ヘラケズリ、内面および底部内面左回転ナデ。底部外面切り離し後法不明後全面を手もちヘラケズリ。 | 白色粒子・赤粒・チャートを少量 | × | 良好 | 新治笠縫群産 | 外面：5Y6/1灰色<br>内面：5Y3/1オリーブ黒色 | 胴部外面に煤付着。<br>胴部内面および見込み部に焼成時の付着物。 |
| 54 | 1号版築遺構 | 縄忠器 | 甑 | ブリッジ部 | 破片 | － | － | 1.2 | 表面多方向ヘラケズリ後指による才サエによる整形。胴面横方向ヘラケズリ。裏面ナデ。 | 白・黒色粒子・赤粒・雲母片を微量 | × | 良好 | 新治笠縫群産 | 内外面：2.5Y7/2灰黄色 | 長5（4.8 cm）<br>幅2.2 cm<br>厚5.12 cm<br>ブリッジ数不明。 |
| 55 | 1号版築遺構 | 羽釜 | 胴部～羽部 | 破片 | － | － | － | (4.9) | 鉢形の器形。。胴部外面縦方向ヘラケズリ後ナデ、内面縦方向ヘラナデ。羽部表面横方向ヘラケズリ。鍔部は丸みを帯びナデ。 | 白色粒子・チャートを少量 | ○ | 良好 | 本葉下層群産 | 外面：2.5Y5/1<br>内面：2.5Y6/3<br>多ふい黄色 | 羽部幅1.2 cm。 |
| 56 | 1号版築遺構 | 縄忠器 | 羽釜 | 羽部 | 破片 | － | － | (2.7) | 羽釜の羽部。全面が横方向ヘラケズリ後ナデ。 | 白・黒色粒子・チャートを少量、赤粒・長石を微量 | × | 良好 | 本葉下層群産 | 内外面：2.5YR/2灰白色 | 幅7.5 cm、厚さ1.5 cm。<br>裏面に煤付着。 |
| 57 | 1号版築遺構 | 土師器 | 坏 | 口縁部～底部 | 35 | (9.8) | － | 3.5 | 丸底で体部下位1/3で角度を変え外反。口縁部と体部の境に稜をもたない。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上位から中位横方向ヘラケズリ後ナデ、下位から底部多方向ヘラケズリ。体部内面および見込み部ナデ。 | 白・赤色粒子を少量 | × | 良好 | － | 外面：7.5YR6/6橙色<br>内面：10YR4/6褐色 | |
| 58 | 1号版築遺構 | 土師器 | 坏 | 口縁部～底部 | 40 | (11.4) | － | 4.3 | 丸底で口縁部は短く垂直に立ち上がる。口縁部と体部の境にわずかな稜をもつ。口縁部内面ヨコナデ。体部外面から底部外面横方向ヘラケズリ。体部内面および見込み部ナデ後多方向粗いヘラミガキ。 | 白・黒色粒子を微量 | × | 良好 | － | 外面：7.5YR5/4にぶい褐色<br>内面：10YR6/4にぶい黄橙色 | |
| 59 | 1号版築遺構 | 土師器 | 坏 | 口縁部～底部 | 45 | (12.6) | － | 4.7 | 丸底で口縁部は短く垂直に立ち上がる。口縁部と体部の境にわずかな稜をもつ。口縁部内外面ヨコナデ。内面のヨコナデが斜方向に抜けることより、左回転でヨコナデ調整を施している。体部外面横方向ヘラケズリ。体部内面および見込み部丁寧なナデ。底部外面多方向ヘラケズリ。 | 白・赤色粒子を微量 | × | 良好 | － | 外面：2.5YR5/8明赤褐色<br>内面：5YR1.7/1黒色 | 口縁部外面および体部内面に黒色の付着物。 |
| 60 | 1号版築遺構 | 土師器 | 坏 | 略完形 | 95 | 11.9 | － | 4.7 | 丸底でわずかに口縁部が外反。口縁部と体部の境に稜をもたない。口縁部外面ヨコナデ。体部外面上位横方向ヘラケズリ、中位以下および底部外面斜方向ヘラケズリ。体部内面および見込み部横方向ミガキ。 | 白・赤色粒子を少量 | × | 良好 | － | 内外面：5Y3/1オリーブ黒色<br>非黒色部分：10YR5/4にぶい黄橙色 | 内外面ほぼ全面黒色化。黒色化は概熱のため？ |
| 61 | 1号版築遺構 | 土師器 | 坏 | 口縁部～底部 | 40 | (10.5) | － | 3.5 | 丸底で平底底。口縁部と体部の境に稜をもたない。口縁部外面ヨコナデ後横方向のミガキ。体部外面多方向ヘラケズリ後横方向ミガキ。内面丁寧なナデ後1条1単位の放射状暗文および横方向ミガキ。 | 黒色粒子を微量 | × | 良好 | 鹿内遺跡入島？ | 外面：5YR6/6橙色<br>内面：5YR5/8明赤褐色 | |
| 62 | 1号版築遺構 | 土師器 | 坏 | 口縁部～底部 | 40 | (10.3) | － | 2.9 | 丸底で口縁部は短く垂直に立ち上がる。口縁部と体部の境に稜をもたない。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上から中位横方向ヘラケズリ。内面から見込み部ナデ。底部外面多方向ヘラケズリ。 | 白色粒子・赤粒を少量、赤粒・黒色粒子を微量 | × | 良好 | － | 内外面：5YR6/8橙色 | |

| 図版番号 | 出土地点遺構 | 種別 | 器種 | 残存部位 | 残存率(%) | 口径(推定口径)(cm) | 底径(推定底径)(cm) | 器高(残存高)(cm) | 特徴・手法 | 胎土 | 海綿骨針 | 焼成 | 焼成窯 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 63 | 1号甕染遺構 | 土師器 | 坏 | 口縁部～底部 | 40 | (12.0) | － | 3.5 | 平底で口縁部がわずかに内傾。体部は膨らみをもつ。口縁部と体部の境に稜をもたない。口唇部内面直下に1条の沈線。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上位横方向ヘラケズリ後ナデ。下位横方向ヘラケズリ。内面および見込み部丁寧なナデ。底部外面一方向ヘラケズリ後稜線を幅の狭い手もちヘラケズリ。 | 白色粒子を少量 | × | 良好 | 搬入品？ | 外面：5YR6/6 橙色<br>内面：5YR5/6 明赤褐色 | |
| 64 | 1号甕染遺構 | 土師器 | 坏 | 口縁部～底部 | 25 | (11.9) | (4.8) | 3.9 | 平底で体部が大きく膨らみ、口縁部が短く垂直に立ち上がる。口縁部と体部の境に稜をもたない。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面多方向ヘラケズリ。体部内面および見込み部丁寧なナデ。底部外面左回転糸切り後稜線を幅の狭い手もちヘラケズリ。 | 赤色粒子を微量 | × | 良好 | 搬入品？ | 内外面：7.5YR7/8 黄橙色 | 口縁部内外面一部に黒色の付着物。 |
| 65 | 1号甕染遺構 | 土師器 | 坏 | 口縁部～底部 | 30 | (15.8) | － | 3.7 | 丸底でやや偏平。口縁部は短く垂直に立ち上がる。口縁部と体部の境に稜をもたない。口縁部内外面ヨコナデ。体部から底部白色粒子を外面多方向ヘラケズリ。内面および見込み部ナデ。 | 赤色粒子・砂粒を少量<br>白・黒色粒子を微量 | ○ | 良好 | － | 外面：7.5YR6/8 橙色<br>内面：5YR6/8 橙色 | 赤彩。外面被熱あり。 |
| 66 | 1号甕染遺構 | 土師器 | 坏 | 口縁部～底部 | 40 | (15.8) | － | 3.3 | 丸底で偏平。口縁部外傾。体部は膨らみをもつ。口縁部と体部の境に稜をもたない。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上位横方向ヘラケズリ。中位から底部横方向ヘラケズリ。体部内面および見込み部ナデ。 | 白・黒・赤色粒子を少量 | × | 良好 | － | 外面：7.5YR6/6 橙色<br>内面：7.5YR6/8 橙色 | 赤彩品。 |
| 67 | 1号甕染遺構 | 土師器 | 坏 | 口縁部～底部 | 60 | (16.9) | 9.8 | 4.0 | 平底で偏平。口縁部わずかに内傾。口縁部と体部の境に稜をもたない。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面横方向ヘラケズリ後ナデ。内面ナデ。見込み部多方向ヘラナデ後ナデ。底部外面一方向ヘラケズリ後稜線を幅の狭い手もちヘラケズリ。 | 白・赤色粒子を少量 | × | 良好 | 搬入品？ | 内外面：2.5YR5/6 明赤褐色 | |
| 68 | 1号甕染遺構 | 土師器 | 坏 | 口縁部～体部 | 20 | (10.3) | － | <3.1> | 丸底で口縁部は外反。体部中位に稜数化した稜をもつ。口縁部内面直下に1条の沈線。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面縦方向ヘラケズリ後ナデ。体部内面ナデ。 | 白・黒・赤色粒子を少量 | × | 良好 | － | 内外面：7.5YR6/8 橙色 | 体部内面に黒色の付着物。 |
| 69 | 1号甕染遺構 | 土師器 | 坏 | 口縁部～底部 | 30 | (10.8) | － | (3.6) | 丸底で平球状。口縁部と体部の境に稜をもたない。口縁部ヨコナデ。体部外面縦方向ヘラケズリ後丁寧なナデ後横方向ミガキ。内面および見込み部ナデ。底部外面多方向のヘラケズリ後ナデ。 | 黒色粒子を少量 | × | 良好 | － | 内外面：7.5YR7/6 橙色 | 関東型畿内系土師器ヵ。 |
| 70 | 1号甕染遺構 | 土師器 | 坏 | 口縁部～体部 | 10 | (10.7) | － | <4.0> | 丸底で口縁部短く垂直に立ち上がる。口縁部と体部の境に稜をもたない。口唇部下円面1条の沈線。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面横方向ヘラケズリ。内面ナデ。 | 白・赤色粒子を微量 | × | 良好 | － | 内外面：7.5YR6/8 黄橙色 | |
| 71 | 1号甕染遺構 | 土師器 | 坏 | 口縁部～体部 | 25 | (11.8) | － | <3.4> | 口縁部から体部が外反するが上位が内傾。口唇部内面直下に1条の沈線。口縁部外面ヨコナデ。口縁部内面ヨコナデ後1条1単位の密な斜方向暗文。体部外面上位から中位ナデ後横方向ミガキ。体部外面下位から底部横方向ヘラケズリ後ナデ。体部内面ナデ後1条1単位の密な放射状暗文。 | 白・赤色粒子を微量 | × | 良好 | － | 内外面：5YR6/8 橙色 | 関東型畿内系土師器ヵ。 |
| 72 | 1号甕染遺構 | 土師器 | 坏 | 口縁部～体部 | 30 | (11.8) | － | <3.3> | 丸底偏平で口縁部は直立。体部は膨らみをもつ。口縁部と体部の境に稜をもたない。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面横方向ヘラケズリ後ナデ。内面ナデ。 | 赤色粒子・砂粒を少量<br>白色粒子を微量 | × | 良好 | － | 内外面：5YR7/6 橙色 | |
| 73 | 1号甕染遺構 | 土師器 | 坏 | 口縁部～体部 | 10 | (18.8) | － | <2.0> | 丸底で偏平。口縁部短くわずかに内傾。体部は丸みを帯びる。口縁部と体部の境に稜をもたない。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面横方向ヘラケズリ。内面ナデ後漆状物質を塗布後2条1単位の放射状暗文。 | 白色粒子・砂粒を少量 | × | 良好 | － | 外面：10YR4/4 褐色<br>内面：10YR2/1 黒色 | 漆塗り土器。 |
| 74 | 1号甕染遺構 | 土師器 | 坏 | 口縁部～体部 | 20 | (13.7) | － | <3.6> | 丸底で口縁部は直立してわずかに内消。体部は膨らみをもつ。口縁部と体部の境に稜をもたない。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面斜方向ヘラケズリ。内面ナデ。 | 砂粒・雲母片を多量 | × | 良好 | － | 内外面：7.5YR3/1 黒褐色 | 内外面黒色化ヵ。 |

| 図版番号 | 出土地点遺構 | 種別 | 器種 | 残存部位 | 残存率(%) | 口径(推定口径)(cm) | 底径(推定底径)(cm) | 器高(残存高)(cm) | 特徴・手法 | 胎土 | 海綿骨針 | 焼成 | 焼成窯 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 25 | 1号版築遺構 | 土師器 | 坏 | 口縁部～底部 | 40 | (15.9) | － | <3.5> | 丸底で扁平。口縁部は外反。口縁部と体部の境に稜をもたない。口縁部内外面ヨコナデ。体部内面多方向へウチケズリ。中位斜方向に連続する強、調整痕由来ヨ。内面および見込み部ナデ。底部外面一方向のヘラケズリ。 | 黒・赤色粒子を少量 | × | 良好 | － | 外面：5YR5/8明赤褐色<br>内面：7.5YR6/6橙色 | 口縁部内外面に黒色付着物。 |
| 26 | 1号版築遺構 | 土師器 | 坏 | 口縁部～体部 | 30 | (13.2) | － | (3.1) | 丸底扁平で、口縁部は直立。体部は膨らみをもつ。口縁部と体部の境に稜をもたない。口縁部ヨコナデ。体部外面横方向へラケズリ。内面ナデ。1条1単位の放射状暗文。 | 白・赤色粒子・チャーチを少量 | × | 良好 | － | 内外面：2.5YR5/8明赤褐色 | |
| 27 | 1号版築遺構 | 土師器 | 坏 | 口縁部～体部 | 30 | (19.8) | － | <3.7> | 丸底で扁平。口縁部は直立して体部は膨らみをもつ。口縁部と体部の境に稜をもたない。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面横方向へラケズリ。内面ナデ。1条1単位の疎な放射状暗文。 | 赤色粒子を多量黒色粒子・砂粒を少量 | × | 良好 | － | 外面：5YR6/8橙色<br>内面：5YR6/6橙色 | |
| 28 | 1号版築遺構 | 土師器 | 坏 | 口縁部～底部 | 70 | (16.7) | － | <3.7> | 丸底でやや扁平。口縁部は短く垂直に立ち上がる。口縁部と体部の境に稜をもたない。口縁部内外面ヨコナデ。体部内面多方向へラケズリ後ナデ。内面および見込み部ナデ後1条1単位の疎な放射状暗文。 | 赤色粒子・砂粒を少量 | × | 良好 | 搬入品？ | 内外面：5YR6/8橙色 | |
| 29 | 1号版築遺構 | 土師器 | 坏 | 口縁部～体部 | 10 | (17.7) | － | <1.9> | 丸底扁平で口縁部が外反。口縁部と体部の境に稜をもたない。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面多方向へラケズリ。体部内面ナデ。 | 白・黒色粒子を微量 | × | 良好 | － | 内外面：5YR5/6明赤褐色 | 口縁部の外面および内面の一部に黒色の付着物。 |
| 30 | 1号版築遺構 | 土師器 | 高坏 | 坏部下端小脚部上位 | 10 | － | － | (3.5) | 脚部が大きく開く。坏部外面下端縦方向へラケズリ。坏部見込み部ナデ。脚部内外面縦方向へラケズリ。 | 白色粒子を少量、砂粒・長石を微量 | × | 良好 | － | 内外面：5YR5/8明赤褐色 | |
| 31 | 1号版築遺構 | 土師器 | 壺 | 口縁部～胴部 | 20 | (11.0) | － | <6.7> | 粗雑でやや寸胴。口縁部短く外反。口縁部と胴部の境に沿い段。最大径の位置は胴部中位。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面斜方向へヘラケズリ後ナデ。内面多方向へラナデ。 | 白色粒子・砂粒を少量 | × | 良好 | － | 内外面：5Y3/1オリーブ黒色 | 黒色化？。 |
| 32 | 1号版築遺構 | 土師器 | 甕 | 口縁部～底部 | 60 | (14.7) | 8.5 | 23.7 | 寸胴気味。最大径の位置が胴部下位。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面縦方向へラケズリ後ナデ。内面上位多方向へラナデお上げ段によるオサエ。中位以下縦方向ヘラナデ後縦方向暗文状ミガキ。底部外面切り離し後法不明ヨコナデ。内面多方向ミガキ。 | 白色粒子・砂粒・チャートを少量 | × | 良好 | － | 外面：7.5YR6/8橙色<br>内面：10YR5/8黄褐色 | 内外面に焼成時の煤付着。被熱あり。 |
| 33 | 1号版築遺構 | 土師器 | 甕 | 口縁部～底部 | 70 | 15.8 | 24.7 | 5.8 | 口縁部がわずかに肥厚。口縁部が外反。最大径の位置は胴部中位。口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面多方向へラケズリ。内面から底部内面斜方向へラナデ後ナデ。底部外面一方向へラケズリ後ナデ。 | 白・黒・赤色粒子を多量チャートを少量 | × | 良好 | － | 外面：10YR5/4にぶい黄褐色<br>内面：10YR4/6褐色 | 胴部外面中位に煤付着。 |
| 34 | 1号版築遺構 | 土師器 | 甕 | 口縁部～底部 | 70 | (19.7) | 9.0 | 31.5 | 口唇部方向に摘み出される。最大径の位置は胴部中位。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上位横方向へラナデ後ナデ。下位斜方向へラミガキ。下端斜方向へラケズリ。内面斜方向へラナデ。底部内面多方向へラナデ。底部外面一方向へラケズリ後一方向ミガキ状ヘラケズリ。 | 白・赤色粒子・砂粒を少量 | × | 良好 | － | 外面：10YR6/6黄褐色<br>内面：10YR3/2黒褐色 | 内面上位および胴部外面下端に煤化跡付着。常総型甕。 |
| 35 | 1号版築遺構 | 土師器 | 甕 | 口縁部～胴部～底部 | 60 | (26.5) | 9.0 | 40.0 | 口縁部緩め上方に摘み出され外面を面取り。口縁部は大きく開く。最大径は胴部中位。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上位横方向へラナデ後ナデ。下位斜方向へラミガキ。下端斜方向へラケズリ。内面から底部内面横方向へラナデ後ナデ。底部外面一方向へラケズリ後ナデ。 | 砂粒・雲母片を多量チャートを少量 | × | 良好 | － | 上位内外面：10YR8/6黄橙色<br>下位外面：10YR4/6褐色<br>下位内面：2.5YR7/6明黄褐色 | 常総型甕。 |
| 36 | 1号版築遺構 | 土師器 | 甕 | 口縁部～胴部 | 60 | (13.8) | － | (13.5) | 口縁部短く肥厚して外反。最大径の位置は胴部中位。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ミガキ様の縦方向ヘラケズリ。胴部内面縦横方向ヘラナデ。 | 砂粒を多量白色粒子・チャートを少量 | × | 良好 | － | 内外面：10YR5/3にぶい黄褐色 | |
| 37 | 1号版築遺構 | 土師器 | 甕 | 口縁部～胴部 | 40 | (15.3) | － | <10.6> | 口縁部短く外反。最大径の位置は口縁部。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面縦方向ヘラケズリ。内面多方向ヘラナデ後ナデ。 | 白・赤色粒子を少量砂粒・チャートを微量 | × | 良好 | － | 外面：10YR5/4にぶい黄褐色<br>内面：10YR2/1黒色 | 内面黒色化。 |

| 図版番号 | 出土地点遺構 | 種別 | 器種 | 残存部位 | 残存率（%） | 口径（推定口径）（cm） | 底径（推定底径）（cm） | 器高（残存高）（cm） | 特徴・手法 | 胎土 | 海綿骨針 | 焼成 | 焼成室 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 88 | 1号版築遺構 | 上層部 | 甕 | 口縁部～胴部 | 15 | (14.8) | － | <12.4> | 口縁部短くわずかに外反。最大径の位置は胴部中位。口縁部内外面ヨコナデ。頸部から胴部上位外面横から縦方向へラケズリ。中位以下縦および斜方向へラケズリ。内面多方向ヘラナデ後ナデ。 | 白色粒子・砂粒を少量チャートを微量 | ○ | 良好 | － | 内外面：7.5YR8/4 淡黄橙色 | |
| 89 | 1号版築遺構 | 上層部 | 甕 | 口縁部～胴部 | 40 | (15.8) | － | (12.2) | 口縁部上端沢に肥厚。口縁部は大きく外反。最大径の位置は口縁部。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面縦方向ヘラケズリ。内面多方向ヘラナデ後ナデ。 | 白色粒子・砂粒を多量チャート・雲母片を少量 | × | 良好 | － | 外面：10YR2/6 明黄褐色<br>内面：N2/ 黒色 | 常総型甕。 |
| 90 | 1号版築遺構 | 上層部 | 甕 | 口縁部～胴部 | 10 | (15.8) | － | <5.4 | 口縁部は玉縁状。口縁部長く上位が外反。最大径の位置は胴部。口縁部外面から胴部上位ヨコナデ。内面から胴部上位ヨコナデ。一部多方向ナデ。胴部外面縦方向ヘラケズリ後ナデ。内面中位以下ナデ。 | 白色粒子を少量チャートを微量 | × | 良好 | － | 外面：7.5YR7/6 橙色<br>内面：7.5YR7/4 に.ぶい橙色 | |
| 91 | 1号版築遺構 | 上層部 | 甕 | 口縁部～胴部 | 10 | (15.6) | － | <8.7> | 口縁部も緩沢で。口縁部は短く外反。最大径の位置は口縁部。口縁部から胴部上位内外面ヨコナデ。胴部外面縦方向ヘラケズリ後ナデ。内面縦方向ナデ。 | 白色粒子・砂粒・チャートを少量雲母片・長石を微量 | × | 良好 | － | 内外面：10YR5/6 黄橙色 | |
| 92 | 1号版築遺構 | 上層部 | 甕 | 口縁部～胴部 | 10 | (12.8) | － | (6.3) | 口縁部短くわずかに外反。最大径の位置は胴部。口縁部から胴部上位内外面ヨコナデ。胴部外面縦方向ヘケズリ。内面横方向ヘラナデ後ナデ。 | 砂粒・チャートを少量白色粒子・雲母片を微量 | × | 良好 | － | 内外面：7.5YR7/6 橙色 | |
| 93 | 1号版築遺構 | 上層部 | 小型壺 | 口縁部 | 細片 | (13.7) | － | <4.6> | 口縁部わずかに外反。最大径の位置は不明。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面縦方向ヘラケズリ。内面横方向ナデ。 | 白色粒子・砂粒を少量雲母片を微量 | × | 良好 | － | 外面：10YR7/6 明黄橙色<br>内面：10YR7/4 に.ぶい黄橙色 | |
| 94 | 1号版築遺構 | 上層部 | 甕 | 口縁部～胴部 | 10 | (17.6) | － | <5.6> | 口縁部短く肥厚して外反。最大径の位置は不明。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面縦方向ヘラケズリ。内面横方向ヘラナデ後ナデ。 | 白・黒色粒子を少量雲母片を微量 | ○ | 良好 | － | 内外面：5YR6/8 橙色 | |
| 95 | 1号版築遺構 | 上層部 | 甕 | 口縁部～胴部 | 40 | (31.7) | － | (20.6) | 口縁部は外側に横み出される。口縁部は外反。最大径の位置は口縁部。口縁部横角で上方に横み出される。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上から中位方向不明のヘラナデ後ナデ。下位斜方向へラケズリ。胴部内面上から位横方向へラナデ。下位多方向へラケズリ。 | 白色粒子・砂粒・チャートを少量 | × | 良好 | － | 外面：7.5YR7/8 黄橙色<br>内面：5YR6/3 に.ぶい橙色 | 内面は黒色化。 |
| 96 | 1号版築遺構 | 上層部 | 甕 | 口縁部～胴部 | 細片 | (13.8) | － | <5.6> | 口縁部やや長く外反。最大径の位置は胴部。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面斜方向へラケズリ。内面ナデ。 | 白色粒子・チャートを少量雲母片を微量 | ○ | 良好 | － | 内外面：10YR5/4 に.ぶい黄橙色 | |
| 97 | 1号版築遺構 | 上層部 | 甕 | 口縁部～胴部 | 10 | (14.5) | － | <7.7> | 口縁部玉縁状で短く外反。最大径の位置は胴部。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面多方向へラケズリ後ナデ。内面多方向へラナデ後ナデ。 | 砂粒を少量白・赤色粒子・チャートを微量 | × | 良好 | － | 内外面：10YR8/6 黄橙色 | |
| 98 | 1号版築遺構 | 上層部 | 甕 | 口縁部～胴部 | 細片 | (11.8) | － | <4.5> | 口縁部短く上端が丸く外反。最大径の位置は胴部。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上位ナデ。中位以下縦方向へラケズリ。内面ナデ。口縁部外面赤彩。 | 白・黒色粒子を少量砂粒を微量 | × | 良好 | － | 内外面：10YR7/4 に.い黄橙色<br>赤彩：2.5YR5/8 赤橙色 | 口縁部外面赤彩。 |
| 99 | 1号版築遺構 | 上層部 | 甕 | 口縁部～胴部 | 10 | (13.0) | － | <8.1> | 口縁部が短くわずかに外反。最大径の位置は胴部中位。口縁部外面から胴部上位外面ヨコナデ。一部指によるオサエ。内面ヨコナデ。胴部外面縦方向へラケズリ後ナデ。内面縦方向へラナデ後ナデ。 | 黒色粒子・チャート・雲母片を微量 | × | 良好 | － | 内外面：10YR8/4 淡黄橙色 | |
| 100 | 1号版築遺構 | 上層部 | 甕 | 口縁部～胴部 | 20 | (15.8) | － | (10.7) | 口縁部外反。最大径の位置は胴部中位。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面縦方向へラケズリ後ナデ。内面多方向へラナデ後ナデ。 | 白・黒・赤色粒子を少量チャートを微量 | × | 良好 | － | 外面：7.5YR4/2 灰黒色<br>内面：7.5YR6/8 橙色 | |
| 101 | 1号版築遺構 | 上層部 | 甕 | 口縁部～胴部 | 10 | (15.2) | － | (6.0) | 口縁部は外反。口縁部は直線的に立ち上がる。胴部は「くび」字状。最大径の位置は胴部。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面横方向へラケズリ。内面横方向へラナデ後ナデ。 | 白・黒色粒子を少量、雲母片を微量 | × | 良好 | － | 外面：7.5YR6/6 橙色<br>内面：7.5YR6/4 に.い橙色 | |
| 102 | 1号版築遺構 | 上層部 | 甕 | 口縁部～胴部 | 25 | (15.4) | － | <13.8> | 口縁部上端をわずかに上方へ横み上げる。口縁部は外反。最大径の位置は口縁部。口縁部外面ヨコナデ。口縁部内面から胴部上位ヨコナデ。胴部外面縦方向へラケズリ。内面多方向へラナデ後丁寧なナデ。 | 白・黒赤色粒子・チャートを微量 | ○ | 良好 | － | 外面：10YR2/6 明黄褐色<br>内面：10YR6/6 明黄褐色 | 外面一部被熱あり。 |

| 図版番号 | 出土地点遺構 | 種別 | 器種 | 残存部位 | 残存率（%） | 口径（推定口径）（cm） | 底径（推定底径）（cm） | 器高（残存高）（cm） | 特徴・手法 | 胎土 | 海綿骨針 | 焼成 | 焼成窯 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 103 | 1号張場遺構 | 上師器 | 甕 | 口縁部～胴部 | 25 | (16.7) | － | <11.3> | 口縁部短く大き く外反。最大径の位置は胴部。口縁部内外面ヨコナデ。口縁部から胴部の日コナデを強く行った結果、口縁部と胴部の境が段となる。胴部外面斜方向ヘラケズリ後ナデ。内面多方向ヘラナデ胴下部ケズ ナデ。 | 白・黒・赤色粒子・雲母片を微量 | × | 良好 | － | 内外面：10YR7/4 にぶい黄橙色 | |
| 104 | 1号張場遺構 | 上師器 | 甕 | 口縁部～胴部 | 10 | (20.5) | － | <7.3> | 口縁部やや長くわずかに外反。整形、最大径の位置は胴部。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面斜方向ヘラケズリ、内面多方向ヘラナデ後ナデ。 | 白色粒子を多量 | × | 良好 | － | 外面：7.5YR6/8 橙色<br>内面：2.5YR4/8 赤褐色 | |
| 105 | 1号張場遺構 | 上師器 | 甕 | 口縁部～胴部 | 20 | (20.5) | － | <7.3> | 口縁部整形で外反。器部に調整時由来の段を もつ。最大径の位置は胴部。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面縦方向ヘラケズリ。胴部内面横方向ヘラナデ。 | 白色粒子・砂粒を少量 | × | 良好 | － | 内外面：7.5YR8/4 淡黄橙色 | |
| 106 | 1号張場遺構 | 上師器 | 甕 | 口縁部～胴部 | 25 | (16.7) | － | (12.3) | 口縁部端部が玉縁状で「く」字状に開く。胴部はやや膨張傾か。最大径の位置は胴部下位。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上位縦方向ヘラケズリ、下位斜方向ヘラケズリ。胴部内面横方向ヘラナデ後ナデ。 | チャートを多量白色粒子・砂粒を少量雲母片を微量 | × | 良好 | － | 外面：10YR7/6 明黄色<br>内面：7.5YR6/6 橙色 | 外面に後成時の赤化部分・煤が広範囲に付着。 |
| 107 | 1号張場遺構 | 上師器 | 甕 | 口縁部～胴部 | 40 | (21.6) | － | <24.5> | 口縁部玉縁状、端部がわずかに斜方向に摘み出される。口縁部は外反。最大径の位置は胴部上位。口縁部内外面ヨコナデ。器部外面横方向ヘラナデ後ナデ。内面横方向ヘラナデ後ナデ。胴部外面上位縦方向ヘラケズリ、下位斜方向ヘラミガキ、内面多方向ヘラナデ後ナデ。 | 白・赤色粒子・砂粒を少量 | × | 良好 | － | 内外面：5YR6/8 橙色 | 常総型甕。 |
| 108 | 1号張場遺構 | 上師器 | 甕 | 口縁部～胴部 | 40 | 14.8 | － | <13.5> | 口縁部端面面取り。口縁部がわずかに外傾。最大径の位置は胴部上位。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面斜方向ヘラミガキ。器部内面縦方向ヘラナデ後ナデ。胴部内面横方向ヘラナデ後ナデ。 | 白・黒色粒子を少量砂粒・雲母片・長石を微量 | × | 良好 | － | 外内面：10YR7/3 にぶい黄橙色 | 常総型甕。 |
| 109 | 1号張場遺構 | 上師器 | 甕 | 口縁部～胴部 | 40 | (20.9) | － | <8.5> | 口縁部端面面取り。縁角で上方に摘み出される。最大径の位置は胴部。口縁部内外面ヨコナデ。器部内外面横方向ヘラナデ後ナデ。 | 白色粒子・砂粒を少量 | × | 良好 | － | 外面：10YR6/3 にぶい黄橙色<br>内面：2.5Y3/1 黒褐色 | 常総型甕。 |
| 110 | 1号張場遺構 | 上師器 | 甕 | 口縁部～胴部 | 40 | (20.8) | － | <11.8> | 口縁部が上下に摘み出される。口縁部は外反。最大径の位置は胴部中位。口縁部内外面はヨコナデ。器部外面斜方向ヘラケズリ後ナデ。内面横方向ヘラナデ。胴部内外面多方向ヘラナデ後ナデ。内面一部指によるナデエ。 | 白・黒・赤色粒子・砂粒を少量雲母片を微量 | × | 良好 | － | 外面：7.5YR7/8 黄橙色<br>内面：10YR3/1 黒褐色 | 常総型甕。 |
| 111 | 1号張場遺構 | 上師器 | 甕 | 口縁部～胴部 | 10 | (14.7) | － | <7.5> | 口縁部はやや長く外反。最大径の位置は胴部。口縁部内面から胴部上端ヨコナデ。内面ヨコナデ。器部内面ヨコナデ後ナデ。胴部外面縦方向ヘラケズリ後強いナデ。内面横方向ヘラナデ後ナデ。 | 白・黒色粒子を少量雲母片を微量 | ○ | 良好 | － | 外面：10YR7/6 明黄褐色<br>内面：7.5YR7/6 橙色 | |
| 112 | 1号張場遺構 | 上師器 | 甕 | 口縁部～胴部 | 10 | (15.5) | － | <5.0> | 口縁部は玉縁状。口縁部長く上位が大きく外反。最大径の位置は胴部。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面縦方向ヘラケズリ後ナデ。内面ナデ。 | 白色粒子・砂粒を少量チャートを微量 | ○ | 良好 | － | 外面：7.5YR4/2 灰褐色<br>内面：10YR6/4 にぶい黄橙色 | |
| 113 | 1号張場遺構 | 上師器 | 甕 | 口縁部～胴部 | 10 | (20.2) | － | <6.2> | 口縁部長く上位が外反。最大径の位置は胴部。口縁部内外面強いヨコナデ。胴部外面横方向ヘラケズリ。内面多方向ヘラナデ。 | 白・黒・赤色粒子・石少量長石を微量 | × | 良好 | － | 内外面：5YR6/8 橙色 | |
| 114 | 1号張場遺構 | 上師器 | 甕 | 口縁部～胴部 | 20 | (14.3) | － | <7.2> | 口縁部上位が大きく外反して、「く」字状に折れる。最大径の位置は胴部。口縁部内外面ヨコナデ。胴部から胴部外面上位縦方向ヘラケズリ、下位横方向ヘラケズリ。内面横方向ヘラナデ。 | 白・黒色粒子を少量 | × | 良好 | － | 内外面：7.5YR7/8 黄橙色 | |
| 115 | 1号張場遺構 | 上師器 | 甕 | 口縁部～胴部 | 10 | (22.8) | － | <7.2> | 口縁部端面面取り。縁角上げられる。口縁部長く大きく外反して肥厚気味。最大径の位置は不明。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面横方向ヘラナデ後ナデ。内面斜方向ヘラナデ。 | 白色粒子・砂粒・雲母片を少量 | × | 良好 | － | 内外面：7.5YR7/8 黄橙色 | 常総型甕。 |
| 116 | 1号張場遺構 | 上師器 | 甕 | 胴部～底部 | 10 | － | 9.0 | (4.4) | 胴部がやや膨らむ。最大径の位置は不明。胴部外面斜方向ヘラミガキ。内面から底部内面横方向ヘラケズリ後ナデ。底部外面一方向ヘラケズリ後ナデ。 | 白・赤色粒子を多量チャートを少量長石を微量 | × | 良好 | － | 内外面：7.5YR6/8 橙色 | 常総型甕。 |

| 図版番号 | 出土地点遺構 | 種別 | 器種 | 残存部位 | 残存率(%) | 口径(推定口径)(cm) | 底径(推定底径)(cm) | 器高(残存高)(cm) | 特徴・手法 | 胎土 | 海綿骨針 | 焼成 | 焼成窯 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 117 | 1号坂築遺構 | 上師器 | 甕 | 胴部～底部 | 30 | － | 6.5 | (7.5) | 胴部がやや膨らむ。最大径の位置は不明。胴部外面縦方向ヘラケズリ後ナデ。内面斜方向ヘラナデ後ナデ。一部斜方向ヘラケズリ。底部内面多方向ヘラナデ。底部外面多方向ヘラナデ後ナデ。 | 白色粒子・赤色粒子・チャートを少量 雲母片を微量 | × | 良好 | － | 外面：10YR7/6 明黄褐色 内面：10YR7/8 黄橙色 | |
| 118 | 1号坂築遺構 | 上師器 | 小型甕 | 胴部～底部 | 70 | － | 6.5 | <10.3> | 胴部が丸みを帯びる。最大径の位置は胴部中位。胴部外面上位縦方向ハラケズリ後ナデ。中から下位斜方向ヘラケズリ後ナデ。下端横方向ヘラケズリ。内面から底部内面多方向ヘラナデ後ナデ。底部外面一方向ヘラケズリ後ナデ。底端縁を幅の狭い手もちヘラケズリ。 | 黒・赤色粒子を少量 砂粒を微量 | × | 良好 | － | 外面：10YR7/6 明黄褐色 内面：7.5YR5/4 にぶい褐色 | 被熱あり。 |
| 119 | 1号坂築遺構 | 上師器 | 甕 | 胴部～底部 | 10 | － | (8.4) | <4.4> | 最大径の位置は不明。胴部外面斜方向ヘラケズリ。下端横方向ヘラケズリ。内面および底部内面多方向ヘラナデ後ナデ。底部外面木葉痕。 | 白色粒子・砂粒・チャートを少量 | ○ | 良好 | － | 外面：10YR6/6 明黄褐色 内面：10YR5/3 にぶい黄褐色 | 底部木葉痕。 |
| 120 | 1号坂築遺構 | 上師器 | 甕 | 底部 | 10 | － | 8.4 | <3.3> | 底部がわずかに突出。最大径の位置は不明。胴部外面縦方向ヘラケズリ。内面および底部内面多方向ヘラナデ。底部外面木葉痕。 | 白色粒子・砂粒を少量 | ○ | 良好 | － | 外面：7.5YR5/4 にぶい褐色 内面：5YR5/6 明赤褐色 | 底部木葉痕。 |
| 121 | 1号坂築遺構 | 上師器 | 甕 | 胴部～底部 | 10 | － | 7.5 | (4.0) | わずかに胴部が膨らむ。最大径の位置は胴部。胴部外面横方向ヘラケズリ。胴部内面から底部内面多方向ヘラナデ後丁寧なナデ。底部外面多方向ヘラケズリ後ナデ。 | 白・黒色粒子・砂粒を少量 | ○ | 良好 | － | 外面：10YR6/4 にぶい黄橙色 内面：5YR6/6 橙色 | |
| 122 | 1号坂築遺構 | 上師器 | 甕 | 胴部～底部 | 10 | － | 9.0 | <3.6> | 底部わずかに突出。最大径の位置は胴部。胴部外面縦ヘラ方向ヘラケズリ。内面および底部内面多方向ヘラナデ。底部外面木葉痕をもち。多方向ヘラケズリで消している。痕跡。 | 白色粒子・砂粒・小礫を少量 | × | 良好 | － | 外面：7.5YR6/8 橙色 内面：2.5YR6/8 橙色 | |
| 123 | 1号坂築遺構 | 上師器 | 甕 | 胴部～底部 | 10 | － | 9.6 | (7.4) | 底部が突出。最大径の位置は不明。胴部外面縦方向ヘラケズリ後ナデ。内面および底部内面多方向ヘラナデ後強ヘナデ。底部外面一方向ヘラケズリ後間隔幅の狭い手もちヘラケズリ。 | 白・黒色粒子・砂粒を少量 | × | 良好 | － | 外面：10YR7/6 明黄褐色 内面：10YR7/4 にぶい黄橙色 | |
| 124 | 1号坂築遺構 | 上師器 | 甕 | 胴部～底部 | 20 | － | 7.5 | <4.6> | 胴部が大きく膨らむ。最大径の位置は胴部。胴部外面縦方向ヘラケズリ後ナデ。内面および見込み部多方向ヘラナデ後ナデ。底部外面一方向ヘラケズリ後ナデ。 | 白色粒子・砂粒を少量 小礫・チャートを微量 | × | 良好 | － | 外面：10YR7/8 黄橙色 内面：7.5YR6/6 浅黄橙色 | |
| 125 | 1号坂築遺構 | 上師器 | 甕 | 胴部～底部 | 10 | － | (10.0) | (4.3) | 底部中央が極端に薄い。最大径の位置は不明。胴部外面斜方向ヘラケズリ。内面および底部内面横方向ヘラナデ後ナデ。底部外面多方向ヘラケズリ。 | チャートを多量 白・黒色粒子・砂粒を少量 | × | 良好 | － | 外面：10YR7/6 明黄褐色 内面：10YR7/4 にぶい黄橙色 | |
| 128 | 1号溝 | 上師器 | 甕 | 胴部～底部 | 20 | － | (10.0) | <11.4> | やや胴部下位が膨らむ。最大径の位置は不明。胴部外面斜方向ヘラミガキ。下端横方向ヘラケズリ。内面から底部内面多方向ヘラナデ後ナデ。底部外面木葉痕。 | 白色粒子を多量 雲母片を少量 砂粒・長石を微量 | × | 良好 | － | 外面：10YR6/6 明黄褐色 内面：7.5YR4/2 灰黄色 | 煤状堆積。 |
| 129 | 表土一括 | 須恵器 | 高台付坏 | 底部～高台部 | 20 | － | 高台部径(8.0) | <1.4> | 高台部が外反して「八」字状に開く。外端で接地。見込み部左回転ナデ。底部外面右回転ヘラ切り離し後右回転ナデ。高台部貼り付け。 | 白・黒色粒子を少量。チャートを微量 | × | 良好 | 木葉下窯跡群産 | 内外面：10YR8/3 浅黄橙色 | |
| 130 | 表土一括 | 須恵器 | 甕 | 口縁部 | 細片 | (28.0) | － | (5.0) | 口唇部端上下に稍み出され、端部が暗状になる。口縁部は外反。口唇部およびU縁部内外面回転ナデ。外面下位に3条1単位の粗縄を波状文。 | 白・黒色粒子・砂粒・チャートを少量 | × | 良好 | 木葉下窯跡群産 | 内外面：2.5Y6/1 黄灰色 | |
| 131 | 1号竪穴区一括 | 鍋支上器 | 湯鉢 | 胴部 | 細片 | － | － | － | 胴部外面単節RLの縄文を縦回転施文。 | 白色粒子・砂粒を少量 雲母片・長石を微量 | × | 良好 | － | 外面：2.5Y7/3 浅黄色 内面：2.5Y6/3 黄褐色 | 中～後期？ |
| 132 | 1号竪穴区一括 | 須恵器 | 甕 | 口縁部～胴部 | 細片 | － | － | (4.8) | 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面格子目押き後丁寧なナデ。胴部内面ナデ。 | 白色粒子・砂粒を微量 | ○ | 良好 | 木葉下窯跡群産 | 内外面：2.5Y7/1 灰白色 | 内面にヘラ記号。 |

## 第４表　出土瓦属性一覧

| 図版番号 | 出土地点遺構 | 種別 | 残存部位 | 残存率(%) | 全長(残存長)(cm) | 全幅(残存長)(cm) | 厚さ(残存厚)(cm) | 重量(g) | 製作技法 | 凹面痕跡・調整 | 凸面痕跡・調整 | 側縁部・端面調整 | 胎土鉱物 | 海綿骨針 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 15 | 3号竪穴住居跡 | 軒丸瓦 | 丸瓦部 | 60 | (15.7) | (14.8) | 1.6～4.1 | 791.1 | 丸瓦部撫骨 | 丸瓦部撫骨痕、および布目痕。布目痕上に粘土の貼り付け後縦方向のヘラケズリ調整。 | 縦方向のヘラケズリ。 | － | 白色粒子・砂粒を少量チャートを微量 | ○ | 良好 | 凹凸面：25Y6/1黄灰色 | 凸面無。丸瓦部と瓦当面の接合部付近に「中寺」もしくは「仲寺」のヘラ書き。 |
| 16 | 3号竪穴住居跡 | 丸瓦 | 中央部～右側部 | 60 | 28.6 | (13.4) | 1.7～2.4 | 1123.2 | 撫骨 | 布目痕。広端部付近で布の乱れ。布目は縦2cm×横1cmで7本×7本。 | 0.5×0.3cmの斜位子目叩き。凸面の中央から広端部寄りを中心に叩かれている。その後全面を中央部から端部に向かうヘラケズリ後ナデが施される。右側部下位に布目圧痕。 | 狭・広端面　ヘラケズリ調整。凸面の角をヘラケズリ。側縁部　広端部から狭端部方向にヘラケズ。 | 白・黒色粒子・砂粒を少量チャートを微量 | × | 良好 | 凸面：7.5YR4/1褐灰色～10YR8/1灰白色　凹面：10YR7/2に赤い黄橙色 | 一部被熱痕。 |
| 17 | 3号竪穴住居跡 | 平瓦 | 狭端部左側 | 30 | (12.4) | (9.3) | 1.6～2.0 | 302.4 | 桶巻 | 布目、縦縦縦方向ヘラケズリ。布目は縦1cm×横1cmで5本×5本。 | 多方向ヘラケズリ後強いナデ。指紋および棒状圧痕。 | 狭端面　横方向ヘラケズリ側面舞　縦方向ヘラケズリ | 白色粒子・砂粒・チャートを少量 | × | 良好 | 凹凸面：25Y8/4浅黄橙色 | 一部被熱痕。 |
| 18 | 3号竪穴住居跡 | 平瓦 | 左側縁部 | 30 | (14.4) | (12.7) | 1.7 | 299.4 | 一枚 | 布目痕。下位に赤切り痕を残す。縦縦をヘラケズリ調整。布目は縦1cm×横1cmで6本×8本。 | 長縄圧痕。その後ナデを施す。縦縦は縦方向のヘラケズリ後一部指によるオサエ。 | 側縁部ヘラケズリによる3面の面取り。 | 砂粒・チャートを少量白色粒子を微量 | × | 良好 | 凹凸面：10YR8/4浅黄橙色 | |
| 126 | 1号瓦塔遺構 | 丸瓦 | 広端部左側 | 20 | (10.5) | (8.0) | 1.4～1.6 | 246.2 | 撫骨 | 布目痕。縦方向のヘラケズリ後ナデ。布目は縦1cm×横1cmで10本×12本。 | 縦方向のヘラケズリ後ナデ。広端部付近は多方向のヘラケズリ。下端部に棒状の圧痕。 | 広端面　ヘラケズリ後ナデ。側縁部　凸面に製作時の粘土が残り段になっている。平面部にヘラナデ。 | 白・赤色粒子を少量チャート・灰石を微量 | × | 良好 | 凸面：10YR8/3浅黄橙色　凹面：10YR7/2に赤い黄橙色 | 一部被熱痕。 |
| 127 | 1号瓦塔遺構 | 平瓦 | － | 20 | (11.6) | (10.6) | 1.0～1.3 | 138.0 | 泥条版築 | 縦および横方向のヘラケズリ。 | 縦および横方向のヘラケズリ。 | － | 白色粒子・砂粒・チャートを少量灰石を微量 | ○ | 良好 | 凸面：10YR8/4浅黄橙色　凹面：10YR7/6明黄褐色 | |

## 第５表　出土遺物計量表

| 出土地点 | | | 1号竪穴住居跡 | | | 2号竪穴住居跡 | | | 3号竪穴住居跡 | | | 4号竪穴住居跡 | | | 1号版築遺構 | | | 1号溝 | | | 調査区表土一括 | | | 1号拡張区 | | | 2号拡張区 | | | 総計 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 出土遺物 | | | 点数 | 個体数 | 重量(g) | 点数 | 個体数 | 重量(g) | 点数 | 個体数 | 重量(g) | 点数 | 個体数 | 重量(g) | 点数 | 個体数 | 重量(g) | 点数 | 個体数 | 重量(g) | 点数 | 個体数 | 重量(g) | 点数 | 個体数 | 重量(g) | 点数 | 個体数 | 重量(g) | 点数 | 個体数 | 重量(g) |
| 縄文時代 | 縄文土器 | 深鉢(屋敷) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 8.6 | | | | | | | 1 | 1 | 8.6 |
| | | 深鉢(中ー後期) | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 12.3 | | | | | | | 1 | 1 | 14.3 | | | | 2 | 2 | 26.6 |
| | | 深鉢(本明) | | | | | | | | | | | | | | | 5 | 5 | 62.5 | | | | | | | | | | | 5 | 5 | 62.5 |
| | 小計 | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 17.9 | | | | 1 | 1 | 8.6 | 1 | 1 | 14.3 | | | | 3 | 3 | 40.7 |
| 弥生時代 | 弥生土器 | 甕 | | | | | | | | | | | | | 4 | 3 | 93.4 | | | | | | | | | | | | | 4 | 3 | 93.4 |
| | | 鉢 | | | | | | | | | | | | | 5 | 3 | 44.3 | 1 | 1 | 17.2 | | | | | | | | | | 6 | 4 | 61.5 |
| | 小計 | | | | | | | | | | | | | | 9 | 6 | 137.7 | 1 | 1 | 17.2 | | | | | | | | | | 9 | 7 | 154.9 |
| 古墳時代末～奈良・平安時代 | 須恵器 | 甕 | 2 | 2 | 435 | | | | | | | | | | 20 | 13 | 617.8 | | | | | | | | | | | | | 22 | 15 | 261.3 |
| | | 坏・椀類 | 4 | 4 | 452 | | | | 2 | 2 | 21.2 | | | | 11 | 8 | 122.5 | | | | 7 | 5 | 324 | | | | | | | 24 | 19 | 221.3 |
| | | 高台付坏 | 2 | 1 | 97.1 | | | | | | | 1 | 1 | 134.2 | 4 | 2 | 218.4 | | | | 7 | 5 | 324 | | | | | | | 7 | 4 | 449.7 |
| | | 高台付坏類 | | | | | | | | | | | | | 3 | 1 | 68.3 | | | | 7 | 5 | 324 | | | | | | | 10 | 6 | 100.2 |
| | | 蓋 | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 6.1 | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 6.1 |
| | | 高台付盤 | | | | | | | 4 | 1 | 346.3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | 1 | 346.3 |
| | | 高坏 | | | | | | | | | | | | | 6 | 3 | 271.4 | | | | | | | | | | | | | 6 | 3 | 271.4 |
| | | 鉢 | | | | | | | | | | | | | 2 | 1 | 102.1 | | | | | | | | | | | | | 2 | 1 | 102.1 |
| | | 甑 | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | 39.4 | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | 39.4 |
| | | 壺 | 7 | 4 | 156.4 | | | | 45 | 7 | 2,104.8 | | | | 23 | 19 | 669.6 | | | | | | | | | | | | | 75 | 30 | 2,930.8 |
| | | 甕 | 2 | 1 | 118.3 | | | | | | | | | | 5 | 3 | 334.6 | | | | | | | | | | | | | 7 | 4 | 452.9 |
| | | 瓶 | 5 | 5 | 107.2 | | | | 4 | 3 | 596.3 | | | | 75 | 47 | 3,754.7 | | | | 20 | 16 | 570.5 | | | | | | | 104 | 71 | 4,998.2 |
| | | 甕・壺類 | | | | | | | | | | | | | 12 | 8 | 310.1 | | | | | | | | | | | | | 12 | 8 | 310.1 |
| | | 器台 | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | 237.2 | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | 237.2 |
| | | 不明 | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 87.5 | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 87.5 |
| | 小計 | | 22 | 17 | 967.7 | | | | 55 | 13 | 3,028.6 | 1 | 1 | 134.2 | 161 | 109 | 6,362.5 | | | | 34 | 26 | 635.3 | | | | | | | 279 | 166 | 10,815 |
| | 土師器 | 甕 | | | | | | | 2 | 2 | 16.5 | | | | 111 | 52 | 1,149.6 | 17 | 1 | 177.3 | 9 | 8 | 90.7 | 4 | 1 | 26.3 | | | | 143 | 64 | 1,460.4 |
| | | 坏・椀類 | 4 | 3 | 21.5 | | | | 3 | 3 | 10.2 | | | | 144 | 101 | 1,148.7 | | | | 12 | 12 | 85.4 | 1 | 1 | 21.2 | 2 | 2 | 15.1 | 166 | 122 | 1,298.5 |
| | | 高坏 | | | | | | | | | | | | | 2 | 1 | 44.1 | | | | | | | | | | | | | 2 | 1 | 44.1 |
| | | 鉢 | | | | | | | | | | | | | 2 | 1 | 93.5 | 31 | 1 | 1,004.2 | | | | | | | | | | 33 | 2 | 1,097.7 |
| | | 甑 | | | | | | | | | | | | | 13 | 4 | 630.0 | | | | | | | | | | | | | 13 | 4 | 630.0 |
| | | 壺 | 54 | 33 | 894.6 | | | | 36 | 12 | 1,025.2 | | | | 1,178 | 669 | 36,810 | 78 | 14 | 9,944.5 | 75 | 75 | 349.3 | 8 | 8 | 119.7 | 1 | 1 | 8.3 | 1,430 | 812 | 48,972.6 |
| | | 甕・壺類 | | | | | | | | | | | | | 296 | 188 | 2,320.1 | | | | 50 | 50 | 258.0 | | | | | | | 296 | 238 | 2,578.1 |
| | 小計 | | 58 | 36 | 916.1 | | | | 41 | 17 | 1,051.9 | | | | 1,805 | 1,016 | 42,020.0 | 126 | 16 | 11,126.0 | 146 | 145 | 783.4 | 13 | 10 | 167.2 | 3 | 3 | 9.8 | 2,072 | 1,243 | 56,074.4 |
| 鉄製品 | 鉄鏃 | | 1 | 1 | 71 | | | | | | | | | | 3 | 3 | 235 | | | | 2 | 2 | 35.2 | | | | | | | 6 | 6 | 65.3 |
| | | 鉄釘 | 5 | 5 | 392 | | | | | | | 1 | 1 | 64.2 | 17 | 17 | 597.7 | | | | 2 | 1 | 45 | | | | | | | 25 | 24 | 702.9 |
| | 小計 | | 6 | 6 | 463 | 2 | 1 | 29.4 | | | | 1 | 1 | 64.2 | 20 | 19 | 832.0 | | | | 4 | 3 | 80.2 | | | | | | | 31 | 30 | 768.2 |
| | 小計 | | 86 | 59 | 1,546.1 | 2 | 1 | 29.4 | 96 | 30 | 4,086.5 | 2 | 2 | 198.4 | 1,972 | 1,146 | 48,990.2 | 126 | 16 | 11,126.0 | 184 | 174 | 1,458.4 | 13 | 10 | 167.2 | 3 | 3 | 9.8 | 2,586 | 1,441 | 66,005.0 |
| | 平瓦 | 長磚状ナデ調整 | | | | | | | 6 | 1 | 299.4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 | 1 | 299.4 |
| | | ヘラケズリ | | | | | | | 2 | 2 | 410.6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | 410.6 |
| | | 縄ナデ調整 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 斜交縄叩き | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 138.0 | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 138.0 |
| | | 段状 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 軌跡・調整不明 | | | | | | | 2 | 2 | 31.4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | 31.4 |
| | 小計 | | | | | | | | 12 | 6 | 1,864.6 | | | | 1 | 1 | 138.0 | | | | | | | | | | | | | 13 | 7 | 2,002.6 |
| | 丸瓦 | ヘラケズリ | | | | | | | 2 | 1 | 1,123.2 | | | | 1 | 1 | 246.2 | | | | | | | | | | | | | 3 | 2 | 1,369.4 |
| | | 縄ナデ調整 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 小計 | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 246.2 | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 246.2 |
| | 軒丸瓦 | ヘラケズリ調整 | | | | | | | 2 | 1 | 791.1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 1 | 791.1 |
| | 小計 | | | | | | | | 2 | 1 | 791.1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 1 | 791.1 |
| 小計 | | | | | | | | | 14 | 7 | 2,655.7 | | | | 2 | 2 | 384.2 | | | | | | | | | | | | | 16 | 9 | 3,039.9 |
| 中・近世陶磁器 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 4.5 | | | | | | | 1 | 1 | 4.5 |
| 小計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 4.5 | | | | | | | 1 | 1 | 4.5 |
| 時代不明 | 獣 | 獣熱あり | | | | | | | 4 | 4 | 260.2 | | | | 27 | 27 | 6,251.9 | | | | 2 | 1 | 33.2 | 1 | 1 | 60.2 | | | | 28 | 29 | 6,812.1 |
| | | 獣熱なし | | | | | | | | | | | | | 83 | 83 | 15,017.1 | | | | | | | | | | | | | 83 | 83 | 15,017.1 |
| 小計 | | | | | | | | | 5 | 5 | 778.3 | | | | 80 | 80 | 21,969.0 | | | | 2 | 1 | 33.2 | 1 | 1 | 60.2 | | | | 83 | 82 | 21,862.4 |
| 総計 | | | 86 | 59 | 1,530.1 | 2 | 1 | 29.4 | 110 | 37 | 6,736.2 | 2 | 2 | 198.4 | 1,968 | 1,230 | 71,460.9 | 127 | 17 | 11,143.2 | 188 | 177 | 1,504.7 | 15 | 12 | 241.7 | 3 | 3 | 9.8 | 2,598 | 1,548 | 92,854.4 |

# 第４章　総括

本地点（第79次調査地点）は国指定史跡「台渡里廃寺跡」の観音堂山地区および南方地区の東西に広がる台渡里官衙遺跡の宿屋敷地区に位置しており，2008年（平成20年）に発掘が実施された第39次調査地点の２mほど南側に隣接している。今回の調査では奈良時代後葉～平安時代前葉を中心とする竪穴住居跡４軒，掘立柱建物跡２棟，版築遺構１個所，古代以降の所産と思われる溝１条，柵列遺構１条，ピット列１個所，および縄文時代，弥生時代，近世以降の遺物などが確認されたが，本章では第39次調査地点の調査成果をふまえつつ，本地点を舞台にした土地利用の変遷を概観する。

## １　奈良時代以前

縄文土器片８点，弥生土器片９点が出土している。いずれも１号版築遺構を中心に確認されたものであり，当該期に属する遺構は未検出に終わっている。縄文土器は早期・中期・後期土器などが含まれるが，型式を特定できるものはない。弥生土器も細片が多く，型式を特定するまでには至らなかった。北側の第39次調査地点でも縄文土器片12点，弥生土器片６点が出土しているが，型式はいずれも不明であり，同時期の遺構の分布も確認されていない。

## ２　古墳時代末葉～奈良時代前葉

本地点における土地利用がもっとも盛んであった時期であり，竪穴住居跡４軒，掘立柱建物跡２棟，版築遺構１個所，およびそれらに伴う多数の須恵器と土師器，瓦，金属製品などの出土が確認されている。遺構のおおよその時期別内訳は以下の通りである。

奈良時代後葉以前・・・・・・・・２号竪穴住居跡，１号掘立柱建物跡

奈良時代後葉・・・・・・・・・・・４号竪穴住居跡

奈良時代後葉～平安時代前葉・・・１号竪穴住居跡

平安時代前葉以前・・・・・・・・・２号掘立柱建物跡

平安時代前葉・・・・・・・・・・・３号竪穴住居跡，１号版築遺構

時間的にもっとも古い位置を占めるのは奈良時代後葉以前に比定される２号竪穴住居跡と１号掘立柱建物跡である。いずれも奈良時代後葉～平安時代前葉の１号竪穴住居跡の下面に営まれていたものであるが，正確な時期を特定できるような遺物は両遺構とも出土していない。切り合い関係をみると，上面を２号竪穴住居跡に切られる１号掘立柱建物跡が古く，２号竪穴住居跡が新しい。これに続くのが両遺構の上面に営まれていた１号竪穴住居跡であり，８世紀後葉から９世紀前葉を中心とする須恵器や土師器などの出土から奈良時代後葉～平安時代前葉の所産であったと考えられる。

１・２号竪穴住居跡は南西側の壁と床面の一部が確認されたのみであり，全容は不明であるが，北側で接する第39次調査地点の１区では１・２号竪穴住居跡とほぼ対応する位置から古墳時代末葉の所産と考えられる２軒の竪穴住居跡が検出されている。また，５号と８号の２軒の竪穴住居跡は上下で切り合う関係にあることも注目される。第39次調査は幅１mほどの細長いトレンチを主体とする発掘であり，確認された竪穴住居跡は本地点例にもまして部分的であることから，北側と南側のそれ

ぞれ重複する２軒の竪穴住居跡が同一住居の北側と南側を構成するものであったのかどうか，判断の難しい面もあるが，39 次調査の２軒と本調査の２号竪穴住居跡は軸方向を北西に傾けている点でも共通している。１区の西側に広がる第 26 次調査地点では 2005 年の調査で７世紀末葉～８世紀初頭の竪穴住居跡が多数検出されており，那賀郡衙周辺寺院および那賀郡衙の造営に伴う集落としての性格が推測されている。少なくとも２号竪穴住居跡は同様の性格を有していた蓋然性はきわめて高い。

１・２号竪穴住居跡に先行する１号掘立柱建物跡は１基のみの検出であるが，口径 120 ㎝，深さ 75 ㎝を測る大形ピットであり，平面は隅丸方形，断面は筒状を呈する。全体の規模や構造は不明であるが，本地点北側の第 39 次調査地点や第 36 次調査地点，第８次調査地点，西側の第 26 次調査地点では正倉の可能性などが想定される７世紀末葉～８世紀前葉の大型掘立柱建物跡が少なからず検出されており，本ピットも同様の掘立柱建物跡の一部であった可能性が高い。さらに，１号掘立柱建物跡の南側，３号竪穴住居跡の下部から検出された２号掘立柱建物跡についても同様の性格が指摘できる。本例も１基のみの確認であるが，平面隅丸方形ないし長方形を呈する口径 80 ㎝以上の大形のピットであり，９世紀前葉以前という時間的位置も正倉の可能性を想定させる。

当該期でもっとも新しい位置を占めるのが平安時代の所産と考えられる３号竪穴住居跡と１号版築遺構である。３号竪穴住居跡も部分的な調査であり，不明な点が多いが，一辺４～５m 以上を測る１・２号竪穴住居跡に比べると，いずれも３m 台と小形であり，軸方向をほぼ北に向けている点は注意される。３号竪穴住居跡では須恵器片 55 点，土師器片 41 点，軒丸瓦２点，平瓦 12 点が出土しており，特に瓦類の多くはカマド構築材として利用されていた。

１号版築遺構は一辺 15 m以上，深さ 0.6 ～ 1.2 m の方形ないし長方形の掘り込み内より版築状を呈する埋設土が検出されたものであり，軸方向を北西に傾けた版築の上・中・下層からは縄文土器６点，弥生土器８点をはじめとして，須恵器 167 点，土師器 1,685 点，平瓦１点，丸瓦１点，釘３点，鉄滓 17 点，礫 80 点という多くの遺物が出土している。須恵器や土師器は７世紀後葉を中心に８世紀前葉が含まれることから，遅くとも奈良時代前葉には現在みられるような姿を整えていたことは明らかであり，その性格も正倉などの建物建立のための掘り込み地業跡であった可能性が高い。ただし，確認されたのは版築遺構のごく一部であり，調査部分からは礎石の据え付け痕跡も未検出に終わったことから，本遺構の全容の解明は今後に残された課題の一つである。

## ３　奈良・平安時代

古代以降の所産と思われる遺構として１号溝，１号柵列，１号ピット列が検出されている。覆土の状態，１号版築遺構の上面を切るように構築された１号溝や１号柵列のあり方，１号版築遺構上面出土の９世紀と考えられる須恵器・羽釜２点の存在などを考慮すると奈良・平安時代を中心とする時期の所産であった可能性が高い。隣接する第 39 次調査地点において奈良時代後葉～平安時代の溝や柵列と思われる土坑群が検出されていることも以上の可能性を裏付けるものといえるが，各遺構ともごく一部が確認されただけであり，時期を特定できるような遺物の出土もみられなかったことから，正確な時期の解明は今後の課題である。

第 39 次調査地点では柵列は同時期の６号溝と並行するように走っているが，本地点の柵列につい

ては，1号版築遺構の北側を斜行するようにほぼ東西に延びること，土坑状の掘り込みを結ぶように布掘り状の掘り込みが続くことなどを除くと，不明な点が多い。1号ピット列についても1・2号掘立柱建物跡より小形の掘立柱建物跡であった可能性を指摘することができるが，現状ではあくまでも推測の域にとどまる。

注目されるのは上幅3.0 m以上，底幅0.7～1.2 m，深さ1.8 mを測る1号溝である。同様の大形の溝は前述した第39次調査地点6号溝において確認されており，通常の一般集落に伴う例とは異なる姿から官衙施設を囲繞する溝であった可能性が想定されている。本地点1号溝の性格を考える上からも看過できない資料であるが，近隣では中世に属する大形の溝も確認されているようであり，調査がごく一部にとどまっている現状では1号溝が中世まで下る可能性についても決して否定できないことを指摘しておきたい。

こうした諸制約はあるものの，先行する1号版築遺構の分布にとりわけ象徴されるように，7世紀後葉以降の本地点一帯が那賀郡衙の官衙域としての重要な機能と場を担っていたことはすでに明らかである。時間的には7世紀後葉～8世紀前葉例が中心となるが，寺院あるいは官衙に関連した遺物と思われる特徴的な須恵器高台付坏や高坏，大小多量の精緻な作りの須恵器蓋，湖西窯跡群産が推定される須恵器，漆塗り土師器坏，転用硯などの出土も，本地点を舞台にした特異な土地利用の一端をうかがわせる具体的な資料であったといってよい。「中寺」とも「仲寺」とも読めるヘラ書きが残された3号竪穴住居跡出土軒丸瓦のように，「那賀」を「中」や「仲」と記した墨書土器や文字瓦は第39次調査地点などでも多数確認されている。

### 4　中・近世

瀬戸・美濃系陶器塊の細片が1点出土している。表面採集されたものであり，正確な時期などは不明である。前述の1号溝については当該期の所産であった可能性が残されるとしても，溝1条，井戸跡2基，土坑1基，ピット群に加えて陶磁器，瓦質土器，砥石などが検出された第39次調査地点に比べると，両地点の差はきわめて大きいといってよい。（折原）

## 引用・参考文献


浅井哲也　1991「茨城県内における奈良・平安時代の土器（Ⅰ）」『研究ノート』1号　財団法人茨城県教育財団）

1992「茨城県内における奈良・平安時代の土器（Ⅱ）」『研究ノート』2号　財団法人茨城県教育財団）

伊藤廉倫　1994『茨城県水戸市　堀遺跡－住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告－』水戸市教育委員会

井上義安編　1992『水戸市アラヤ遺跡　北部地区老人福祉センター・デイサービスセンター建設に伴う文化財の調査報告書』水戸市アラヤ遺跡発掘調査会

井上義安・仁平妙子・千葉隆司・樫村宣行・石崎洋子・栗原芳子・会沢　仁　1995『水戸市堀遺跡』堀町住宅団地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　水戸市堀遺跡調査会

井上義安・千葉隆司　1995『水戸市台渡里廃寺跡　都市計画道路3・6・30号線埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市台渡里廃寺跡発掘調査会

井上義安・千葉隆司・樫村宣行　1995『水戸市堀遺跡　堀町住宅団地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市堀遺跡発掘調査会

井上義安・栗原芳子　1996『水戸市台渡里遺跡　共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会・空間計画工房

井上義安・蓼沼香未由・仁平妙子・根本睦子　1998『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書　平成10年度版』水戸市教育委員会

江幡良夫・吹野富美夫　1998「水戸市軍民坂遺跡出土の槌器」『常総台地』第14号　常総台地研究会

大森信英　1952「渡里村大字渡里字アラヤ遺蹟予備調査に於ける報告」『茨城高等学校史学部紀要』第一号　茨城高等学校史学部

小川和博・大湖敦志・川口武彦・本木琴周・渥美賢吾・関口慶久・株式会社京都科学　2008『大串遺跡（第7地点）介護老人保健施設建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』水戸市教育委員会

樫村宣行　1993『（仮称）水戸浄水場予定地内埋蔵文化財調査報告書　白石遺跡』財団法人茨城県教育財団

川口武彦・小松崎博一・新垣清貴編　2005『台渡里廃寺跡－範囲確認調査報告書－』水戸市教育委員会

川口武彦・渥美賢吾・本木琴周　2009『台渡里1－平成18年度長者山地区範囲確認調査概報－』水戸市教育委員会

川口武彦・色川順子・関口慶久・新垣清貴　2009『平成18年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市埋蔵文化財調査報告　第22集　水戸市教育委員会

川口武彦・色川順子・関口慶久・渥美賢吾・本木琴周・新垣清貴　2010『平成19年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市埋蔵文化財調査報告　第35集　水戸市教育委員会

古代生産史研究会シンポ事務局　1997『古代生産史研究会　’97シンポジウム　東国の須恵器－関東地方における歴史時代須恵器の系譜－』古代生産史研究会

佐々木義則　2001「茨城県における8･9世紀の須恵器褒概観」『婆良岐考古』23　婆良岐考古同人会）

佐々木藤雄・大橋　生・川口武彦・林　邦雄・渥美賢吾　2006『台渡里廃寺跡　一市道常磐17号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（2）－』水戸市教育委員会

佐々木藤雄・川口武彦・関口慶久・新垣清貴・渥美賢吾・本木琴周・林　邦雄・小野麻人・市瀬俊一・大橋　生　2007『アラヤ遺跡（第2地点）－市道常磐10号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』水戸市埋蔵文化財調査報告第12集　水戸市教育委員会

佐々木藤雄・林　邦雄・川口武彦・関口慶久　2008『台渡里遺跡（第39次調査）－公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』水戸市埋蔵文化財調査報告第15集　水戸市教育委員会

佐々木藤雄・林　邦雄・川口武彦・渥美賢吾・関口慶久　2008『渡里町遺跡（第5地点）－市道常磐31号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』水戸市埋蔵文化財発掘調査報告第16集　水戸市教育委員会

蓼沼香未由・川口武彦・池田敏宏・瓦吹　堅・黒澤彰哉・渥美賢吾　2004『台渡里廃寺跡－集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』水戸市教育委員会

# 写　真　図　版

調査区全景（北より）

調査区全景（南より）

図版2

1号テストピット東壁（西より）

1・2号竪穴住居跡（南より）

1・2号竪穴住居跡（西より）

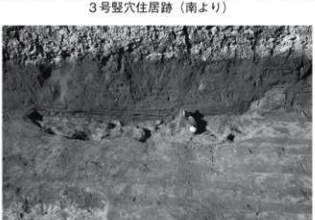
3号竪穴住居跡遺物出土状況（東より）

3号竪穴住居跡遺物出土状況（西より）

3号竪穴住居跡（東より）

3号竪穴住居跡（南より）

3号竪穴住居跡カマド（西より）



4号竪穴住居跡遺物出土状況（東より）

4号竪穴住居跡（東より）

図版4

1号掘立柱建物跡（南より）

2号掘立柱建物跡（東より）

1号版築遺構（南より）

1号版築遺構（北西より）

1号版築遺構セクション（西より）

1号版築遺構遺物出土状況（西より）

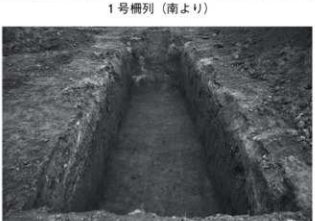
1号版築遺構遺物出土状況（西より）

1号溝（北より）

1号柵列（東より）

1号柵列（南より）

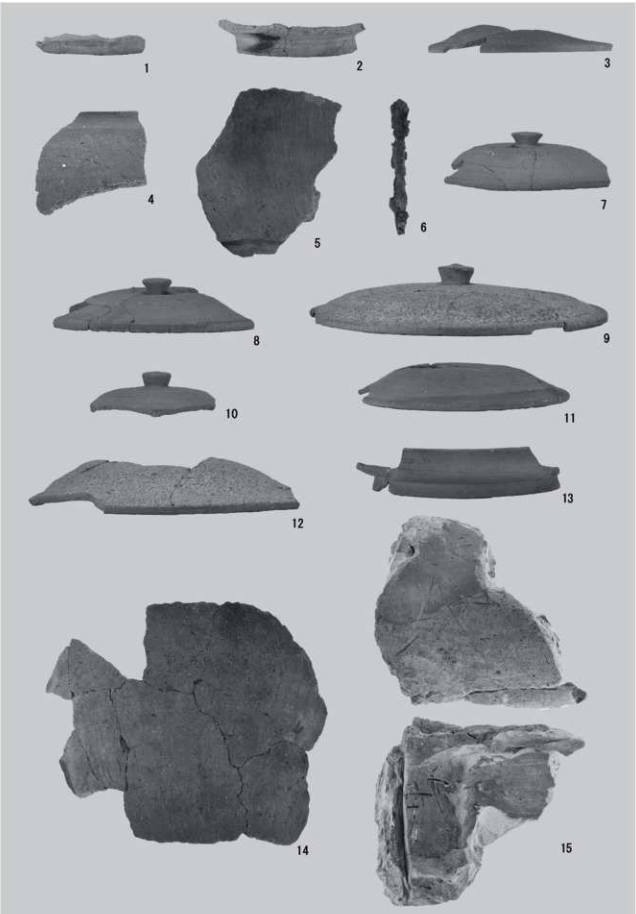
1号ピット列（南東より）



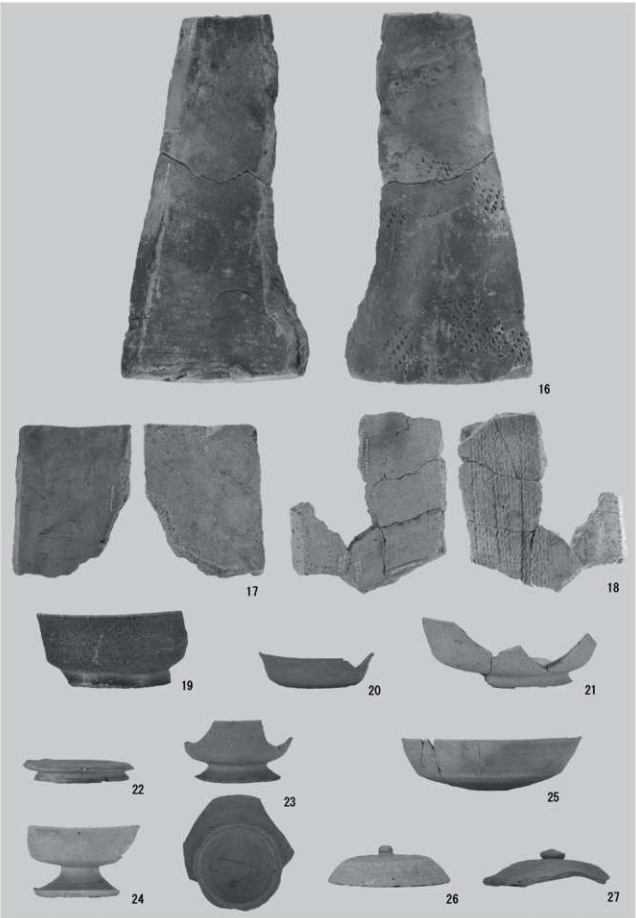
1号拡張区（南より）

2号拡張区（西より）

図版6

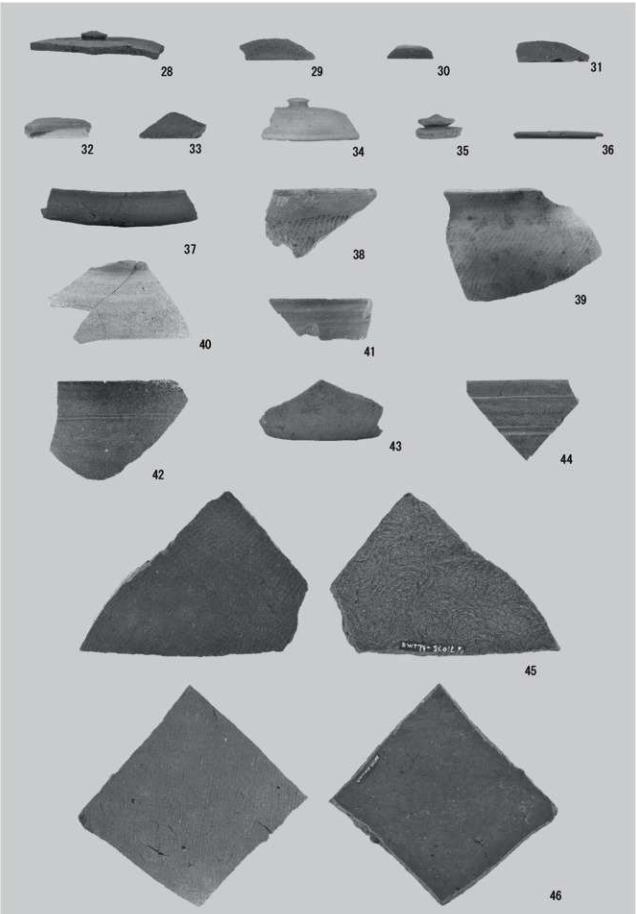



出土遺物（1）

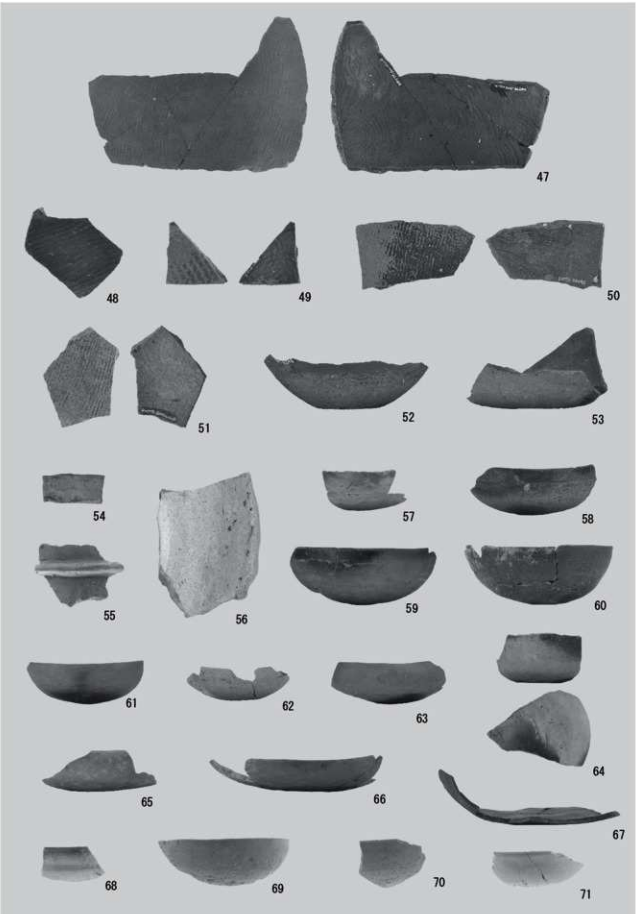



出土遺物（2）

図版8

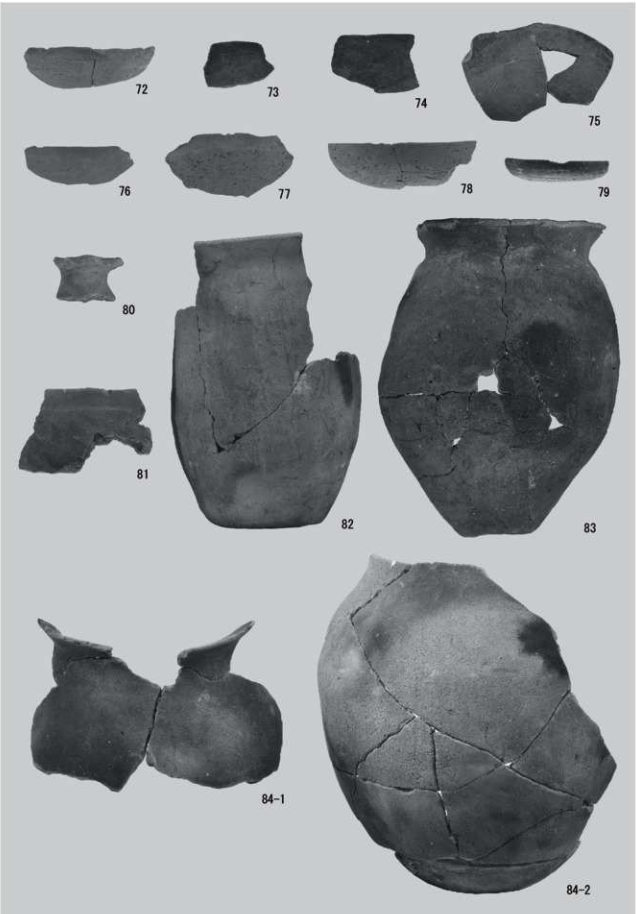



出土遺物（3）

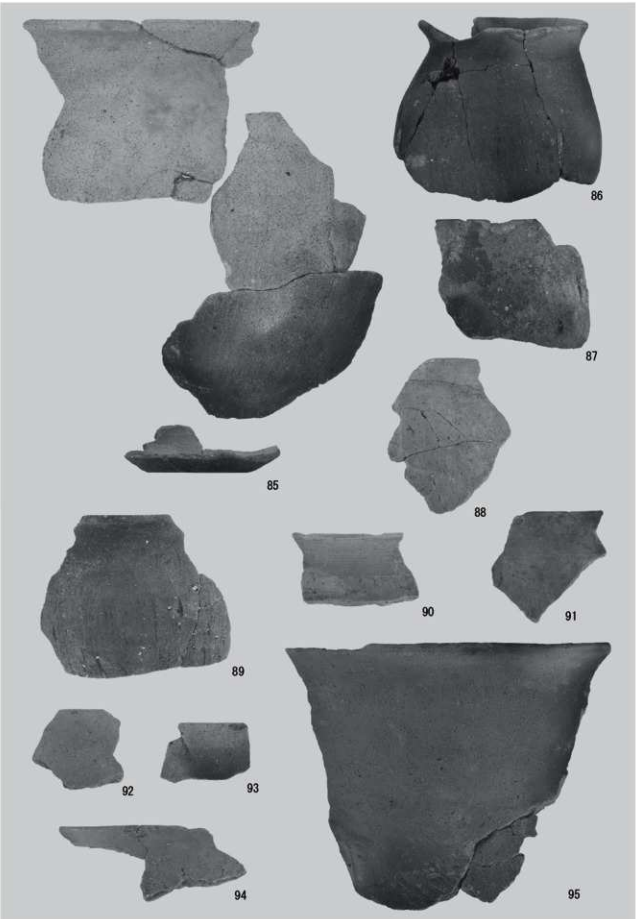

47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71

出土遺物（4）

図版 10

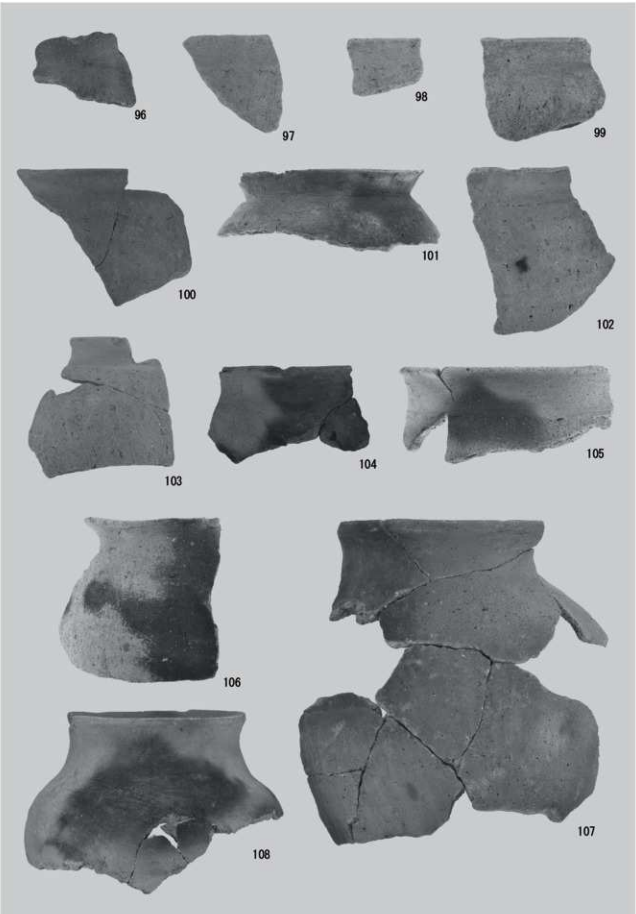



出土遺物（5）

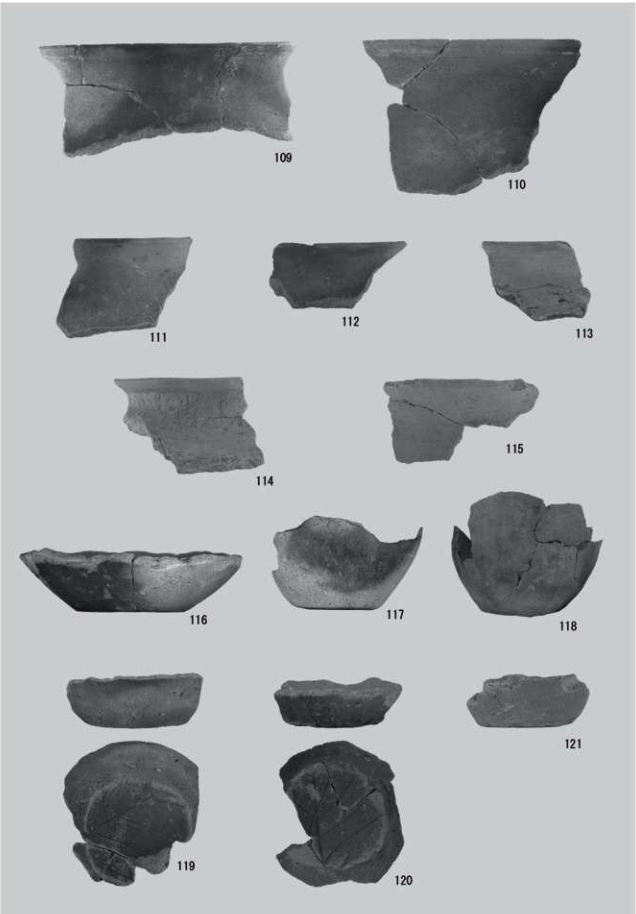



出土遺物（6）

図版 12

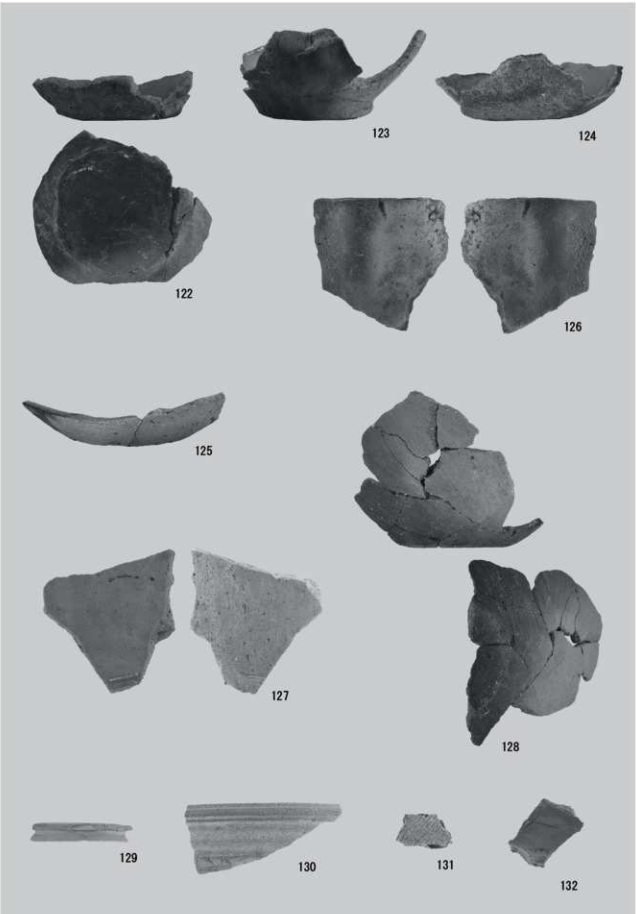



出土遺物（7）




出土遺物（8）

図版 14




出土遺物（9）

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | だいわたりにじゅうに |
| 書名 | 台渡里22 |
| 副書名 | 宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（台渡里第79次） |
| シリーズ名 | 水戸市埋蔵文化財調査報告第117集 |
| 編集者名 | 折原　覚 |
| 著者名 | 川口武彦・渥美堅吾・折原　覚 |
| 編集機関 | 水戸市教育委員会 |
| 所在地 | 〒310-8610　茨城県水戸市中央1-4-1　☎029-224-1111 |
| 発行年月日 | 2011（平成23）年12月28日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯<br>°′″ | 東経<br>°′″ | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| だいわたりかんがいせき<br>台渡里官衙遺跡 | みとしわたりちょうあざまえはら<br>水戸市渡里町字前原2867番地 | 08201 | 98 | 36°<br>24′<br>17″ | 140°<br>26′<br>15″ | 2011.1.20<br>～<br>2011.2.5 | 288.9㎡ | 宅地造成工事 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 台渡里官衙遺跡 | 集落跡<br>官衙跡 | 縄文時代 | なし | 土器 | 縄文土器は早・中・後期土器などが含まれるが，型式を特定できるものはない。弥生土器も細片が多く，型式は不明である。本地点において土地利用がもっとも盛んであったのは古墳時代末葉～奈良時代前葉であり，竪穴住居跡4軒，掘立柱建物跡2棟，版築遺構1個所，およびそれらに伴う多数の遺物の出土が確認されている。竪穴住居跡の時期はやや時間幅をもつが，軸方向を北西に向けるという共通性を有しており，近隣の同時期の住居群のあり方からみても那賀郡衙周辺寺院および那賀郡衙の造営に伴う集落として存在していた可能性が高い。掘立柱建物跡は1・2号住居跡および3号住居跡の下面よりごく一部が検出されたものであるが，掘方が1m前後を測る大形例であり，同じく近隣の大形掘立柱建物跡例からみて正倉を構成していた可能性が高い。版築遺構も一部が確認されただけであるが，住居跡同様，北西に軸方向を向けており，正倉などの建物建立のための掘り込み地業跡であった可能性が考えられる。「中寺」とも「仲寺」とも読めるヘラ書きが残された軒丸瓦をはじめとして，寺院や官衙に関連した遺物と思われる特徴的な遺物の出土も本地点を舞台にした土地利用の特異さを物語る資料といえる。続く奈良・平安時代の遺構としては版築遺構の上面を切る大形の溝と柵列，およびピット列などにその可能性を指摘することができるが，この時代の遺物はきわめて少なく，正確な時期は不明である。なお，前出の大形の溝については中世の所産であった可能性も残されるが，部分的な調査のため，現状では推測の域を出ない。当該期の遺物として瀬戸・美濃系陶器塊が出土しているが，細片であり，時期は不明瞭である。 |
| | | 古墳時代末葉<br>～<br>奈良時代前葉 | 竪穴住居跡4<br>掘立柱建物跡2<br>版築遺構1 | 須恵器<br>灰釉陶器<br>土師器<br>瓦<br>金属製品 | |
| | | 奈良時代<br>～<br>平安時代 | 溝1<br>柵列1<br>ピット列1 | 須恵器<br>瓦 | |
| | | 中世～近世 | なし | 陶器 | |

| 項目 | 遺物の取り扱い |
|---|---|
| 水洗い | ・すべて行った。 |
| 注記 | ・手書きによる。<br>例）DWT79S11-P1のように注記した。 |
| 接合 | ・接合は必要に応じて最小限行った。 |
| 実測 | ・遺物実測図は報告書掲載分についてのみ作成した。 |
| 台帳 | ・遺物台帳，図面台帳，写真台帳があり，検索が可能なように作成している。合計1冊（綴り）。 |
| 遺物保管方法 | ・出土遺物は，報告書使用と未使用に分け，遺物収納箱に納めた。各箱には収納内容を明記している。なお，未使用分については種別毎に分類，収納してある。 |

水戸市埋蔵文化財調査報告第 117 集

# 台渡里 22

－ 宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（台渡里第 79 次）－

印刷　平成 23 年 12 月 28 日
発行　平成 23 年 12 月 28 日

編　集　株式会社東京航業研究所
発　行　水戸市教育委員会
印　刷　関東図書株式会社
〒 336－0021
埼玉県さいたま市南区別所 3－1－10
TEL 048－862－2901